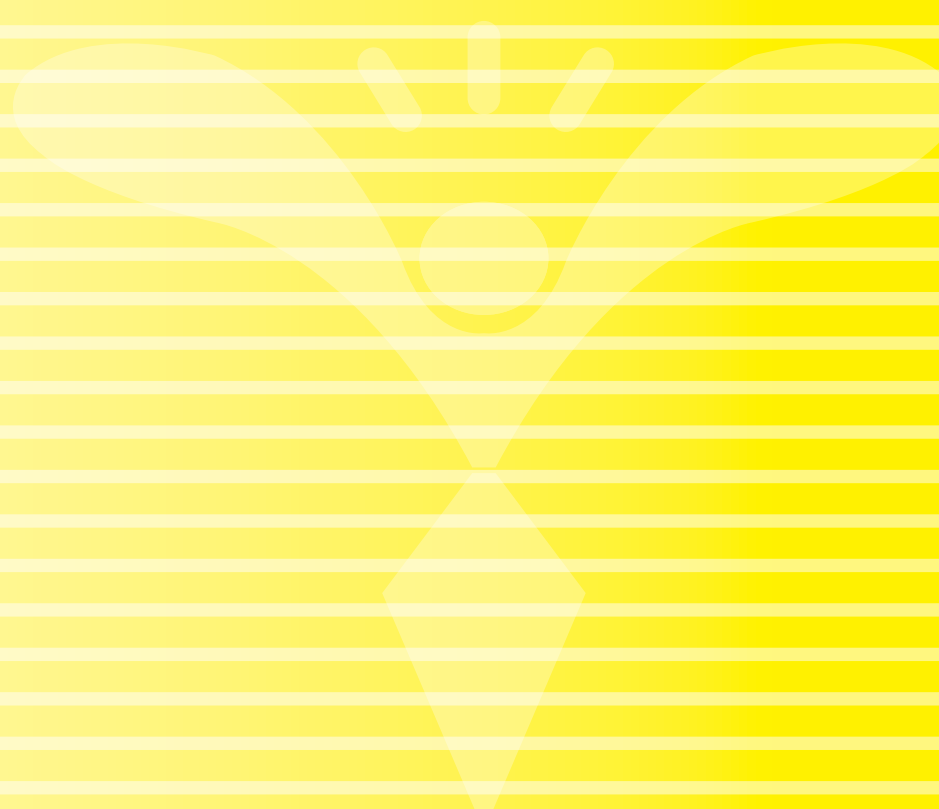


National Women's Education Center of Japan

平成27年度 独立行政法人 国立女性教育会館

主催事業等実施報告書



はじめに

独立行政法人国立女性教育会館は、我が国唯一の女性教育のナショナルセンターとして、女性教育指導者その他の女性教育関係者に対する研修、女性教育に関する専門的な調査及び研究等を行うことにより、女性教育の振興を図り、もって男女共同参画社会の形成の促進に資することを目的としています。

平成27年度は第3期中期目標期間の最終年度として、この期間のスローガンであった「研修」「調査研究」「情報」「国際連携」「教育・学習支援」の5つの有機的な連携に改めて思いを致すとともに、新たな第4期中期計画を視野に入れ、それを先取りする意味を込め、調査研究事業において新たな取組を始めました。

まず、「男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究」として、放送大学と連携し、オンラインコンテンツ教材を作成しました。また、平成27年に民間企業の正規職に就いた男女を5年間追跡調査するパネル調査を開始し、第1回調査結果の内容を『平成27年度男女の初期キャリア形成と活躍促進に関する調査報告書』としてとりまとめました。

このたび、これらの事業の成果をまとめ、『平成27年度国立女性教育会館主催事業等実施報告書』を作成しました。調査研究事業等の報告書と併せ、皆様に活用いただければ幸いです。

平成28年12月

独立行政法人国立女性教育会館
理事長 内海 房子

NATIONAL WOMEN'S EDUCATION CENTER



平成 27 年度国立女性教育会館作成資料

<出版物>

※『出版物』はホームページの「出版物・作成資料」(<http://www.nwec.jp/jp/publish/>)からダウンロードできます。



平成 27 年度 NWEC 国際シンポジウム 資料集

【テーマ：「ジェンダー平等と女性の経済的エンパワーメント」】平成 28 年 2 月 12 日に実施した「NWEC 国際シンポジウム」の報告資料集です。



2015 NWEC リーダーセミナーレポート

平成 27 年 9 月～10 月に実施した国際研修「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」参加者の研修成果をまとめたレポート『女性の起業と経済的エンパワーメント』を刊行しました（平成 28 年 3 月刊行）。



地域における女性の活躍推進実践ガイドブック

—地方公共団体や男女共同参画センターの新たな連携と役割

平成 27 年度「女性関連施設に関する調査研究」の報告書です。このガイドブックは、地方公共団体や男女共同参画センター等が、喫緊の政策課題である「女性の活躍推進」に取り組む上で必要とされる多様な分野との新たな連携について、その意義や方法等を、実践事例とともに示したものです（平成 28 年 3 月刊行）。



男女の初期キャリア形成と活躍促進に関する調査 報告書

平成 27 年に民間企業の正規職についての男女を 5 年間追跡するパネル調査の第一回調査結果について、男女別に集計し、入社 1 年目の男女キャリア意識を比較したものです（平成 28 年 3 月刊行）。



NWEC 実践研究

第 6 号ではテーマとして「女性のエンパワーメント」を取り上げました（平成 27 年 3 月刊行）。

目 次

はじめに

国立女性教育会館中期目標

平成27年度国立女性教育会館作成資料

I 研修事業

1	地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉	8
2	女性関連施設相談員研修	15
3	ダイバーシティ推進リーダー会議	21
4	女子中高生夏の学校2015 ～科学・技術・人との出会い～	25
5	男女共同参画推進フォーラム	38
6	企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	44
7	大学等における男女共同参画推進セミナー	48
8	女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）	54
9	学習オーガナイザー養成研修	58
10	女子大学生キャリア形成セミナー	64

II 調査研究事業

11	男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究	72
12	男女共同参画統計に関する調査研究	73
13	女性関連施設に関する調査研究	75
14	若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究	77

III 情報事業

15	情報資料の収集・整理・提供	80
16	女性情報ポータル及びデータベースの整備充実	82
17	図書のパッケージ貸出	83
18	女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化	84

IV 国際連携事業

19	アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	88
20	NWEC国際シンポジウム	91
21	課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」	93

V 教育・学習支援事業

22	大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進	100
----	------------------------------------	-----

VI ボランティアの受入れ・支援

23	国立女性教育会館ボランティアの活動支援	106
----	---------------------	-----

<参考資料>

独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成27年度）	112
-----------------------------------	-----

I 研修事業

- 1 地域における男女共同参画推進リーダー研修
 <女性関連施設・地方自治体・団体>
- 2 女性関連施設相談員研修
- 3 ダイバーシティ推進リーダー会議
- 4 女子中高生夏の学校2015 ～科学・技術・人との出会い～
- 5 男女共同参画推進フォーラム
- 6 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー
- 7 大学等における男女共同参画推進セミナー
- 8 女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）
- 9 学習オーガナイザー養成研修
- 10 女子大学生キャリア形成セミナー

1 地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉

- 1 趣 旨 地域における男女共同参画の推進を図るため、女性関連施設の管理職、地方自治体の男女共同参画推進責任者、団体等のリーダーを対象とした学習の場を提供する。男女共同参画推進リーダーとして必要な知見、マネジメント能力、ネットワーク構築力を向上させるための高度で実践的な研修を実施する。
- 2 主 題 「一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して」
- 3 特 徴
- ・男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践に結びつける。
 - ・男女共同参画の中核となるリーダーの関係力・連携力の向上を図る。
 - ・実践事例を重視し、課題解決につなげる。
 - ・研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ生かす。
- 4 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 5 共 催 NPO法人全国女性会館協議会（女性関連施設管理職コースにおける共催）
- 6 会 場 NWE C
- 7 期 日 平成27年5月20日（水）～5月22日（金） 2泊3日
- 8 対 象
- （1）女性関連施設管理職コース
公私立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等、男女共同参画社会の形成に向けた拠点としての施設の管理職
 - （2）地方自治体職員コース
都道府県・市区町村の男女共同参画推進責任者
 - （3）団体リーダーコース
地域で男女共同参画を推進する団体等のリーダー
- 9 参 加 者
- | | |
|--------------|-----|
| 女性関連施設管理職コース | 59名 |
| 地方自治体職員コース | 53名 |
| 団体リーダーコース | 29名 |

10 都道府県別参加者数 (名)

都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数
北海道	4	埼玉県	9	岐阜県	1	鳥取県	1	佐賀県	1
青森県	1	千葉県	5	静岡県	4	島根県	1	長崎県	2
岩手県	1	東京都	20	愛知県	5	岡山県	1	熊本県	9
宮城県	5	神奈川県	4	三重県	2	広島県	4	大分県	1
秋田県	1	山梨県	1	滋賀県	1	山口県	5	宮崎県	1
山形県	1	新潟県	5	京都府	1	徳島県	—	鹿児島県	—
福島県	2	長野県	4	大阪府	6	香川県	1	沖縄県	1
茨城県	3	富山県	1	兵庫県	3	愛媛県	1	無回答他	—
栃木県	5	石川県	2	奈良県	—	高知県	2	合 計	141
群馬県	3	福井県	3	和歌山県	1	福岡県	6		

11 プログラムデザイン

別紙添付

1.2 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
5月20日 11:00～11:50	プレ講義「男女共同参画推進の基礎知識」 （希望者のみ参加） 主に初任者を対象として、日本における男女共同参画推進の歴史的背景など基礎知識を学ぶ。	講師： 石崎 裕子（跡見学園女子大学観光コミュニティ学部准教授）	男女共同参画の基本的知識について、歴史や最新データ等を交えて分かりやすく説明することで、以後の各講義に対する理解を深めることができた。
13:10～13:30	（1）開会 ①主催者あいさつ ②共催者あいさつ ③プログラムの趣旨説明	①内海 房子（NWE C理事長） ②桜井 陽子（NPO法人全国女性会館協議会理事長） ③中光 理恵（NWE C事業課専門職員）	
13:30～15:00	（2）講演「一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して」 国の「女性活躍の推進」の現状と今後の方向性を知り、男女共同参画を推進するための方策について理解を深める。	講師： 樋口 美雄（慶應義塾大学商学部教授）	法律・意識・経済の面から、男女共同参画の視点での推移を確認しつつ、最新の統計データを用いて、長時間労働の是正やワークライフバランス、女性の活躍の取組が不可欠であるとの知見を得た。
15:20～16:40	（3）報告「男女共同参画社会に向けた今日の政策課題」 男女共同参画や女性活躍の促進に向けた施策についての説明と今後の方向性について理解を深める。	報告者： 市川 浩（内閣府男女共同参画局推進課上席政策調査員） 藤江 陽子（文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長） 河村のり子（厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課課長補佐） 関 万里（経済産業省経済産業政策局経済社会政策室係長）	内閣府より「女性の活躍促進」に関する施策の全体像と具体策について、文部科学省より男女共同参画の視点に立った早期からのキャリア教育や学び直し支援について、厚生労働省より少子化と労働力の関係、男性の家事分担、長時間労働の是正に向けての意識改革について、経済産業省より女性の活躍推進が企業の業績に大きく影響することを「ダイバーシティ経営企業100選」「なでしこ銘柄」の紹介を交えて説明があった。参加者は自組織に戻って活用できる具体的な国の施策の最新情報を得た。
16:50～17:30	（4）報告「第59回CSW(国連婦人の地位委員会)参加報告」 平成27年3月にニューヨークの国連本部で開催された、第59回CSWでの議論や採択文書について報告する。	報告者： 越智 方美（NWE C研究国際室専門職員） 渡辺 美穂（NWE C研究国際室研究員） 引間 紀江（NWE C事業課専門職員）	CSWの概要、北京会議から20年という節目の年として記念すべき今回のステートメントや政治宣言、サイドイベントについての解説と報告により、国際的な動向について最新情報を得ることができた。
19:30～20:30	（5）情報交換会 （希望者のみ参加） 全国からの参加者と交流し、今後の活動に役立てる。		参加者同士の情報交換や悩みの共有の場となり、2日目以降のグループワークに向けての情報交換の機会となった。

<p>5月21日 9:00～9:35</p>	<p>(6) 情報提供「NWE Cの事業展開について」 NWE Cの情報機能や活用法、平成27年度の研修事業計画についての情報を提供する。</p>	<p>森 未知(NWE C情報課専門職員) 櫻田今日子(NWE C事業課長)</p>	<p>NWE Cの研修事業計画や、女性教育情報センターの概要、Winet(ウィネット)等を紹介し、参加者が職場に戻っても活用できる資料検索の方法について情報を得た。</p>
<p>9:45～11:00</p>	<p>(7) 調査報告「女性たちの貧困～取材現場から見た実態」 「女性活躍」の一方で存在する「女性たちの貧困」について、実際の取材を通して見えてきた背景や現状、解決に向けての課題を共有する。</p>	<p>講師： 宮崎 亮希(NHK報道局社会番組部ディレクター) 村石多佳子(NHK報道局遊軍プロジェクト記者)</p>	<p>社会的な問題となってきた女性の貧困について、番組制作にかかわった講師により、取材を通して見えてきた問題とその背景についての課題を共有した。</p>
<p>11:15～12:15</p>	<p>(8) 討議「課題把握のためのディスカッション」 地域で女性の活躍を推進するための取組について、それぞれの立場から課題を把握し、明確化・共有化を図る。</p>	<p>報告者： 納米恵美子(公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会事業本部長) 櫻田今日子 藤岡喜美子(NPO法人市民フォーラム21・NPOセンター事務局長) コーディネーター： 西山恵美子(NWE C事業課客員研究員)</p>	<p>女性関連施設管理職コースでは、女性活躍促進と困難な状況にある女性の支援、自治体、団体へのアプローチの課題が示された。企業や他団体との連携、多様な資源を引きつけるための魅力的なビジョンを考えること等が提案された。 地方自治体職員コースでは、女性センターや団体との連携、庁内の他部署との積極的な連携・協働の必要性、自治体が全体のコーディネーター的役割を担うことや戦略的に動くこと等が提言された。 コーディネーターのまとめにより、参加者はコース別ワークショップに向けての課題整理の機会となった。</p>
<p>13:30～16:30</p>	<p>(9) コース別ワークショップ I 「男女共同参画の視点に立った女性活躍推進の課題に迫る」 事例報告に基づいてコースごとにグループワーク等を行い、女性の活躍推進における課題を把握し、方策を探る。 〈女性関連施設管理職コース〉 テーマ「女性の活躍推進と男性の働き方・暮らし方改革」 女性の活躍推進について、女性の就業支援と男性の働き方・暮らし方改革の両面からアプローチし、事例報告を踏まえて情報と問題意識を共有し、今後の事業展開への方向性を探る。</p>	<p>報告者： 岡本 峰子(札幌市男女共同参画センター長) 小山内世喜子(青森県男女共同参画センター・青森県子ども家庭支援センター館長) ファシリテーター： 仁科あゆ美(一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団理事兼統括ディレクター)</p>	<p>報告者からの話題提供を受け、自施設で実施している事業や課題について個別ワークシートにまとめた後、小グループにより模造紙と付せんを用いてその課題を整理・共有した。参加者にとっては個別または全体の課題を具体的かつ多面的に捉える機会となったとともに、それぞれ参加者同士の取組についての意見交換の場ともなった。</p>

	<p><地方自治体職員コース> テーマ「女性の活躍推進と施策の戦略的取組」 学校教育への具体的な働きかけやDV対策基本計画の策定を紹介し、庁内や外部との連携の方法を含め、女性活躍の推進について考える。</p> <p><団体リーダーコース> テーマ「今困難な状況にある女性の支援と女性のエンパワーメント」 生活困難を抱える女性への支援、企業や行政と協働した地域でのネットワーク構築に取り組む事例報告から、課題を把握し女性活躍の推進について考える。</p>	<p>報告者： 日高 照子(かごしま県民交流センター男女共同参画推進課長) 秋山 恵子(宇都宮市男女共同参画課長) ファシリテーター： 真邊 和美(元岡山市男女共同参画社会推進センター企画調整監)</p> <p>報告者： 藤木美奈子(一般社団法人WANA関西代表理事) 岡本 光子(NPO法人シーズネットワーク理事長) ファシリテーター： 野依 智子(福岡女子大学女性キャリア支援センター長)</p>	<p>事例報告を受け、それぞれの地域課題とともに各自治体共通の課題について認識することができた。小グループでは事例報告を基に、都道府県、市町村など近い立場でのグループ分けとしたことで、より深い悩みや意見を聞くことができ、参加者同士の情報交換の促進にもつながった。</p> <p>自分の組織・活動を振り返り、現在抱えている課題についてグループで共有した。その後の事例報告により、自組織の課題と共通する気づきを得ることができた。また、小グループでは事例報告を基に、意識啓発、地域への参画、女性のキャリア形成、DV、ワークライフバランスなどの課題ごとに分かれて、実践につながる活動案が話し合われた。</p>
16:45～17:30	(10) 情報提供 「女性センターの活用法」	<p>説明： 西本 祥子(北九州市立男女共同参画センター所長) 木須八重子(公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長)</p>	<p>行政と女性センター双方のトップとしての経験を生かした女性センターの活用法についての情報を得た。</p>
19:30～21:00	(11) 自由交流 (希望者のみ参加) 参加者がテーマごとに有志で集い、情報交換や交流を行う。		<p>テーブルごとにテーマを決め、自由に参加し、意見や情報を交換した。各コースを交えた交流の場にもなった。</p>
5月22日 9:00～11:30	<p>(12) コース別ワークショップⅡ「男女共同参画の視点で課題を解決する事業を検討する」 男女共同参画の視点で課題を解決する事業のあり方について、コース別に検討しヒントを得る。</p> <p><女性関連施設管理職コース> テーマ「働き方の二極化と困難な状況にある女性への支援」 ワークショップⅠで話し合われた方向性をもとに、具体的な事業構築につなげる。</p>	<p>報告者： 佐藤加代子(秋田県中央男女共同参画センター長) ファシリテーター： 田端八重子(もりおか女性センター長)</p>	<p>前日に整理された課題を生かし、グループごとに事業案を作成した。参加者は男女共同参画の視点からの就業支援や女性支援事業について体験的に理解を深め、業務に活用できるヒントを得ることができた。</p>

	<p><地方自治体職員コース> テーマ「他組織との協働と実効性の高い取組」 ワークショップIで話し合われた方向性をもとに、具体的な事業構築につなげる。</p> <p><団体リーダーコース> テーマ「他組織との協働と実効性の高い取組」 ワークショップIで話し合われた方向性をもとに、具体的な事業構築につなげる。</p>	<p>ファシリテーター： 真邊 和美</p> <p>ファシリテーター： 野依 智子</p>	<p>前日のグループワークから出された課題について、具体的な事業案づくりに向けての作業を行い、対象へのアプローチなどについて話し合いを進め、参加者同士それぞれの課題に引きつけ議論を深めることができた。</p> <p>前日のグループワークから出された課題について、解決方法を探ることができた。また今後の実践について意見交換することで、今後の具体的な行動について議論を深めることができた。</p>
11:45～12:35	<p>(13) 全体会「課題の共有、連携・協働のために」 各コース別ワークショップで話し合われた報告を基に、男女共同参画を推進するため、連携・協働の視点から討議を行う。</p>	<p>報告者： 仁科あゆ美 真邊 和美 野依 智子 コーディネーター： 西山恵美子</p>	<p>コース別ワークショップでの討議内容について、各コースのファシリテーター及び参加者から報告と発表があった。全体で共有することにより、他のコースの様子を知ることができた。</p> <p>課題と今後の対応に対する共通認識をもつ一助となり、男女共同参画について理解が深まったと同時に、課題解決への具体的な取組の実行に向けて気運が高まった。</p>
12:35～12:40	(14) 閉会・アンケート記入		

1.3 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・共催者であるNPO法人全国女性会館協議会と協働でプログラムを企画し、NWECと全国女性会館協議会双方の人的ネットワークを活用し、女性関連施設のニーズや先進事例を収集し、企画に役立てた。
- ・「女性活躍推進」について、国の施策と個別の事例、理念と実践、行政と民間など、様々な切り口から多面的にとらえられるようにした。
- ・男女共同参画の初心者向けとして、男女共同参画の歴史と基礎知識を学ぶ「プレ講義」をプログラム開始前にオプションとして行い、研修の導入とした。
- ・全体に共通に必要な知識や情報は「講義」と「情報提供」により提供した。「コース別ワークショップ」では3コースに分かれ、それぞれの所属や立場に沿った課題についてワークショップ形式で実践的に学んだ。「課題把握」と「全体会」では、三者の立場の違いと共通課題を踏まえ、連携・協働関係を意識できるようにするなど、3日間の流れとねらいに沿って、どのような手法が効果的であるかを想定してプログラムを構成した。

1.4 プログラム全体で得られた知見

- (1) 男女共同参画推進の基礎知識の理解・課題把握をし、地域ニーズに即した課題の解決のための組織の在り方、連携方法等につながるヒント等を得ることができた。
- (2) 講演では、樋口氏から「女性活躍」を推進するためには、女性の就業継続が必要であり、男性の長時間労働の是正や家事分担、男女ともワークライフバランスが不可欠であるとの提言があった。また、「女性活躍」の一方で問題化している「女性の貧困」等、女性の抱える困難についてもNHKからの報告やワークショップのテーマとしても取り上げ、女性の置かれた光と影の両面にアプローチした。
- (3) NHK取材班による「女性たちの貧困」をテーマにした映像を交えた報告は、満足度も非常に高かった。

15 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度 97.0% (非常に満足44.3%、満足52.7%)
- (2) 参加者のプログラムの有用度 98.5% (非常に有用62.1%、有用36.4%)

16 今後の課題及び展望

- ・国の最新施策の報告では、例年実施している内閣府、文部科学省、厚生労働省に経済産業省も加えて連携を進め、参加者からも好評であった。今後はさらに多様な省庁から施策説明を求めたい。
- ・参加者の地域バランスについて、関東地区以外の参加が昨年度は11.1ポイント増となり、本年度はさらに5.1ポイント増え、全国からより幅広い参加を得た。奈良県と徳島県はここ数年参加者がいないので、地方自治体への広報を強化したい。
- ・地方自治体職員コースの参加者は初任者が多く、業務に必要な男女共同参画の視点や基礎的知識について年度当初に学ぶことができた。また担当者同士のネットワークづくりになる等、研修成果のさらなる活用にもつながるため、時期は適当であると考え。このコースでの参加者が増加傾向にあり、定員を増やすなど対策を考えたい。
- ・女性関連施設、地方自治体、女性団体・グループを地域における男女共同参画を推進する主体と位置づけ、その基幹的リーダーが一堂に会し、研修の場をもつことの意義は非常に大きい。しかし、近年はNPO法人などが女性関連施設の指定管理者となり、今まで参加していた団体リーダーコースから女性関連施設管理職コースに参加するコースを変更するなど、各コースの主体の参加がクロスオーバーしている様子も見受けられ、特にNPO法人などからの参加者の減少が見られる。今後は、団体リーダーコースの広報について見直しを加える等工夫したい。



講演「一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して」



調査報告「女性たちの貧困」



コース別ワークショップ



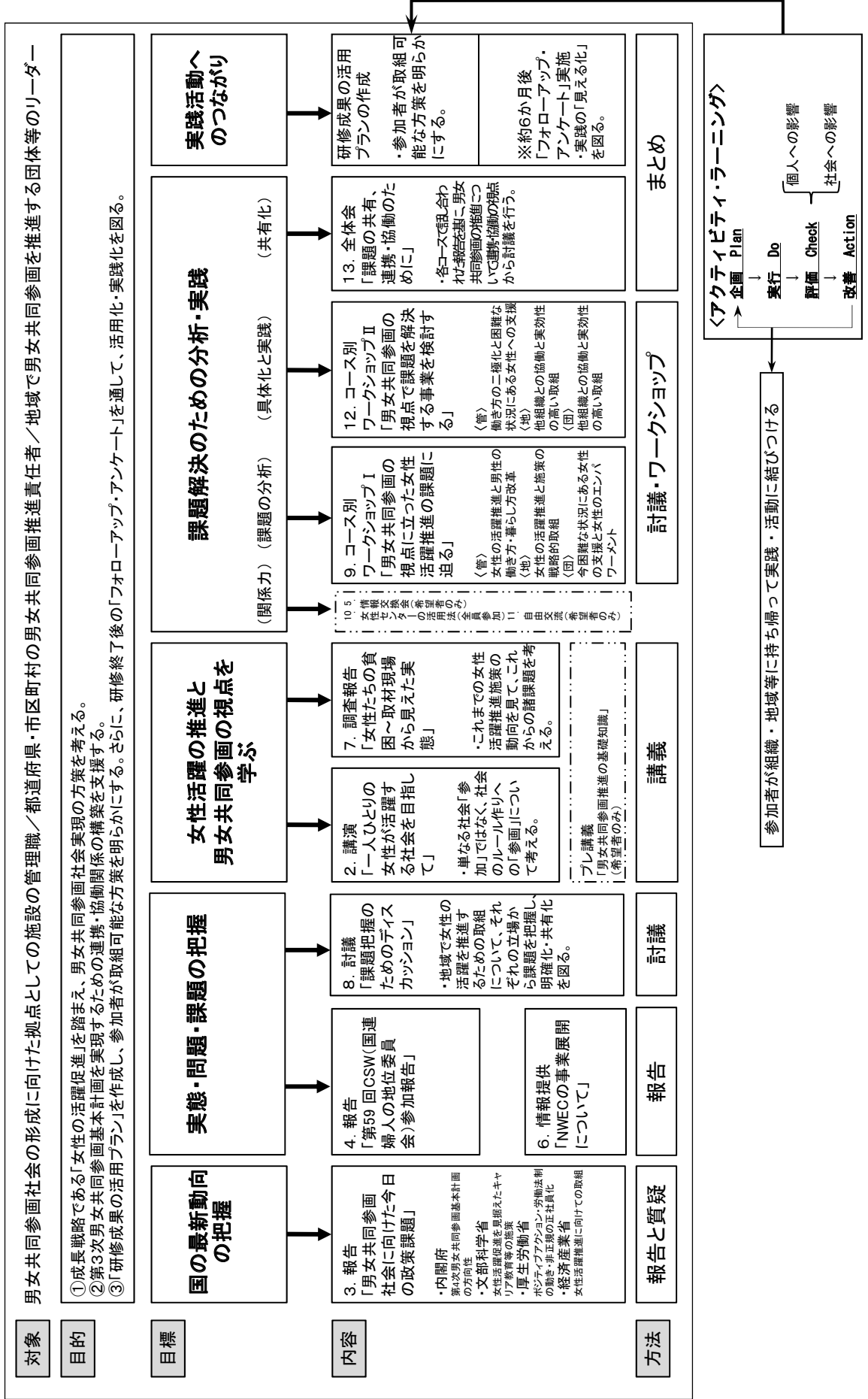
全体会

平成27年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修く女性関連施設・地方自治体・団体」プログラムデザイン

【プログラムのねらい】

- ・男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践力に結びつける。
- ・男女共同参画の中核となるリーダーの関係力・連携力・連携力の向上を図る（グループ・ワーク、交流の重視）。
- ・実践事例を重視し、課題解決につなげる。
- ・研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ生かす。

テーマ：「一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して」



2 女性関連施設相談員研修

- 1 趣 旨 女性関連施設の相談員を対象に、女性のエンパワーメント支援と女性に対する暴力や貧困などの喫緊の課題解決を目指して、相談者への理解の深化や必要な知識・技能習得、関係機関との連携促進を図る。複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上に向けた専門的・実践的研修とする。
- 2 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 3 会 場 NWE C
- 4 期 日 平成27年6月10日（水）～6月12日（金） 2泊3日
- 5 対 象 公私立の女性会館・女性センター、男女共同参画センター等の女性関連施設において、女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員
- 6 参加者 97名

7 都道府県別参加者数

(名)

都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数
北海道	1	埼玉県	5	岐阜県	3	鳥取県	3	佐賀県	1
青森県	1	千葉県	7	静岡県	8	島根県	1	長崎県	4
岩手県	2	東京都	6	愛知県	2	岡山県	1	熊本県	1
宮城県	1	神奈川県	—	三重県	—	広島県	1	大分県	1
秋田県	1	山梨県	1	滋賀県	—	山口県	3	宮崎県	5
山形県	1	新潟県	3	京都府	—	徳島県	2	鹿児島県	—
福島県	4	長野県	6	大阪府	2	香川県	—	沖縄県	1
茨城県	1	富山県	—	兵庫県	1	愛媛県	1	無回答他	—
栃木県	4	石川県	1	奈良県	—	高知県	1	合 計	97
群馬県	5	福井県	2	和歌山県	—	福岡県	3		

8 プログラムデザイン

別紙添付

9 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
6月10日 13:15～13:30	(1) 開会 ①主催者あいさつ ②プログラム説明	①内海 房子 (NWE C 理事長) ②佐伯加寿美 (NWE C 事業課専門職員)	
13:30～15:00	(2) 講義「男女共同参画の視点に立った女性相談とは」 女性関連施設における相談業務について、女性が抱える課題と女性のエンパワーメントの視点から学ぶ。	講師：須藤八千代 (愛知県立大学名誉教授、大阪市立大学人権問題センター特別研究員)	男女共同参画の視点から「相談」の意味と意義の重要性について、あらためて理解を深めた。相談者のエネルギーになる相談のためには組織的な対応が必要であること、また、男性相談への需要も高まっていることも指摘さ

15:15～17:15	<p>(3) 講義「女性相談の実態と支援に関する法知識」 実際によくある相談事例などを交えながら、関連機関との連携方法や法的措置など、相談員として知っておくべき法知識を学ぶ。</p>	<p>講師：白石美奈子（とらすと法律事務所弁護士、横浜弁護士会犯罪被害者支援委員会委員長）</p>	<p>れ、今後の課題として共有した。 様々な事例から相談者に寄り添った対応の仕方について学んだ。また、実際の書式を使いながら調停での進め方等について具体的、かつ実践的な解説があり、相談員としての知見を広めるのに役立った。</p>
	<p>(4) オプションプログラム「情報交換会」（希望者のみ）</p>		<p>相談員相互のネットワークづくりや抱える問題の共有等に役立った。</p>
6月11日 9:00～9:30	<p>(5) 情報提供「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」 女性情報ポータルWinet（ウィネット）と女性教育情報センターの紹介を通じ、相談事業に役立つ情報の活用について情報提供する。</p>	<p>森 未知（NWE C情報課専門職員）</p>	<p>Winet の活用方法では実際の画面操作を見ながら説明を受け、書籍、雑誌、統計データ、専門家情報など相談業務に役立つ多岐にわたる情報収集の方法についてヒントを得た。</p>
9:45～11:45	<p>(6) 講義「女性と貧困」 現代の複雑な社会構造の背景を学び、女性や子どもを取り巻く貧困について理解を深め、支援の仕方を探る。</p>	<p>講師：川原 恵子（東洋大学社会学部講師）</p>	<p>日本社会が、過度に「家族」に頼っている文化的、社会的制度が日本で貧困が進んでいる原因であるとの知見を得、「助けて」と言える社会をつくるための支援や方策の必要性を学んだ。</p>
13:00～14:30	<p>(7) 講義「子どもへのDVと母親支援」 児童虐待や母親へのDVを目撃した子どもの心のケア、母親への援助や支援等を考える。また諸機関との連携についても学ぶ。</p>	<p>講師：春原 由紀（武蔵野大学名誉教授）</p>	<p>DVを受けた子どものケアについて学ぶとともに、DVの起きる背景についての理解を深めた。またDV被害に「パイの分割はない（被害者に責任はない）」との話に、被害者支援の実態と方策についてその課題と対応を学んだ。</p>
14:45～17:15	<p>(8) 分科会 1 「当事者の課題別ケース検討」 課題を抱える当事者に対して実際にどのように支援をしていったらよいか、課題別コースに分かれて、講義とワークショップで学ぶ。 A：「人間関係に関する相談者への支援」 夫婦、子ども等の家族の問題や職場や男女間、近隣等に関する相談から見えてくる女性が抱える背景や課題を考える。また人との関係性を巡る問題をどうとらえ、女性への支援につなげるかについて学ぶ。</p>	<p>講師：景山ゆみ子（前名古屋市男女平等参画推進センター相談担当主幹）</p>	<p>相談の多くは夫婦や親子、仕事関係等の人間関係に集約されることから、関係性に潜む背景や課題について学んだ。次に、小グループに分かれ、参加型で実際の相談例から支援方法の知見を広げた。</p>

	<p>B：「DV・性暴力の社会的構造と心理的背景」 配偶者等からの暴力被害について、フェミニストカウンセリングの視点から、相談員が理解しておくべき社会的な構造やその背景を学ぶ。</p> <p>C：「DV・性暴力被害からの回復自立支援」 配偶者暴力相談支援センター等における事例をとおして、支援理念、対応の仕方、相談者のエンパワメントにつなげる支援を学ぶ。</p> <p>D：「子どもの心のケア（講義及び施設見学）」 「子どもの心のケアハウス嵐山学園」に入所している児童生徒が適切な教育を受けられるよう設置された学園内教室を見学。心理面・学習面・生活面でケアを学ぶとともに関係機関との連携について学ぶ。</p>	<p>講師：平川 和子（東京フェミニストセラピシーセンター所長）</p> <p>講師：近藤 恵子（NPO法人全国女性シェルターネットワーク理事）</p> <p>講師：岩崎 広巳（埼玉県立東松山特別支援学校こどもの心のケアハウス嵐山学園内教室教頭）</p>	<p>暴力の種類と構造、被害者の心的プロセスなど社会的構造について理解を深めた。また、事例検討を通じ、フェミニストカウンセリングの視点から、二次被害を防ぐ対応のポイントを学んだ。</p> <p>DVからの自立支援には、相談から自立までの長期間の支援が必要であることから、長期的、多様な観点から、ともに寄り添う支援とエンパワメントの方法を参加型で学習した。</p> <p>DV被害を受けた子ども一人ひとりに対し、支援チームを組んで対応する取組方法などを学んだ。また、直接学校施設を見学し、生徒の学習、生活、心身等のケアや支援の実際を知る機会となった。</p>
19:00～20:30	<p>（9）オプションプログラム「癒しの時間 ～クリスタルボウルで癒されよう」（希望者のみ） 演奏したり、聞いたりすることで心身のリラクゼーションに効果があるといわれている大きささまざまなクリスタルボウル（水晶でできた楽器）の音色を体験。</p>	<p>講師：菊地 潤佳・小倉由美子（クリスタルボウル演奏家）</p>	<p>クリスタルボウルの心地よい音色での演奏中、床に寝ころび、日ごろの相談員としての緊張から体を緩め、心身のリラクセスを図った。</p>
6月12日 9:00～11:00	<p>（10）分科会2「適切な支援を行うための力量を身につける」 相談者への対応や問題解決を目指して、相談業務に役立つヒントや知識を学ぶ。</p> <p>A：「多文化共生社会への対応」 近年増えている在住外国人からの相談や国際結婚による家族間の相談についてその背景を知る。また実際の相談事例の紹介も踏まえながら、生活、文化についても理解を深め、今後の対応に必要な知識、連携について学ぶ。</p> <p>B：「ネット暴力の実情と防止策」 インターネットやソーシャルネ</p>	<p>講師：加山 勤子（公益財団法人静岡県国際交流協会総務課長） 石井ナナエ（埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センター理事）</p> <p>講師：及川 直美（埼玉県警察本部子ども女性安</p>	<p>在住外国人からの相談についての事例を検討し、その背景にある社会的、文化的課題を整理、共有、理解することで、支援の意義を学び、実践力を養った。また外国人相談者に対して、外国人相談員と女性相談員の連携、関係各機関との連携を推進していく方策等についてヒントを得た。</p> <p>近年のストーカー事案の検挙及び認知件数、警察の対応におけ</p>

	<p>ットワーキングサービス（SNS）を介した女性に対する暴力やストーカー被害の実情と、その防止策について学ぶ。</p> <p>C：「配偶者からの暴力被害の相談の受け方と相談員のメンタルヘルス」</p> <p>配偶者からのDV相談にあたっての留意点や心の回復について学び、相談員の二次受傷などメンタルヘルスに関する知識も学ぶ。</p>	<p>全対策課課長補佐)</p> <p>講師：竹下小夜子（さよウィメンズクリニック院長)</p>	<p>る基本姿勢、保護対策の理解を深めた。インターネットやSNSに関わる事例報告から対応や支援の方法を学んだ。</p> <p>ワークシートを活用しながら、被害者への言葉のかけ方、接し方から、支援方法に至るまでを学び、実践力を身につけた。またストレスの新たな知見を得、チェックリストによる相談員の二次受傷やメンタルヘルスへの知識を深めた。</p>
11:15～12:25	<p>(11) 全体会</p> <p>相談業務のあり方や相談者のエンパワーメントにつながる支援についての意見交換と共有を行い、これからの相談業務の意義と役割を考える。</p>	<p>報告者：分科会2「適切な支援を行うための力量を身につける」講師</p> <p>進行：引間 紀江（NW EC事業課専門職員)</p>	<p>分科会2の講師による情報の共有と意見交換が行われた。全国のネットワーク、そして地域との連携の必要性、世代の切れ目ない支援の重要性などが改めて認識された。また相談者のエンパワーメントについても課題意識を共有することができ、相談員の力量形成に寄与した。</p>
12:25～12:30	<p>閉会・アンケート記入</p>		

10 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・参加者が研修成果をもち帰って事業に反映し、さらに波及効果を高めるために、研修を年度の早い時期に実施した。
- ・男女共同参画の視点を持ち、女性関連施設等の相談業務における実態把握・課題分析を行い、実践に役立つ手法を知り、実践力に結びつけるようにした。
- ・他部署・他機関との連携を考慮しながら支援方法を考えた。
- ・女性関連施設、配偶者暴力相談支援センター、民間団体等、様々な立場の相談員同士の情報交換、ネットワークづくりの重要性も考慮したプログラムを取り入れた。
- ・今年度は喫緊の課題であるDVに焦点をあてた。DVについては、二つの分科会を開催し、DVを受けた子どもについても、講義や分科会の中で理解の深化を図った。
- ・相談員自身のメンタルヘルス、近年増えている多文化社会における問題や課題、インターネット・SNS等を介したトラブルにおける相談等に関するプログラムを取り入れた。
- ・今年度は配偶者暴力相談支援センターにも広報した結果、申込者が定員を上回り、申込期限終了を待たずに締め切る状況であり、ニーズがうかがえた。

11 プログラム全体で得られた知見

- ・複雑・多様化する女性の悩みに対応するために必要な相談員の力量の向上を図ることができた。また、この研修を受けて自身に変容があったかというアンケートでは、学習者の93%が「あった」と回答し、相談者自身のエンパワーメントを高める研修となった。
- ・北海道から沖縄までの全国各地から、年代層も20代～60代、経験年数についても1年未満から10年以上と、様々な者の参加があった。そのため、多様な分科会や懇親会・オプションプログラムの設定などを提供することで、お互いの情報共有や気づき、ネットワークづくりができた。
- ・女性が抱える課題の背景に、社会的な制度や慣習などが深く関わっていることを意識できた。また、課題解決には他部署との連携や全国規模のネットワークの必要性、世代の切れ目のない支援の重要性が認識された。

・事例に基づいた参加型学習の充実により、具体的な場面での実践力（相談技能）、力量の形成に役立った。

1.2 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度 96.6% (非常に満足 61.8%、満足 34.8%)
(2) 参加者のプログラムの有用度 100.0% (非常に有用 74.4%、有用 25.6%)

1.3 今後の課題及び展望

女性関連施設における相談業務は、喫緊の課題であるDVや貧困以外にも、最近増加しているSNSに関する事案、多文化共生、男性相談等一般相談、キャリア相談も含め多岐にわたっている。そのため様々な角度、複合的な視点から知識・理解を深め、実践力を養うことが求められており、相談業務が円滑に進むための組織体制づくり等相談業務上の課題を取り上げることも重要である。

今後は、講義を通して多様な問題に対応する知識や理解を深化させ、またグループワークや事例分析を通じて意識の共有や実践力を身につけるとともに、全国から参加した相談員同士の交流を通じたネットワークづくりや情報共有により、相談者のみならず相談員自身のエンパワーメントを高めることに寄与するプログラムづくりが必要である。



基調講演「男女共同参画の視点に立った女性相談とは」



分科会1-B「DV・性暴力の社会的構造と心理的背景」



全体会



分科会2-B「ネット暴力の実情と防止策」

平成27年度「女性関連施設相談員研修」プログラムデザイン

【プログラムの特徴】

- ① 男女共同参画の視点をもち、女性関連施設等における相談業務に関する実態把握・課題分析を行い、実践に役立つ手法を知り、実践力に結びつける。
- ② 講義、ワークショップ、全体会を通じて、他部署・他機関との連携の重要性と女性の自立支援方を考える。
- ③ 女性関連施設、配偶者暴力相談支援センター、民間団体等の相談員の情報交換、ネットワーキングを支援する。
- ④ 配偶者からの暴力、女性の貧困や経済的自立等、喫緊の課題に関する知識・理解の深化を図り、そこから派生する課題の解決について学ぶ。
- ⑤ 事例に基づいた参加型学習を充実させることにより、具体的な場面での実践力(相談技能)の向上を図る。

対象	公私立の女性会館・女性センター、男女共同参画センター等の女性関連施設において、女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員								
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で男女共同参画を推進するために、女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに対応可能な相談業務の質の向上を図る。 ・配偶者等からの暴力、女性の貧困や経済的自立等喫緊の課題に関する様々な相談への対応を目指し、必要な知識の取得と技術の向上を図る。 ・相談からうかがえる、地域女性の実情・課題や解決の手立て等について相談担当者相互の情報交換と関係づくりを支援する。 								
目標	<h3 style="text-align: center;">実態・課題の把握、分析</h3> <p style="text-align: center;">(課題把握) (社会的背景・問題の本質への理解、課題把握、分析) (実態把握)</p>								
内容	<p>講義 「男女共同参画の視点に立った女性相談とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性関連施設における相談業務の意義と役割を、女性が抱える問題解決と女性のエンパワーメントの視点から学ぶ。 	<p>講義 「女性相談の実態と支援に関する法知識」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際によくある女性からの相談事例等を交えながら、関係機関との連携の仕方や法的措置等、相談員として知っておくべき法知識を学ぶ。 	<p>講義 「女性と貧困」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の複雑な社会構造の背景を学び、女性や子どもを取り巻く貧困について理解を深め支援の仕方を探る。 	<p>講義 「子どもへのDVと母親支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待や母親へのDVを目撃した子どもへのケアや、母親への援助や支援、諸機関との連携についても学ぶ。 	<p>情報提供 「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性情報ポータルサイトの説明及び女性教育情報センター等、相談事業に役立つ情報の活用 	<p>オプション 「情報交換会」</p> <p>オプション 「癒やしの時間」</p>	<p>分科会1 「当事者の課題別ケース検討」</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 人間関係に関する相談者への支援 B: DV・性暴力の社会的構造と心理的背景 C: DV・性暴力被害からの回復自立支援 D: 子どもの心のケア <ul style="list-style-type: none"> ・課題を扱う当事者に対しての具体的な支援体制や連携を講義とワークショップで学ぶ。 	<p>分科会2 「適切な支援を行うための力量を身につける」</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 多文化共生社会への対応 B: ネット暴力の実情と防止策 C: 配偶者からの暴力被害の相談の受け方と相談員のメンタルヘルス <ul style="list-style-type: none"> ・今後、適切な支援を行うための実践的な知識や連携を学び、相談員としての力量を身につける。 	<p>全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの相談業務の意義と役割を身につめ直し、学びや手法を実践する。
方法	講義	講義	講義	講義	説明	講義・ワークショップ	講義・ワークショップ	講義・ワークショップ	まとめ

3 ダイバーシティ推進リーダー会議

- 1 趣 旨 企業における女性の活躍促進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）を推進するリーダーを対象に実施する。
事例発表により、女性の活躍推進のために何をすべきかを考え、ディスカッションにより参加者一人ひとりが課題に向き合い解決の方向を探る。さらに、情報交流会において参加者同士による情報交換やネットワークづくりの場を提供する。
- 2 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 3 会 場 NWE C
- 4 期 日 平成27年7月10日（金）～7月11日（土）1泊2日
- 5 対 象 企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進リーダー
- 6 参加者 15名

7 都道府県別参加者数

（名）

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	—	埼玉県	3	岐阜県	—	鳥取県	—	佐賀県	—
青森県	—	千葉県	1	静岡県	—	島根県	—	長崎県	—
岩手県	—	東京都	7	愛知県	1	岡山県	—	熊本県	—
宮城県	—	神奈川県	—	三重県	—	広島県	—	大分県	—
秋田県	—	山梨県	—	滋賀県	—	山口県	—	宮崎県	—
山形県	—	新潟県	1	京都府	—	徳島県	—	鹿児島県	—
福島県	—	長野県	—	大阪府	—	香川県	—	沖縄県	—
茨城県	—	富山県	1	兵庫県	—	愛媛県	—	無回答他	—
栃木県	1	石川県	—	奈良県	—	高知県	—	合 計	15
群馬県	—	福井県	—	和歌山県	—	福岡県	—		

8 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
7月10日 13:15～13:30	(1) 開会 主催者あいさつ	内海 房子(NWE C理事 長)	
13:30～14:30	(2) 講演「女性の活躍を創出するために ～成功のカギは働き方改革と男性の家庭進出～」 女性の活躍推進が社会的な大きな流れになる一方で、日本ではなかなか進まない現実から、その問題点について国際的視野から分析しつつ、女性活躍の創出に必要なものについて学ぶ。	講師：パク・スックチャ (アパシヨナータ Inc. 代表)	講師からは海外での勤務経験等も踏まえ、ビジネスや雇用形態の変化から、ワークライフバランスとダイバーシティを進めなければいけない状況にあることが強調された。また、日本は両立支援等制度的には手厚いが、女性活躍は進んでいないことの原因として、会社は労働時間ではなく成果で評価すること、家庭での夫の家事参画が遅れていることが指摘された。

14:30～15:10	<p>(3) パクさんを囲んで 講師を囲み、ダイバーシティ推進について参加者の課題も踏まえて意見交換を行う。</p>	講師：パク・スックチャ	<p>多くの参加者から、「時短勤務」の考え方や「両立支援から活躍支援」に進まない現状、「家庭内での夫の家事分担」等活発な意見が出された。</p> <p>講師からは「性別に関わらない長時間労働の是正」「柔軟な勤務形態」「評価制度の改革」が必要であり、「男性が家庭責任を果たせるようになること」は個人、組織、社会のすべてに良いことであるとの指摘があった。</p>
15:30～17:00	<p>(4) ディスカッションⅠ グループに分かれて、参加者同士の背景や問題意識を共有するためにディスカッションを行う。</p>	<p>コーディネーター： 早川 枝里 (NWE C 事業課客員研究員) ファシリテーター： 引間 紀江 (NWE C 事業課専門職員) 佐伯加寿美 (NWE C 事業課専門職員) 櫻田今日子 (NWE C 事業課長)</p>	<p>リーダーにとって必要とされるコミュニケーション能力を高める目的で「アクションラーニング」の手法を学び、体験した。会議の際に短時間で結論を出せる手法としての有用性を知ることができた。</p> <p>グループごとの討論から参加者同士のコミュニケーションも深まり、問題が共有できた。</p>
17:30～18:00	(5) 女性教育情報センター見学	案内：森 未知 (NWE C 情報課専門職員)	女性関連の情報が数多く所蔵されている専門図書館を見学し、情報活用の方法を学んだ。
18:30～20:00	<p>(6) 情報交流会 (希望者のみ参加) 事例発表者をはじめ、他企業からの出席者とのネットワークを構築する。</p>		リラックスした雰囲気の中で、参加者同士による情報交換やネットワークづくりができた。
7月11日 9:00～10:00	<p>(7) 情報提供 統計データを基に、女性の活躍と男女共同参画の現状を把握する。</p>	講師：洲脇みどり (NWE C 事業課客員研究員)	国際的なデータを用いて最新の情報を知るとともに、他の国々との比較をしながら、企業の成長に女性の活躍が不可欠であることを理解した。
10:10～12:00	<p>(8) ディスカッションⅡ ダイバーシティ推進リーダーがリーダーシップをとる際に必要となるコミュニケーション能力を高めるための手法「アクションラーニング」について理解・体験する。</p>	<p>コーディネーター： 堀本麻由子 (NWE C 事業課客員研究員) ファシリテーター： 早川 枝里 引間 紀江</p>	「アクションラーニング」を用いて各企業の課題解決に向け、新たな気づきと、効率のよい会議の手法を学んだ。
13:00～15:00	<p>(9) ディスカッションⅢ 「アクションラーニング」を用いて、企業においてダイバーシティを推進する際に課題となる問題と、その解決策についてディスカッションを行う。</p>	<p>コーディネーター： 堀本麻由子 ファシリテーター： 早川 枝里 引間 紀江</p>	「アクションラーニング」の手法を活用し、参加者一人ひとりが各企業の課題に向き合い、課題解決の方策を探った。ダイバーシティを推進していく上での悩み、課題を共有した。
15:00～15:15	(10) 閉会・アンケート記入		

9 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

本リーダー会議は、「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施に向けて、企業における課題を把握し、その解決方策を探るための会議として、企業関係者の参加を募り、開催した。

企業におけるダイバーシティのリーダーに向けて、ワークライフコンサルタントのパク・スックチャ氏による働き方改革と男性の家事進出をキーワードとした国際的な視点も踏まえた講演を実施した。

また、ダイバーシティ推進の現場で多忙な中、多くの会議を進める参加者にとって、効率的な会議の手法を知ることは興味深い。ワークショップでは短時間に、より大きな成果を生み出すことを目的として「アクションラーニング」の手法を採用した。参加者は多様な視点からの問いかけによって、自然に考えを広げたり深めたりすることができ、今まで気づかなかった課題や思い込みを発見し、問題解決につなげることができる。

この「アクションラーニング」の手法は、各参加者が自社に持ち帰り、課題把握やマネジメントでも活用できるメリットもある。

10 プログラム全体で得られた知見

参加者は、講演により両立支援のみでなく、活躍支援を含めた双方の取組の必要性が理解できた。また、女性活躍推進の取組はしているものの、なかなか進まない原因として、組織においては企業の評価制度、家庭においては男性の家事分担意識の低さが影響しているとの解説があった。人事評価を労働時間でなく労働の質や成果で行うことや、男性社員へのワークライフバランス、イクメンなどの意識啓発を進める取組等、組織に戻っての実践につながるヒントが得られた。

情報提供によって、世界から見た日本の現状を踏まえて、女性活躍推進は企業の成長に大きく影響していることを具体的なデータから理解した。

ディスカッションを通して、ダイバーシティを推進するために各企業内での課題や方向性を見出すことができ、効果的な会議の手法「アクションラーニング」の知識の取得と体験をすることができた。また、情報交流会において、参加者同士による情報交換やネットワークづくりができた。

11 プログラムの成果

- | | | |
|-------------------|--------|------------------------|
| (1) 参加者の全体の満足度 | 100.0% | (非常に満足 84.6%、満足 15.4%) |
| (2) 参加者のプログラムの有用度 | 100.0% | (非常に有用 76.9%、有用 23.1%) |

12 今後の課題及び展望

昨年度までは独立して実施していた事業であるが、本年度は「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」(以下、企業セミナー)の企画に資する会議として位置付けて実施した。幅広い女性活躍推進担当者を対象とした企業セミナーに比べ、ダイバーシティ推進リーダーに参加者を絞り、企業での課題を提示してもらうことを目的とし、実際に現場の声を聞くことができたことは収穫であった。

また、1泊2日としたことで、参加者同士のコミュニケーションも深まり、今後のネットワークづくりにもつながることが期待できる。



講演「女性の活躍を創出するために
～成功のカギは働き方改革と男性の家庭進出～」



パクさんを囲んで



情報提供



ディスカッション

4 女子中高生夏の学校2015 ～科学・技術・人との出会い～

- 1 趣 旨 女子中高生が「科学・技術にふれる」、科学・技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながる」、科学・技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」ための機会として「女子中高生夏の学校2015 ～科学・技術・人との出会い～」を開催する。
- 2 特 徴 2泊3日の合宿研修を通じて、女子中高生と研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数を単位に親密に交流し、理系進路選択の魅力伝えるものである。
また、女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けのプログラムもそれぞれ設定している。子どもの将来像が描けるよう、よきアドバイスができるように理系進路選択についての理解を深める。
- 3 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 4 共 催 日本学術会議
- 5 後 援 男女共同参画学協会連絡会
- 6 会 場 NWE C
- 7 期 日 平成27年8月6日（木）～8月8日（土） 2泊3日
- 8 対 象 科学・技術の分野に興味・関心のある女子
（中学校3年生、高等学校0校1～3年生、高等専門学校1～3年生）
保護者・教員
- 9 参加者 女子中高生 113名、保護者・教員 21名 計134名

10 都道府県別参加者数

(名)

都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数
北海道	2	埼玉県	11	岐阜県	1	鳥取県	—	佐賀県	5
青森県	—	千葉県	3	静岡県	2	島根県	2	長崎県	2
岩手県	1	東京都	13	愛知県	8	岡山県	4	熊本県	2
宮城県	1	神奈川県	10	三重県	3	広島県	1	大分県	—
秋田県	3	山梨県	2	滋賀県	—	山口県	2	宮崎県	—
山形県	4	新潟県	2	京都府	5	徳島県	—	鹿児島県	—
福島県	4	長野県	6	大阪府	5	香川県	6	沖縄県	5
茨城県	8	富山県	—	兵庫県	—	愛媛県	1	無回答他	—
栃木県	5	石川県	—	奈良県	—	高知県	—	合 計	134
群馬県	5	福井県	—	和歌山県	—	福岡県	—		

11 プログラムデザイン

別紙添付

12 プログラムの構成・得られた成果

【女子中高生用】

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
8月6日 13:00～13:30 【保護者・教員共通】	(1) 開校式 ①開会宣言 ②あいさつ ③オリエンテーション	①柏原 賢二(実行委員長・日本数学会) ②内海 房子(NWEC理事長) 嶋田 透(東京大学大学院農学生命科学教授・日本学術会議会員) ③古澤 亜紀(茨城県立水戸農業高等学校教諭)	
13:30～14:00 【保護者・教員共通】	(2) サイエンスアンバサダー 「自分の将来について考えよう」 夏学への参加にあたり、合宿研修のオリエンテーションやグループ内での自己紹介、学生TA(ティーチングアシスタント)の講話等から、合宿研修のねらいや目的を理解するとともに、主体的に研修に参加する気持ちを高める。	鳥養 映子(山梨大学教授・日本物理学会) 工藤 悠希(北海道大学大学院)	概要及び各プログラムへの取組方法、合宿研修終了後のアンバサダーとしての活動等についての説明。特に、参加にあたっての心構え等について、参加者と年齢の近い学生企画委員が説明することにより、参加者である女子中高生にとっては身近に感じることができた。
14:15～15:45 【保護者・教員共通】	(3) キャリア講演 過去の夏学卒業生でもあり、学生TAや夏学の企画運営に長く携わった女性や女子中高生にとって知名度のある企業で働く2人の女性から、現在の生活や仕事のこと等、理系進路の魅力について話を聞き、将来理系で学ぶこと、働くことの意義や多様な理系の進路について理解を深める。	木村 知代(株式会社ちふれ化粧品総合研究所研究員) 福田 陽子(東京大学大学院理学系研究科博士課程3年)	仕事内容の紹介だけでなく、理系の道を目指した理由や仕事以外の話等幅広い話であり、女子中高生にとって、将来に対する考え方の視野を広げる機会となった。
16:00～17:30	(4) 学生企画「サイエンスバトル!？」 グループで協力し合い、学生スタッフが出題する課題やクイズに答えるスタンプラリーに挑戦しながら、グループの親交を深める。	学生企画委員	学生TAが用意した7つのブースを回って、体力、思考力、想像力、チームワークの良さ等を試す理系に関する課題やクイズにグループで協力して答えるゲームを、学生の企画により行った。グループは異なる地域、学年の参加者で構成されており、3日間の合宿研修を共にするグループ内の仲間意識を醸成し、班付きの学生TAとも親しくなる場となった。
19:15～20:45	(5) 学生企画「i future ～理系人生を体験しよう～」 理系大学に進学した場合を想定した疑似体験を通じて、自分自身の将来を、ゲーム感覚で具体的に	学生企画委員	理系大学に進学した女性なら誰もが直面するような日々の悩みや疑問について、二者択一の問題に答えながらゴールを目指す体験型プログラムを、学生の企画

	考えられるようにする。		により行った。ゴールは選んだ道のりによって異なるタイプが複数用意されており、自分と同じ選択をしたロールモデルとなる学生T Aと参加者の女子中高生をマッチングする場となった。
21:00~22:00 (6)のみ 【保護者・教員共通】	(6) 天体観望会 (希望者のみ参加) 自然豊かなNWE Cの夏の夜空を天体望遠鏡で観察する。	大朝由美子(埼玉大学教育学部准教授・日本天文学会) 渡邊 千夏(埼玉大学大学院院生) 平塚雄一郎 北島隆太郎 清水 孝志 清野 玄太 中村 一貴 宮川 遼太(埼玉大学学生)	短時間ではあるが、初めて天体望遠鏡に触れ、天体を観察したことは、女子中高生にとって天文学への興味関心を高めるとともに、貴重な体験となった。
	(7) 国際交流「英語相談所」 (希望者のみ参加) 翌日の国際交流の時間に向けて、英語で話すことの不安を払拭するため、女子中高生の相談に留学生T Aが応じる。	留学生T A 鳥養 映子 中山 敦子 山本 文子 湯浅富久子(日本物理学会)	希望者のみではあるが、参加した女子中高生にとって翌日の国際交流の時間に安心して臨める時間となった。
	(8) 夏学スタッフの今 (希望者のみ参加) 夏学に携わっている研究者や技術者とは何かしらの集まり(「学会」)に所属している。それぞれの関心事に近い学会を探し、話を聞く機会を設ける。	布目 礼子(WiN-Japan 会長:原子力発電環境整備機構内) 田中 若代(獨協中学・高等学校教諭) 古澤 亜紀 長妻 令子(神奈川県立生田高等学校教諭) 森 義仁(お茶の水女子大学教授)	これまでのプログラムでは質問できなかったこと、新たな疑問や進路の相談などに対応するため、希望者による自由な形での懇談会を行った。研究者や学生T Aと個人的に直接話をするすることで、理系への進路の現実や自分の考えの甘さに気づき、改めて将来について考え、夢の実現に向けての意欲をもつ機会となった。
8月7日 9:00~11:30	(9) サイエンスアドベンチャー I 「ミニ科学者になろう」 理系の各分野における研究者・技術者と交流しながら、実験・実習にじっくりと取り組む。進路を理系にするか文系にするか迷っている生徒向けの不思議体験コースと専門性の高いチャレンジコースの2種類の実験を行う。 ○実験・実習 (A~I: 不思議体験コース) (J~P: チャレンジコース)		学会等の協力を得て、16の実験・実習プログラムを設け、各参加者の興味関心や能力に応じた実験・実習を行った。ふだんの学校生活ではできない実験や、自分の興味関心のある内容を深く知ることにより、理系の面白さに触れる機会となった。

	<p>A 宇宙の星から学ぶ エネルギー Part.4 ～福島から考える私の未来～</p> <p>B 金属の不思議</p> <p>C バナナのDNA抽出実験と水 をきれいにする実験</p> <p>D 化学への招待 楽しい化学実験を 体験してみよう</p> <p>E 川を科学する</p> <p>F 身近に生きる 生物たちの生態</p> <p>G 荒川を探検しよう！</p> <p>H 地球惑星科学へようこそ (その1) ～作って・見て・考えよう！</p>	<p>A 中山 榮子 宮本 霧子 荒谷 美智 (日本女性科学者の会)</p> <p>B 御手洗容子 戸田 佳明 山下 孝子 上田 正人 (日本金属学会) (日本鉄鋼協会男女共同 参画委員会)</p> <p>C 土屋 賢一 中野 雅之 (東京工業高等専門学校) 井上 茜 鈴木 美華 鈴木ゆり子 (実験T A)</p> <p>D 瀬田 博 大倉 寛之 柏 恭子 小柳めぐみ 田村 定義 渡部 智博 (日本化学会)</p> <p>E 猪又 明子 針谷さゆり (日本水環境学会) 平川 知乃 滝本麻理奈 (実験T A)</p> <p>F 鈴木 智之 角田 智詞 (日本生態学会)</p> <p>G 南雲 直子 羽田 麻美 (日本地形学連合) 有賀 夏希 林 実花 (実験T A)</p> <p>H 畠山 正恒 小口 千明 (日本地球惑星科学連合)</p>	
--	--	--	--

	神秘の微化石・生命のかたちの不思議～	木野 佳音 高木 悠花 (実験T A)	
I	ゲームとビーズミニストラップ作りで遺伝子発現を体験します	I 横倉 隆和 吉川 征子 (日本分子生物学会)	
J	地磁気を測ってみよう	J 近藤 泰洋 (日本物理学会) 野村 晶代 工藤晴美クリスティ	
K	ウイルスを知ろう ウイルス粒子模型の作製	K 下池 貴志 (日本分子生物学会)	
L	地球惑星科学へようこそ (その2) ～真夏の雪実験～	L 平松 和彦 紺屋 恵子 小川 佳子 (日本地球惑星科学連合) 阿部 華菜 (学生T A)	
M	コンピュータで探す健康や環境浄化に関わる遺伝子	M 池村 淑道 上原 啓史 (日本遺伝学会 外)	
N	作って・見て・測って知る、地球と宇宙の「波」のふしぎ	N 田所 裕康 (地球電磁気・地球惑星圏学会) 内野 宏俊 北原 理弘 久保田結子 (学生T A)	
O	結び目のゲームを作って遊ぼう	O 大山口菜都美 清水 理佳 (日本数学会) 森下奈保子 (実験T A)	
P	見えないけれどこんなに綺麗、「複素数」の世界をのぞく	P 藤村 雅代 (日本数学会) 大友 咲輝 今井 涼香 守屋 汐里 (実験T A)	

<p>13:00～15:50</p>	<p>(10) サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」 女子中高生に理系進路選択の魅力伝えるため、次の①～②のブースを設け、様々な人々との交流を行う。様々な分野、世代の人と交流することで、理系進路選択への不安や悩みなどの解決に近づける場とする。</p> <p>① ポスター展示・キャリア相談 展示ブースを設置して、協力学会、企業や大学等、様々な立場の研究者・技術者によるポスター展示や演示実験を行い、理系の世界で活躍する人々や最先端の技術に触れる機会とする。また、研究者・技術者や女子大学生・大学院生等が女子中高生の理系進路選択に関する相談に応じ、女子中高生の進路に関する不安や悩み等の解決や理系進路選択について明確な考えをもてる機会とする。</p> <p>② 国際交流 海外から日本にきている留学生や科学・技術者に学校生活や日本での生活、研究内容や母国に帰ってからの夢等について、英語を使ってインタビューする。女子中高生のコミュニケーション能力や語学力の向上に生かす機会とする。</p>	<p>○ポスター展示出展者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プラズマ核融合学会 核融合科学研究所 2 日本海洋学会 3 日本地球惑星科学連合 4 新化学技術推進協議会 5 地球電磁気・地球惑星圏学会 6 日本バイオイメーjing学会 7 日本蛋白質科学会 8 日本地形学連合 9 日本天文学会 10 日本女性科学者の会 11 日本女性技術者フォーラム 12 日本電磁波エネルギー応用学会 13 日本惑星科学会 14 日本分子生物学会 15 電気学会 16 日本生物物理学会 17 応用物理学会 18 土木学会 19 土木技術者女性の会 20 日本原子力学会 21 WiN-Japan 22 日本数式処理学会 23 分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク 24 国立高等専門学校機構 25 日本発生物学会 26 女性技術士の会 27 日本技術士会 男女共同参画推進委員会 28 関東学院大学理工学部土木系女子学生の会 29 日本応用数理学会 30 日本鉄鋼協会 31 日本金属学会 32 日本遺伝学会 33 日本化学会 34 日本数学会 35 日本電子株式会社 36 日本物理学会 37 日本木材学会 38 地盤工学会 39 日立技術士会 「チーム・技魔女」 	<p>① ポスター展示・キャリア相談 39の協力学会等が展示ブースを設置。様々な分野の研究者・技術者から最先端の技術についての説明を受けたことや、理系の進路に関する悩みや疑問に答えてもらったことで、女子中高生の理系進路選択に対する関心を高め、明確な考えをもてる機会となった。</p> <p>② 国際交流 参加者にとっては、海外の同世代の人たちと会話するという貴重な体験となったとともに、英語をはじめ、語学力や言葉による表現力を高める必要があるという意識をもつきっかけとなった。</p>
--------------------	---	---	--

16:10~17:40	<p>(11) 学生企画「Gate Way」 女子中高生が理系の進路についてさらに深く知るとともに、進路選択における悩みを相談できるように、様々な分野や年代の人々と話し合い、アドバイスを受ける時間とする。</p>	学生企画委員	様々な分野、年代の人々との交流により、参加者の女子中高生の進路に対する視野を広げる機会となった。
18:00~19:00	<p>(12) 交流会 合宿研修最終日を前に、夕食をとりながら、参加者同士、講師や実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深める。</p>		他のグループとの交流はもちろん、講師や学生TAとの交流等、参加者同士の交流の輪が更に広がった。
19:15~20:45	<p>(13) 学生企画「キャリア・プランニング」 参加者である女子中高生と研究者・技術者、学生TA等とのこれまでの交流を踏まえ、各グループで、自分たちの具体的な進路についての話し合いや研究者・技術者へのインタビューなどを通じて、オリジナルの「マインドマップ」を完成させる。</p>	学生企画委員	5年後、10年後の自分の将来を表にまとめることで、より具体的な進路をイメージすることができた。
21:00~22:00	<p>(14) 夏学スタッフの出発点 (希望者のみ参加) 夏学スタッフの出発点の話を聞くことにより、研究者・技術者や学生TA等と更に話をしたいという参加者のため、進学や就職等をはじめ、将来の進路に関する懇談会を行う。</p>	布目 礼子 田中 若代 古澤 亜紀 長妻 令子 森 義仁	これまでのプログラムでは質問できなかったこと、新たな疑問や進路の相談等に対応した。研究者や学生TAと個人的に直接話をすることで、理系への進路の現実や自分の考えの甘さに気づき、改めて将来について考え、夢の実現に向けての意欲をもつ機会となった。
	<p>(15) 国際交流「もっと話そう英語」 (希望者のみ参加) 国際交流の時間だけでは英語を話すことが物足りなかった女子中高生のために、留学生TAが会話や質問に応じる。</p>	留学生TA 中山 敦子 山本 文子 宋 苑瑞 小口 千明 初田真知子 湯浅富久子 (日本物理学会)	希望者のみの参加であったが、語学や海外の様子に関心のある女子中高生にとっては、有益な時間となった。
8月8日 9:00~11:00	<p>(16) 一体感型実験 科学的に視野を広げる経験を、参加者全員で共有できるような実験を行う。参加者一同が同じテーマのもと、製作から完成までの過程を経験し、一体感を味わう。</p>	柏原 賢二	科学的に視野を広げる経験を大人数で共有するため、「人間コンピュータ」というテーマで実験を行った。2進法など、コンピュータのしくみを理解するとともに、参加者全員で行う一体感を味わうことができた。
11:15~12:00	<p>(17) 学生企画「夏学振り返りと表彰式」 参加者が一堂に会し、3日間の</p>		これまでの活動の様子をスライドで振り返るとともに、グループごとの取組に対する表彰を、学

	振り返りを、学生スタッフの企画により行う。		生の企画により行った。保護者・教員も、子どもの生き生きとした表情を見ることができた時間であった。
12:00～12:45	(18)サイエンスアンバサダー任命式・閉校式 全日程に参加した女子中高生全員をサイエンスアンバサダーとして任命する。任命された女子中高生は、自分の学校や地域に戻った後、アンバサダーとして夏学の体験や魅力等を伝える。	任命：柏原 賢二	地域や学校で3日間の活動や成果を報告し、多くの人に広めるアンバサダーとして、参加した女子中高生全員を企画委員長が任命した。参加者の女子中高生はアンバサダーとしての活動への意欲と、TAとなって再びこの場へ戻ってくるという決意を確かにする場となった。

【保護者・教員用】

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
8月6日 13:00～13:30 【女子中高生と共通】	(1) 開校式		
13:30～14:00 【女子中高生と共通】	(2) サイエンスアンバサダー I 「自分の将来について考えよう」		
14:15～15:45 【女子中高生と共通】	(3) キャリア講演		
16:15～17:45	(4) 夏の学校を知る 今までの夏学の様子をスライドやDVDの視聴、並びに講師の説明により、3日間の研修の流れや意義を理解する。	森 義仁 古澤 亜紀	2泊3日の合宿研修の概要とともに、世界と日本の理系女子の現状について知る機会となった。
19:15～20:45	(5) サイエンスカフェ I 「日本学術会議、学会、大学、企業等の研究者・技術者との座談会」 学会、大学、企業等で活躍する研究者・技術者との対話やグループ討議等を通じて、理系の分野での女性の活躍や今後の期待に対する現状等を知るとともに、女子中高生への支援の在り方について考える。	松尾由賀利(法政大学理工学部教授・日本学術会議連携会員) 永合由美子 (EM Design研究所・元ライオン(株)JWEF運営委員) 河西奈保子(NTT・応用物理学会男女共同参画委員) 加藤 聖子(シチズン・応用物理学会男女共同参画委員)	保護者や教員自身が理系の楽しさを知るとともに、女子中高生の理系進路選択を後押しできるよう、座談会を行った。保護者、教員それぞれの立場や考えを理解し合える場となった。

21:00～22:00 【女子中高生と共通】	(6) 天体観望会 (希望者のみ参加)		
8月7日 9:00～11:30	(7) 実験・実習の参加・見学 参加者である女子中高生が取り組んでいるサイエンスアドベンチャーI「ミニ科学者になろう」の実験や実習を実際に見学、参加することで研修に取り組む女子中高生の姿を見たり、理系進路選択を応援する意識を高める。		女子中高生の理系進路選択を応援する意識を高めるのに役立つ貴重な体験となった。
13:00～14:50	(8) サイエンスカフェII 【保護者】 「研究者・技術者、大学生との座談会」 女性の科学・技術者、学生TAとの座談会を通じて、理系進路選択の現状やその魅力について知る機会とする。 【教員】 「中学、高校、大学の教員の連携」 中学、高校、大学の教員による連携を促進するために、理科や数学など、理系科目の授業展開などについて、講義やグループワークを行う。	藤田 直幸(奈良工業高等専門学校・電気学会) 長妻 令子 森 義仁 田中 若代 古澤 亜紀	中高生の身近なロールモデルである理系女子学生の高校生活、受験体験、現在の大学生活、そして将来の希望について知る機会となった。 主に大学教員と、中高の教員間でどのような協働ができるかについて、現状の課題を踏まえながら前向きに討議できた。
15:00～15:40	(9) サイエンスカフェIII 「企業における女性研究者の活躍」 女性の科学・技術者の講演を通じて、理系進路選択の現状やその魅力について知る機会とする。	講師：渡辺美代子 (国立研究開発法人科学技術振興機構執行役) 進行：鳥養 映子	保護者にとって、理系進路選択の現状やその魅力を知るとともに、理系進路を考える子どもの後押しをしたいと思える機会となった。
15:50～17:10	(10) サイエンスカフェIV 「ポスター展示・キャリア相談」 女子中高生の理系進路選択支援に向けて、男女共同参画学協会連絡会や企業、大学等のポスターブースを回り、最先端の科学・技術について知る機会とする。また、理系の進路について相談することで、我が子や生徒の進路に関する不安や悩み等の解決に近づける場とする。		39の協力学会等が展示ブースを設置した。様々な分野の研究者・技術者による最先端の技術についての説明や、理系進路に関する疑問に対する回答などから、理系進路選択をよく知る機会となった。

18:00～19:00 【女子中高生と共通】	(11) 交流会		
19:15～20:45	(12) サイエンスカフェ 「海外理工系事情」 海外からの留学生と保護者・教員が交流する場を設け、それぞれの国の生活、文化、科学・技術等、諸外国の状況について理解を深めるとともに、我が国の現状について再確認する機会とする。	留学生T A 中山 敦子 山本 文子 (日本物理学会) 宋 苑瑞 小口 千明 (日本地球惑星科学連合・ 日本地形学連合)	諸外国の文化や科学技術の状況、日本における理系進路の状況などについて再認識し、日本と世界との状況の違いについて知る機会となり、有用な時間となった。
21:00～22:00 【女子中高生と共通】	(13) 研究者・技術者やT Aへのキャリア・進学懇談会 (希望者のみ参加)		
8月8日 9:00～10:00	(14) 夏の学校を振り返る 【保護者】 女子中高生の長期的なライフプランニングや男女共同参画について積極的に考える機会として、女子中高生の理系進路選択等に関して、忌憚のない意見交換をし、3日間の研修を振り返る。 【教員】 3日間の合宿研修を踏まえ、それぞれの学校に戻ったときに、この合宿研修の経験をどう生かすかについて考える機会として、教員同士のディスカッション等を行う。	藤田 直幸 長妻 令子 森 義仁 田中 若代 古澤 亜紀	3日間の保護者としての研修を振り返るとともに、保護者同士の忌憚のない意見が交わされる時間となった。 同業者同士、ゆっくりと意見交換をはじめ、交流が図られる時間となった。
10:00～11:00	(15) 一体感型実験の参加・見学 科学的に視野を広げる経験を参加者全員で共有できるような実験に保護者や教員も参加・見学を行う。	講師：柏原 賢二	参加者の女子中高生が行う「人間コンピュータ」というテーマでの実験を見学。研修最終日まで、プログラムに意欲的に取り組む我が子や生徒の姿を見ることができた。
11:15～12:00 【女子中高生と共通】	(16) 学生企画 「夏学振り返りと表彰式」		
12:00～12:45 【女子中高生と共通】	(17) サイエンスアンバサダー任命式・閉校式		

1.3 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・2泊3日の合宿研修終了後も、研修の普及と支援の継続、研修の効果の確認という観点から、参加者によるアンバサダー活動、講師等によるメンター活動、ロールモデル集の作成と配付、フォローアップ調査や進路調査を行うこととした。
- ・「夏学タイムズ」という機関紙を発行し、参加者への活動報告としてはもちろん、女子中高生の理系進路選択支援を広く周知するためのチラシとしても、活用した。
- ・キャリア講演の講師は、夏学卒業生でもあり、学生企画委員として企画・運営に長く携わった者、女子中高生にとって知名度のある企業で働く女性に依頼した。
- ・サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」での実験・実習の内容は、進路を理系にするか文系にするか、選択を迷っている女子中高生にも対応できるよう、科学への興味関心を高める「不思議体験コース」とより専門性の高い「チャレンジコース」の2種類を、前回と同様に用意した。
- ・女子中高生がプログラムに取り組む様子が分かるよう、サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」や「一体感型実験」等、保護者・教員向けに実験・実習の参加・見学の時間を設けた。
- ・留学生TAを増員し、女子中高生だけでなく、保護者・教員との交流の時間を設ける等、国際交流プログラムの充実を図った。
- ・参加者である女子中高生に年齢や感覚に近い学生による企画を、積極的に取り入れた。

1.4 プログラム全体で得られた知見

- ・今回で11回目の開催となるが、企画委員をはじめとする夏学スタッフ、特に学生TAの活躍を中心として、過去の研修成果とともに、これまでの継続によるノウハウの積み上げを生かし、更に充実した内容となった。
- ・すでに理系を目指すことを決めている女子中高生とともに、今回から、進路を理系にするか文系にするか迷っている女子中高生にも、実験・実習や学生企画プログラム等を通じて理系の進路選択の魅力を伝えられる内容としたが、引き続き高い満足度、有用度を得られた。
- ・各プログラムを通じて、全国からの参加者がロールモデルとなる女性研究者・技術者や女子大学生・大学院生と交流することにより、理系の女性によるネットワーク形成の機会となった。
- ・参加者の「大学生になってTAとしてまた戻ってきたい」という感想にあらわれているとおり、参加者(女子中高生)→学生TA(理系女子大学生)→学生企画委員(理系女子大学生・大学院生)→企画委員(女性科学・技術者、教員等)というキャリアが形成されている。

1.5 プログラムの成果

(1) 参加者の全体の満足度

中高生	99.1%	(非常に満足	82.1%	、満足	17.0%)
保護者	100.0%	(非常に満足	100.0%)
教員	100.0%	(非常に満足	70.0%	、満足	30.0%)

(2) 参加者のプログラムの有用度

中高生	93.9%	(非常に有用	65.0%	、有用	28.9%)
保護者	99.3%	(非常に有用	69.5%	、有用	29.8%)
教員	94.7%	(非常に有用	36.8%	、有用	57.9%)

1.6 今後の課題及び展望

- ・募集期間中、中学1～2年生の参加はできないのか、という問い合わせが数件あった。開催時においては、高校3年生はすでに進路が確定している場合が多いと思われるとともに、実際の参加者も5人程度であることから、募集の対象学年を今後検討していく必要がある。
- ・参加者決定について、確保できる学生TAの数や負担等を考えると、「1班5～6人×20班」以内の人数が適正であると考えている。次回以降も、最高120人程度の人数となるように、参加者を決定する。
- ・参加者のアンケートを見ると、概ね良好な感想であった。しかし、3日目の「一体感型実験」については、「難しく、よく分からなかった」という意見が見られた。今回初めての試みであったため、題材、展開等について担当者を中心に実行委員会で再度検討し、改善を加えることが必要である。
- ・実験・実習は16コースであった。参加者にとっては選択肢が増え、少人数で実施できるというメリッ

トがあったが、施設的には研修棟で実施できるぎりぎりの数であった。使用希望が重複していたパソコン教室での実習については、大妻嵐山中学校・高等学校の協力により実施することができたが、次回以降は、実験・実習のコース数を制限しての募集が必要と考える。また、1学会（団体）で複数申し込んでいるところもあるため、一つに絞って申し込んでもらう必要がある。

- ・ポスター展示の参加団体は、ブースの設営ができる広さ、現在ある展示パネルの数からみて、限界の39団体であった。これも募集の際には先着36団体まで、と明示する必要がある。また、各ブースで配布してよいものについても明示する。
- ・平成26年度は、台風が接近していたため最終日のプログラムを取りやめ、公共交通機関が動いているうちにできるだけ早く帰宅させる対応を取ったことから、今年度は様々な想定に基づくリスク管理を考え、参加者の緊急連絡先を提示してもらったり、緊急時の企画委員の動きのマニュアル化を行ったりした。
- ・男女共同参画学協会連絡会をはじめ、各学会との連携をさらに強化する。今年度は、日本学術会議との共催が実現した。
- ・プログラムの充実に伴い、事務量も増えている。開催中の事務局の設置、寄附金の取扱いをはじめとする事務業務の工夫と効率化を進める必要がある。
- ・寄附金の募集等については、企画委員会の中に専門委員会を立ち上げた。夏学の自立に向けて、経団連等の協力を得られるように動き出しているところである。



開校式



サイエンスカフェⅠ



サイエンスアドベンチャーⅠ

「実験・実習」

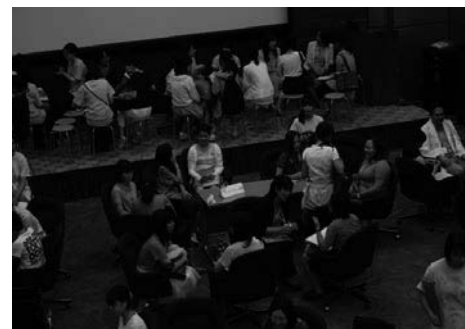


サイエンスアドベンチャーⅡ

「ポスター展示・キャリア相談」



学生企画 「キャリア・プランニング」



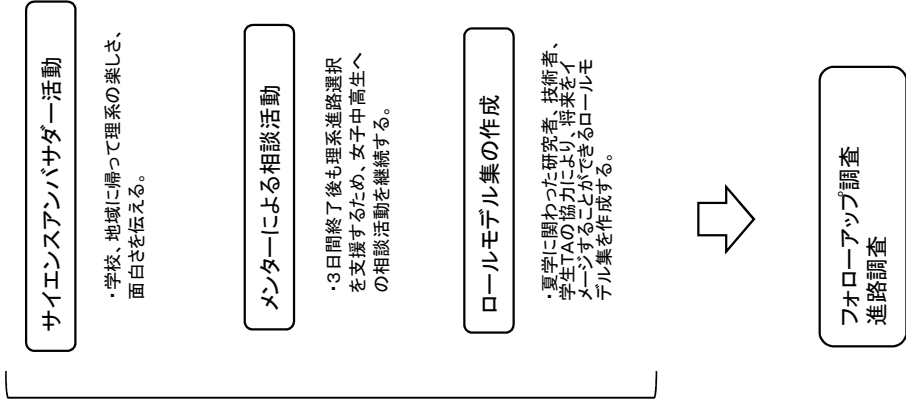
学生企画「Gate Way」

「女子中高生夏の学校2015 ～科学・技術・人との出会い～」プログラムデザイン

夏学3日間

1 日目	<p>サイエンスアンバサダー</p> <p>・自分の将来について他の参加者と話し合う。</p> <p>キャリア講演</p> <p>・理系で活躍する女性の姿を知る。</p> <p>【学生企画】サイエンスバトル！?</p> <p>・クイズ・ゲーム形式で、理系分野に親しむ。</p> <p>【学生企画】i future</p> <p>・理系の人生をゲームで疑似体験する。</p>
内容	<p>夏学参加の心構えを学び、参加者同士で話し合う。</p> <p>理系分野で活躍する女性の実態を知る。</p> <p>グループ、学生TA、スタッフ等と親交を深めながら、理系分野に親しむ。</p>
2 日目	<p>サイエンスアドベンチャーI ミニ科学者になろう</p> <p>・科学・技術への興味関心を高めるため、実際に実験・実習を体験する。</p> <p>サイエンスアドベンチャーII 研究者・技術者と話そう</p> <p>・研究者・技術者、学生スタッフ等によるブースを設け交流し、進路相談等行う。 ①研究者・技術者のキャリア相談、ポスターセッション ②大学生・院生のキャリアセッション ③海外からの留学生や科学技術者との国際交流</p> <p>【学生企画】Gate Way</p> <p>・様々な分野、年代の人々と話し合い、理系の進路や自分自身の進路選択について、深く知り、考える。</p> <p>【学生企画】キャリア・プランニング</p> <p>・グループでキャリアについて話し合い、オジナルのmind mapを作成する。</p>
内容	<p>理系分野を体験する。</p> <p>理系分野のキャリアについて相談する。</p> <p>自分自身のキャリアについて考える。</p>
3 日目	<p>一体感型実験</p> <p>・科学的な視野を広げる体験を全員で共有する。</p> <p>【学生企画】夏学振り返りと表彰式</p> <p>・3日間の活動を振り返る。</p> <p>サイエンスアンバサダー任命式</p> <p>・地域に帰って理系の楽しさを伝えるサイエンスアンバサダーに任命する。</p>
内容	<p>理系分野を体験する。</p> <p>夏学を振り返るとともに、理系分野について考え、また、アンバサダーの役割を認識する。</p>

夏学3日間以降



5 男女共同参画推進フォーラム

- 1 趣 旨 男女共同参画社会を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティや女性の活躍を推進する担当者等が一堂に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修を実施する。同時に、組織分野を越え、連携・協働して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成を図る。
- 2 テーマ 「一人ひとりの活躍が社会を創る」
- 3 主催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 4 会場 NWE C
- 5 期 日 平成27年8月20日（木）～8月22日（土） 2泊3日
- 6 対 象 男女共同参画に関心のある者（行政、企業、大学、NPO等の組織において男女共同参画の推進に携わる者、並びに女性団体、女性／男女共同参画センター職員を含む）
- 7 参加者 1,252名

8 都道府県別参加者数

(名)

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	33	埼玉県	232	岐阜県	9	鳥取県	—	佐賀県	3
青森県	2	千葉県	96	静岡県	14	島根県	1	長崎県	2
岩手県	13	東京都	335	愛知県	17	岡山県	4	熊本県	1
宮城県	8	神奈川県	56	三重県	3	広島県	5	大分県	4
秋田県	7	山梨県	59	滋賀県	—	山口県	1	宮崎県	—
山形県	—	新潟県	17	京都府	6	徳島県	6	鹿児島県	3
福島県	22	長野県	35	大阪府	22	香川県	—	沖縄県	9
茨城県	30	富山県	2	兵庫県	5	愛媛県	2	無回答他	9
栃木県	94	石川県	5	奈良県	5	高知県	1	合計	1,252
群馬県	63	福井県	1	和歌山県	1	福岡県	9		

9 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
8月20日 13:15～13:30	(1) 開会 主催者あいさつ	内海 房子(NWE C理事 長) 徳田 正一(文部科学省 生涯学習政策局審議官)	
13:30～14:40	(2) 特別講演「超成熟社会の鍵は“女性”」 保育所待機児童対策をはじめ、女性の活躍支援に精力的に取り組んでいる林市長が、女性活躍にかける思いと今後の展望を語る。	林 文子(横浜市長)	自身のキャリアや、横浜市の「待機児童ゼロ」への取組のプロセス、行政トップとしてのリーダーシップ等について語り、男女がお互いに尊重し合い、強みを生かし合う風土をつくるには、長時間労働等男性中心型の働き方を変え、本当のワークライフバランスを実現していくことが重要等の提言を示した。

<p>15:30～17:30</p>	<p>(3) ワークショップ1・パネル展示1 ・会館提供ワークショップ「男女共同参画の視点に立つキャリア開発プログラムを考える」 NWECが開発したキャリア開発学習プログラムの紹介と、プログラム企画の基礎となるニーズ及び課題把握に関する研修修了者の報告やグループワークから、地域における男女共同参画の推進と、男女共同参画の視点をもったキャリア開発に向けた学習プログラムの展開について考える。</p> <p>・募集ワークショップ (ワークショップの部11件、パネル展示の部5件)</p>	<p>講師： 神田 道子(東洋大学名誉教授、NWEC事業課客員研究員) 亀田 温子(十文字学園女子大学人間生活学部教授) 松下 光恵(NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか代表理事) 報告者： 井上 智美(NWEC学習オーガナイザー養成研修1期生) ファシリテーター： 西山恵美子(NWEC事業課客員研究員)</p>	<p>講義の中で、男女共同参画及びキャリア開発の視点から、キャリアを重ねる中で社会的位置と役割をつかむことの重要性、プログラム立案時における実態把握やターゲットの絞り込みがポイントであり、男女共同参画の視点からの事業企画力が求められていることが、明らかになった。また参加者同士のグループワークにより、キャリア開発における実際の課題を整理・共有することで、学習オーガナイザー養成の必要性に対する気運が高まった。</p>
<p>8月21日 10:00～12:00</p>	<p>(4) ワークショップ2・パネル展示2 ・会館提供ワークショップ「第59回国連婦人の地位委員会(CSW)報告会」 2015年3月9日～20日に国連本部(ニューヨーク)で開催された第59回国連婦人の地位委員会(CSW)では、「北京宣言・行動綱領及び第23回国連特別総会成果文書の実施に関する見直しと評価」を優先テーマとし、各国代表や国連関係機関、NGO代表らによるステートメント、大臣級円卓会合やパネルディスカッションが行われた。このワークショップでは、優先テーマに関する議論や、NGOが実施したサイド・イベント等について、CSW参加者が解説する。</p> <p>・募集ワークショップ (ワークショップの部12件、パネル展示の部6件)</p>	<p>報告者： 池永 肇恵(内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、男女共同参画局総務課長) 源河真規子(厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課調査官) 西鍋 早葵(日本BPW連合会2015CSWインターン、山梨県立大学国際政策学科) 渡辺 美穂(NWEC研究国際室研究員) 報告者兼コーディネーター： 越智 方美(NWEC研究国際室専門職員)</p>	<p>CSWでの議論を総括し、ポイントとして、①男性の男女共同参画分野への参画促進、②女性施策実施状況に対するモニタリング指標としてのジェンダー統計の重要性、③女性関連事業に対する適切な予算配分、④次世代育成の4点を示した。また「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」の概要、第4次男女共同参画基本計画の策定スケジュール等の最新情報が示された。</p> <p>CSWは市民社会組織の参画の長い歴史があり、NGOブリーフィングやパラレル・イベント等を通じて活発な情報交換が行われている等、国際的動向についての情報を共有する機会となった。</p>

13:00～15:00	<p>(5) シンポジウム「北京世界女性会議 -あの時、今、そしてこれから」</p> <p>※企画・協力 北京+20NGOフォーラム実行委員会</p> <p>第4回世界女性会議・北京会議(1995年)で採択された「行動綱領」では女性と貧困等12の重大問題領域の下、ジェンダー平等のための課題が設定された。採択から20年を経て、何が達成されたのか、今なおどのような問題があるのか、シンポジストがそれぞれ専門の立場から検証し、これからの歩みについて提言する。</p>	<p>パネリスト:</p> <p>林 陽子(国連女性差別撤廃委員会委員長)</p> <p>坂東眞理子(学校法人昭和女子大学理事長)</p> <p>船橋 邦子(北京JAC(世界女性会議ロビイングネットワーク)代表)</p> <p>谷口真由美(大阪国際大学准教授)</p> <p>コーディネーター:</p> <p>有馬真喜子(NPO法人国連ウィメン日本協会理事長)</p>	<p>各パネリストより、北京世界女性会議後20年間の政府・NGOの国内外の取組報告及びレビューと今後に向けての提言があった。総括として、男女共同参画の課題は日常生活につながっていること、北京世界女性会議を契機に日本各地で草の根の活動が広がったように、今回のシンポジウムの成果も全国各地に広がり、さらなる目標に向かって歩むきっかけとしてほしいとのコメントが寄せられた。</p>
15:30～17:30	<p>(6) ワークショップ3・パネル展示3</p> <p>・会館提供ワークショップ「リレートーク“東北はいま～男女共同参画の視点からの復興”」</p> <p>※共催 復興庁男女共同参画班</p> <p>男女共同参画の視点による復興の必要性和ノウハウを国内外に発信する取組について、震災直後から被災地の復興に取り組んできた当事者による「情報発信」を共有し、新たな連携や支援の創出と復興の加速化を目指す。</p> <p>・募集ワークショップ (ワークショップの部10件、パネル展示の部5件)</p>	<p>報告者:</p> <p>伊藤 怜子(NPO法人こそだてシップ理事長)</p> <p>八木 純子(一般社団法人コミュニティスペースうみねこ代表)</p> <p>遠藤 恵(NPO法人市民メディア・イコール副代表)</p> <p>武川 恵子(内閣府男女共同参画局長)</p> <p>山崎 裕子(NWEC情報課情報係長(併)専門職員)</p>	<p>第一部では、東北被災3県からの事例報告として、復興に向けた人材・場・資金の確保等、活動から見てきた地域課題を報告。報告者より『「分断」から多様性の尊重へ』との提言があった。</p> <p>第二部では、政府及びNWE Cによる国内及び国際的取組についての最新情報を示した。</p> <p>会場の隣には3日間を通してパネル展示を行い、男女共同参画の視点からの復興について情報発信する機会となった。</p>
18:30～20:00	(7) 懇親会		<p>リラックスした雰囲気の中で参加者同士による情報交換やネットワークづくりができた。</p>
8月22日 10:00～12:00	<p>(8) ワークショップ4・パネル展示4</p> <p>・募集ワークショップ (ワークショップの部10件、パネル展示の部5件)</p>		
13:00～15:00	<p>(9) 映画「人生、いろどり」上映会</p> <p>過疎地に住む女性たちによる、「葉っぱビジネス」の成功の実話をモデルとした映画。地域における男女共同参画の推進、コミュニティビジネスへの女性の参画、農村女性の経済的自立や女性のエンパワーメント、家族の在り方、退職後の生き方等について考える。</p>		<p>アンケートでは「女性のエンパワーメントが自然に描かれていてフォーラムにぴったりの内容だった」「どんなことも年齢に関係なく一生懸命やればできるんだ、と勇気をももらった」と男女共同参画に興味をもち始めた参加者も気軽に参加できるプログラムとして好評を得た。</p>

10 ワークショップ・パネル展示一覧（タイトル・実施団体・グループ名）

別添参照

11 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・男女共同参画社会の実現には、ひとにぎりのトップリーダーの活躍だけではなく、社会を構成している一人ひとりが、それぞれの持ち場、領域で自分のもっている能力・個性を発揮していくことが求められていること、女性の活躍推進は、ごく一部の女性のためだけではないというメッセージを込めた。
- ・基調講演、シンポジウムに加え、興味関心をもち始めた人も気軽に参加できるプログラムとして、最終日に映画上映会を実施した。
- ・事業企画・実施に際し、関係府省・NGOとの連携を意識した。会館提供ワークショップの1つを復興庁男女共同参画班と共催、シンポジウムは北京+20NGOフォーラム実行委員会の協力を得て実施し、企画・運営・集客面に協力を得たほか、女性教育情報センター前で開催した資料展示において、アーカイブ資料の提供を受けた。このフォーラム全体を、外務省主催「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム（WAW! 2015）」の趣旨に賛同する「シャイン・ウィークス」公式サイドイベントとして登録し、フォーラムの趣旨や内容を広くアピールした。

12 プログラム全体で得られた知見

「第3次男女共同参画基本計画」に示されている施策を参考に設定した8つのテーマ（①女性のキャリア形成支援、②企業における女性の活躍推進、③学校教育における男女共同参画、④男性にとっての男女共同参画、⑤安全・安心と男女共同参画、⑥地域づくりにおける男女共同参画、⑦男女共同参画センターの役割、⑧国際的連携）に沿ったワークショップ、展示、特別講演、シンポジウム、映画上映会を実施し、最新の情報提供や参加者同士の交流推進に努めた。

募集ワークショップ（ワークショップの部及びパネル展示の部）の実施は、運営団体にとって、他団体の実践者や研究者などから貴重な意見を聞き視野を広めるとともに、新たな協働関係やネットワークづくりのきっかけを得る場となった。

13 プログラムの成果

- (1) 参加者全体の満足度 96.0%（とても満足 46.2%、満足 49.8%）
- (2) 参加者のプログラム別満足度
 - ・特別講演「超成熟社会の鍵は“女性”」91.7%（とてもよかった 60.6%、よかった 31.1%）
 - ・シンポジウム「北京世界女性会議ーあのと、今、そしてこれから」91.6%（とてもよかった 55.2%、よかった 36.4%）
 - ・映画「人生、いろどり」上映会97.7%（とてもよかった 72.7%、よかった 25.0%）
- (3) 「募集ワークショップ（ワークショップの部及びパネル展示の部）運営者」の満足度 95.7%（とてもよかった 76.6%、よかった 19.1%）
- (4) 「募集ワークショップ運営者フォローアップアンケート（2016年2月実施）」の有用度 95.9%（非常に役立った 59.2%、役立った 36.7%）

14 今後の課題及び展望

特別講演、シンポジウムは、600席の講堂が満席となり、大盛況であった。今後も社会的知名度の高い講師によるプログラムを盛り込むことで、男女共同参画推進の波及効果を高めたい。映画上映は講座やセミナーと違う切り口で、男女共同参画について考える機会となった。参加者アンケートでは、全体を通じて一般向けの内容を求める声がある一方、ナショナルセンターならではの専門的かつ高度な内容のプログラムへの期待も寄せられている。フォーラムの趣旨や今後の男女共同参画推進の方向性を踏まえ、どちらに重点を置くのか、今後検討の必要性がある。

参加者全体に対する「研究者・大学教員」の割合は55名（4.4%）、「会社員・企業関係者」は32名（2.6%）と少ないが、募集ワークショップをみると、大学ゼミ授業の成果発表として学生自身によるワークショップが実施される等、本フォーラムが大学やダイバーシティ先進企業等における男女共同参画推進の成果報告の場として活用され、連携の可能性も少しずつ広がっている。男女共同参画推進の次世代リーダー

一となる学生や若手研究者等に今後更にフォーラムを活用してもらえるよう、積極的な広報に努めたい。



特別講演「超成熟社会の鍵は“女性”」



シンポジウム「北京世界女性会議 —あの時、今、そしてこれから」



資料展示「北京世界女性会議」



会館提供ワークショップ「男女共同参画の視点に立つキャリア開発プログラムを考える」

平成27年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ・パネル展示一覧

ワークショップ(1) 8月20日(木) 15:30～17:30		ワークショップ(2) 8月21日(金) 10:00～12:00		ワークショップ(3) 8月21日(金) 15:30～17:30		
日時	ワークショップタイトル	運営団体・グループ名	No	ワークショップタイトル	運営団体・グループ名	No
1 階	110	男女共同参画の視点に立つキャリア開発プログラムを考える	N1	第59回選出者の地位委員会(GSW)報告会	会館提供ワークショップ	N2
	101	大学生によるアートDVワークショップ-寸劇・歌・ダンス-	9	ワークショップ「働く女性の意識改革」一企業、上司、女性自身の立場で考える	公益財団法人21世紀職業財団	19
	109	男女共同参画推進センターの役割と機能、地域や利用者との連携・協働	32	日米高校生との交流報告	一般社団法人国際女性教育研究会	1
	201	突然の災害から地域やたいせいな人を守るための「エセオホ	33	「ジェンダー」の視点でいじめ、いじめ防止、いじめ被害から学んだこと	均等待遇アクション21	7
	206	社会的弱者を支える「まさか」の備えが「地域防災ネットワーク」	42	北京会議から20年！いまだに「男女賃金差別」！	与謝野昌子を語る会	40
	207	女性活躍の政策として、経営者目線に強くなる！	31	与謝野昌子「お茶なみ」がわかる「一歩前へ！」	お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所	15
	208	非正規で働く35歳以上のシングル女性女性の現状と支援のあり方	24	女性差別撤廃条約と選択的定額・調査制度	国際女性の地位協会	30
	大会室	ワークショップ 女性の方で変革を	34	「北京+20」以後の課題と戦略	JAWW(日本女性意識協議会)	28
	301	～男女共同参画と改善リスク削減～	34	「ピーター・ラビット」から読み解く女性の社会進出・男女共同参画・環境保全	エリック・ポター・ソートの会	41
	303	学校教育における男女共同参画	43	花作りで環境と男女共同参画問題を解決	八万の花の会	26
3 階	304	～減災と防災～と男女共同参画	44	学生からの視点から見る男女共同参画～結婚して何だろう？～	埼玉大学男女共同参画推進学生委員会	25
	306	男女共同参画社会の啓発活動を分析する	22	女性選出者の成長って何だろう？	特定非営利活動法人エンパワメント・ネットワークREN	17
				「男女共同参画センター」等の取組についての調査・報告会		
観音院						

ワークショップ(4) 8月22日(土) 10:00～12:00		パネル展示				
日時	ワークショップタイトル	運営団体・グループ名	No			
1 階	110	メディアと協働するアーキビストたち～実践と報告より	39	子育てを切り口とした男女共同参画推進活動	一般社団法人日本ベビーダンス協会	1
	101	暴力のない世界を創る若年層のためのグローバルプログラム	38	「改善と女性性」	ねりまジェンダー研究会	2
	109	「ダイバーシティ」を語るからエ	35	筑波大学における女子中高生の理系進路選択支援の取り組みと課題	筑波大学 ダイバーシティ推進室	3
	201	～多様な人々の個性を尊重し個性を伸ばすダイバーシティの働きを促す～	4	ジェンダーを深もう@Library	図書館員のキャリア研究フォーラム	4
	206	ワークショップ 子どもたちを災害から守る	6	～Look at Your Library with gender perspective～	埼玉県男女共同参画推進センター	5
	207	～防災等子屋(sole)の活動～	16	スポーツと女性性	クオータ制の実現をめざす会	6
	208	「日本を変えた10人の女性音楽家」	5	「クオータ制」は難なり～女性参政権 これまでもこれから～	国立女性教育会館(企業・協力:北京+20 NGOフォーラム実行委員会)	A
	301	安心・安全な「対話」を醸成する「ワークショップ」紹介	20	北京世界女性会議 資料展示	復興庁男女共同参画推進	B
	303	東京から発信するメッセージ「これ、いいの！か！男女平等条例制定」～渋谷区と台東区の支援～	18	男女共同参画の視点からの復興		
	306	女性の「紅坂練堀」を源流から見た文化と女性史	21	「実技研修前：情報交換コーナー」		

◆実技研修前：情報交換コーナー
参加者の皆さまが、ご所属団体のパンフレットやチラシなどの資料や書籍などを自由に交換・販売するコーナーを設置しますので、ご利用ください。
資料の運搬、陳列、金銭の取扱いは、各自の責任でお願いします。

6 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

- 1 趣 旨 企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職、リーダーを対象に実施する。
講演及びパネルディスカッションでは、労働経済学の視点から、働く女性を取り巻く状況について分析するとともに、女性活躍促進に有効な対応策について具体的に考える。グループワークでは、参加者の直面する疑問や課題に向き合い、解決の方向を探り、情報交流会において参加者同士による情報交換やネットワークづくりの場を提供する。
- 2 主 催 N W E C
- 3 後 援 経済産業省、厚生労働省
- 4 会 場 1日目（10月15日）放送大学東京文京学習センター
2日目（10月16日）N W E C
- 5 期 日 平成27年10月15日（木）～10月16日（金）1泊2日
- 6 対 象 企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職及びリーダー
官公庁・独立行政法人からの参加も可
- 7 参加者 96名

8 都道府県別参加者数

(名)

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	—	埼玉県	7	岐阜県	1	鳥取県	—	佐賀県	—
青森県	—	千葉県	5	静岡県	1	島根県	—	長崎県	1
岩手県	—	東京都	54	愛知県	2	岡山県	—	熊本県	—
宮城県	2	神奈川県	12	三重県	—	広島県	1	大分県	—
秋田県	—	山梨県	—	滋賀県	—	山口県	—	宮崎県	—
山形県	1	新潟県	—	京都府	—	徳島県	—	鹿児島県	—
福島県	1	長野県	—	大阪府	2	香川県	—	沖縄県	—
茨城県	4	富山県	—	兵庫県	—	愛媛県	1	無回答他	—
栃木県	—	石川県	1	奈良県	—	高知県	—	合 計	96
群馬県	—	福井県	—	和歌山県	—	福岡県	—		

9 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
10月15日 13:00～13:10	(1) 開会 主催者あいさつ	内海 房子(NWEC理事 長)	
13:10～14:10	(2) 講演「なぜ日本は女性の活躍 が進まないのか ～労働経済学の 視点から女性活躍推進の現状を探 る～」 女性活躍推進の現状について労働 経済学の視点から分析し、女性活 躍を推進するための方向性や対応	講師： 川口 大司(一橋大学大 学院経済学研究科教授)	国の成長戦略の柱でもある 「女性活躍推進」の取組は各企 業で行っているものの、なかな か進まない現状について、最新 の統計データ等を使って、労働 経済学の視点からの解説があっ た。「統計的差別」や「予言の自

	策を探る。		己成就」などの影響により、女性はこうであるだろうとの予測が仕事の分担や登用に影響している、との指摘があった。今後は女性が働き続けられる仕組みづくりや男性の働き方改革等、社会システムの変化の必要性が指摘された。
14:20～15:00	(3) 解説「女性活躍推進法」について	講師： 中込 左和(厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 雇用均等政策課均等業務 指導室室長補佐)	平成27年8月に成立した「女性活躍推進法」の具体的な内容についての解説・質疑応答があった。
15:10～17:00	(4) パネルディスカッション 『女性活躍』に“本気”で取り組む 内海理事長コーディネートのものと、『女性活躍推進』を“本気”で取り組む企業3社のパネリストから先進企業の成功事例と、自身の経験も交えた女性活躍における課題や方向性について議論する。	パネリスト： 山内 千鶴(日本生命執行役員CSR推進部長) 小嶋美代子(株式会社日立ソリューションズ人事総務統括本部ダイバーシティ推進センタ長) 鳥取 桂(株式会社大塚製菓常務執行役員) コメンテーター： 川口 大司 コーディネーター： 内海 房子	パネリストからは、女性活躍を経営戦略にのせて取り組むこと、トップからのメッセージの重要性、ダイバーシティの視点から企業のイノベーションが生まれること等の紹介があった。女性活躍を更に進めるためには、SNSやHPを使ってイクメンや女性登用の成功例を社内外に周知する工夫等のヒントの提示があった。
17:00～17:10	(5) 1日目閉会(1日目のみ参加者アンケート記入及び回収)		
17:30～18:30	(6) 情報交流会 (希望者のみ参加) 全国からの参加者と交流し、参加者同士のネットワークづくりを行う。※立食形式で夕食を兼ねる。 ※2日目参加者は専用バスにてNWE Cへ移動		リラックスした雰囲気の中で、講師や参加者同士による情報交換やネットワークづくりがすすめられた。
10月16日 9:00～10:00	(7) NWE Cからの情報提供 統計データを用いた国際比較を通じて、女性の活躍と男女共同参画の推進を分かりやすく解説する。	講師： 中野 洋恵(NWE C研究国際室長)	国内外のデータを基に、日本における女性活躍促進の現状について詳しく知り、課題把握をすることができた。
10:15～12:00	(8) グループワーク1 グループに分かれて、リーダーシップをとる際に必要なコミュニケーション手法(アクションラーニング)について学ぶ。 アクションラーニングを用いて、参加者同士の背景や問題意識を共有し、講演やパネルディスカッションで得たことの相互理解を深める。	コーディネーター： 堀本麻由子(NWE C事業課客員研究員) ファシリテーター： 早川 枝里(NWE C事業課客員研究員) 洲脇みどり(NWE C事業課客員研究員) 佐伯加寿美(NWE C事業課専門職員) 小井川 聡(NWE C事業課専門職員)	自己紹介に時間をかけることで、各自が所属する企業の取組や課題について、お互いに十分理解することができた。 他業種ではあるが、組織としての共通の課題に気づくことができた。「アクションラーニング」の手法を活用し、参加者一人ひとりが各企業の課題に向き合い、課題解決の方策を探った。

		島 直子 (NWE C 研究国際室研究員) 櫻田今日子 (NWE C 事業課長)	
13:00～14:45	(9) グループワーク 2 引き続き、グループごとにアクションラーニングに基づいたディスカッションを行い、話し合ったことを発表して全員で共有する。	コーディネーター： 堀本麻由子 ファシリテーター： 早川 枝里 洲脇みどり 佐伯加寿美 小井川 聡 島 直子 櫻田今日子	自組織での問題を提示し、「アクションラーニング」を用いながら、解決策を探った。 参加者が、他のグループの課題についてもその検討成果を共有できた。
14:45～15:00	(10) 閉会・アンケート記入		

10 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

企業における女性の活躍推進を図るため、関係省庁からの後援を申請した。パネルディスカッションの3社を経済産業省の「ダイバーシティ経営企業100選」から選定し、プログラムの「女性活躍推進法」の解説は厚生労働省に依頼した。

講演については、労働経済学の視点から、研究者である川口氏に講師を依頼し、データから客観的に見た日本の現状とその原因について解説する等、参加者にとって新鮮な内容となるよう工夫した。

パネルディスカッションでは、内海理事長をコーディネーターに、「“本気”で取り組む」をキーワードに、事例発表とパネリスト自身の経験談を話に盛り込むことにより、ロールモデルとしての存在も含めて、「女性活躍を更に進めて行くには」をテーマにした課題解決への討議を目指した。

グループワークについては、効率のよい会議に必須であるアクションラーニングの手法を知り、続いて実際にアクションラーニングに基づいたディスカッションを体験するプログラムを設定した。

今回は1日目を東京会場で行うことで、講演とパネルディスカッションだけでも聞きたい者に参加を広げるよう工夫した。2日目の情報提供とグループワーク参加者については、東京会場から嵐山まで専用バスを用意し、スムーズに移動できるよう工夫した。

情報交流会は東京会場でプログラム終了後、ケータリングサービスを利用して行い、2日間参加できなくても、参加者同士の情報交換やネットワークづくりができるような場を提供した。

11 プログラム全体で得られた知見

講演からは、少子高齢化の進むこれからの社会では、女性活躍はイデオロギーの問題でも選択肢の一つでもなく、日本社会を維持していく上で必須の課題であること、男性と女性とでは未だに賃金格差が大きいこと等の問題が洗い出された。企業の課題としては、女性のリテンションと登用、男性同様にフルタイム勤務を続けること、またその実現のために男性の長時間労働等働き方を変えること等、社会のシステム自体が変化する必要性について知見を得た。

パネルディスカッションでは、どの社からも女性活躍を経営戦略にのせて取り組むこと、トップからのメッセージの重要性、ダイバーシティの視点からこそ企業のイノベーションが生まれること等の提示があった。パネリストから参加者に向けてのメッセージとして、女性活躍先進企業に自ら出向いて情報収集すること、革新的な者を生み出す土壌、ダイバーシティの視点を醸成すること等具体的な助言があった。

グループワークについては「アクションラーニング」について学びたいという参加者もおり、質問中心に進めるこの手法は、短時間で効率よく課題の洗い出しから対策の提案まで行えることに、有意義であったとの感想が数多く寄せられ、参加者の直面する疑問や課題に向き合い、解決の方向を探ることができた。

「パネリストの存在が刺激になり、思いやメッセージが心に響いた」「労働経済学という学問的見地からの分かりやすい解説で、改めて知識を習得できた」「情報・気づき・ネットワーク・運営等あらゆる面で満足した」「社内の男性上司への説得材料にセミナーで得たデータが有効だと思った」等の意見があった。

1.2 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度 97.6% (非常に満足53.0%、満足44.6%)
- (2) 参加者のプログラムの有用度 98.8% (非常に有用55.9%、有用42.9%)

1.3 今後の課題及び展望

平成26年度から1日目を東京会場としたことは、参加者を募集する上では大きな効果があった。1日目プログラム終了後の東京会場での情報交流会についても、日帰り参加者も参加できて好評であった。

専用バスでの移動も時間のロスがなく大変好評であり、参加者の増加にもつながっている。来年度もこの形態で開催することが望ましい。

昨年度、官公庁や独立行政法人からの参加問い合わせがあったため、今年度は独立行政法人や都道府県にも広報したところ、企業以外の官公庁等からの申込が2割近くあり、「企業に学べ」という他業種からのニーズが感じられた。新聞社や経済団体に広報の協力も得られているので、今後も引き続き周知に努めたい。

7月に行われた「ダイバーシティリーダー会議」のリピーター、同僚や部下に、本セミナーを案内してくれた者もあり、参加者のネットワークが構築されてきている。

参加者へのデータ配信や動画公開については好評であり、来年度も引き続き行いたい。



講演「なぜ日本は女性の活躍が進まないのか
～労働経済学の視点から女性活躍推進の現状を探る～」



パネルディスカッション



情報提供



グループワーク

7 大学等における男女共同参画推進セミナー

- 1 趣 旨** 男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに課せられた責務であり、高等教育機関としての大学、短期大学、高等専門学校においても、その一翼を担うべきことが求められている。一方、時代に適合した特色ある大学経営を進めるための経営戦略の一つに「男女共同参画」を位置付け、取り組むことが大学の研究力を上げ、学生を指導していく上で極めて有効である。本セミナーでは、大学が進むべき方向についての基調講演や講義、これまで各大学が取り組んできた女性活躍推進についての具体的な好事例の紹介や、これからの男女共同参画推進を取り巻く状況についての豊富なデータ分析を通じ、学内で男女共同参画に携わる教職員を対象として、専門的・実践的な研修を行う。
- 2 主 催** 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 3 後 援** 一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、日本私立大学団体連合会、全国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会、独立行政法人国立高等専門学校機構
- 4 会 場** 1日目（12月3日） プラザエフ（主婦会館）
2日目（12月4日） NWE C
- 5 期 日** 平成27年12月3日（木）～12月4日（金） 1泊2日
- 6 対 象** 大学・短期大学・高等専門学校の男女共同参画に携わる教職員及び女性の採用、就労、入学、キャリア教育、就職に関わる総務・人事・入試・就職部門の教職員
- 7 参加者** 参加者数115名

8 都道府県別参加者数

(名)

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	2	埼玉県	4	岐阜県	2	鳥取県	—	佐賀県	—
青森県	3	千葉県	3	静岡県	6	島根県	—	長崎県	2
岩手県	3	東京都	39	愛知県	2	岡山県	2	熊本県	1
宮城県	4	神奈川県	4	三重県	3	広島県	2	大分県	1
秋田県	—	山梨県	—	滋賀県	—	山口県	1	宮崎県	—
山形県	3	新潟県	2	京都府	3	徳島県	2	鹿児島県	—
福島県	1	長野県	—	大阪府	5	香川県	1	沖縄県	1
茨城県	1	富山県	2	兵庫県	—	愛媛県	—	無回答他	—
栃木県	1	石川県	2	奈良県	1	高知県	1	合 計	115
群馬県	1	福井県	—	和歌山県	1	福岡県	3		

9 プログラムデザイン

別紙添付

10 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
12月3日 13:30～13:40	(1)開会 ①主催者あいさつ ②プログラムの趣旨説明	①内海 房子 (NWE C 理事長) ②佐伯加寿美 (NWE C 事業課専門職員)	

13:45～15:15	<p>(2) 基調講演「21世紀の日本は女性が救う」</p> <p>UN Womenにおいて女性が活躍する世界10大学の一つに選ばれた名古屋大学で、平成27年3月まで総長であった濱口道成氏による講演。研究と教育という大学の使命を踏まえ、学内全体への男女共同参画意識の浸透や推進体制を構築することの必要性等、大学において男女共同参画の推進に取り組むことの意義をテーマとする。</p>	講師：濱口 道成 (国立研究開発法人科学技術振興機構理事長、名古屋大学名誉教授、文部科学省科学技術・学術審議会会長)	グローバルな視点で日本を見たときに、日本の女性の活躍が喫緊の課題であること、世界の課題や日本の課題を幅広くとらえることの大切さについて学んだ。また、これからの超高齢社会を支えるために、女性リーダーを育てることの重要性や、大学で男女共同参画を進めていくために粘り強い活動が必要なこと、若いお父さんやお母さんを愛情をもって包み込む社会が必要なこと、自由な発想が持続可能な社会やイノベーションを生み出すこと等が提言された。
15:30～17:00	<p>(3) 講義「なぜ、女性活躍促進に取り組むのか? ～企業の取り組みの視点から～」</p> <p>諸外国をはじめ日本の企業が、今なぜこれほど熱心に、女性の活躍に取り組んでいるのか。その意義と効果について、「日経WOMAN」編集長、日本経済新聞社・編集委員として多くの取材や記事執筆を手がけた野村浩子氏が、その経験と豊富なデータを踏まえ、そのポイントについて解説する。</p>	講師：野村 浩子 (ジャーナリスト、淑徳大学教授)	豊富なデータを基に、「女性活躍に関しては他国に遅れをとっている」との指摘があった。女性活躍の2つの軸を、「仕事と生活の両立支援」と「キャリア形成支援」に置き、改革を進めていくことが大切であり、様々なタイプのロールモデルを参考にし、小さなグループのまとめ役から、少しずつリーダーとしての成功体験を重ねることの必要性が指摘された。
17:10～17:40	<p>(4) 施策説明「女性活躍推進法について」</p> <p>8月に成立した「女性活躍推進法」により、女性活躍促進に向けて、大学等における取組も、より実行力のある計画が、待たなしで求められている。「女性活躍推進法」を踏まえた行動計画等作成のための説明を行う。</p>	講師：高橋 雅之 (文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長)	行動計画を策定する前に、状況把握や課題分析をすること、フローチャートで行動計画を分かりやすく示すこと等の必要性が指摘された。平成28年4月から公表される行動計画作成の指導があった。
17:50～18:50	<p>(5) 情報交換会 (希望者のみ参加)</p>		自校での課題を解決するヒントを得ることや、参加者同士のネットワークを広げることを目的とした。他校の取組を知り、共通の苦労や悩みを共有する機会となった。
12月4日 9:00～9:30	<p>(6) 情報提供「大学における男女共同参画推進の実態」</p> <p>NWECが実施した「大学等における男女共同参画に関する調査研究」の成果をとりまとめた『実践ガイドブック』(本研修テキスト)を用いながら、大学を取り巻く状況や直面する課題について解説する。</p>	説明：飯島 絵理 (NWEC研究国際室研究員)	大学における男女共同参画に向けた取組に、期待をふくらませるものとなった。

<p>9:40～12:30</p>	<p>(7) 分科会</p> <p>大学における男女共同参画推進の主要な課題について、事例報告を基にディスカッションを行い、明日からの具体的な取組につながる知見を培う。</p> <p><分科会1>「男女共同参画の視点に立った職場環境づくり」</p> <p>分科会1では、国立大学と私立大学の取組事例を基に、ダイバーシティ促進の上でも不可欠な研究や仕事と育児・介護というライフイベントとの両立をめざした環境づくりについて考える。</p> <p><分科会2>「女子学生のキャリア形成支援」</p> <p>分科会2では、国立大学と私立大学と高等専門学校を取組事例を基に、大学等における女子学生キャリア支援について考える。大学は、就職だけではなく、その後のキャリアを形成するために、女子学生をどう育て、どのように社会へ送り出すべきかを考える機会とする。</p>	<p>コーディネーター： 長安めぐみ（群馬大学男女共同参画推進室コーディネーター）</p> <p>事例① 報告者：渡部 修（関西大学総務局人事課長）</p> <p>事例② 報告者：物部 剛（京都産業大学学長室戦略企画担当課長）</p> <p>事例③ 報告者：森永 康子（広島大学副理事・男女共同参画推進室長／広島大学大学院教育学研究科教授）</p> <p>コーディネーター： 上西 充子（法政大学教授）</p>	<p>分科会1では、コーディネーターから参加者のネットワークづくりとして、課題解決の源になる、顔と顔とのつながりをつくってほしい。また、大学は縦のつながりは強いが、是非横のつながりを強くしてほしい、との提案があった。</p> <p>事例① 「関西4大学共同宣言」のもとに「関西大学男女共同参画に関する基本方針」を策定し、それに基づき、短期的視点から、実現可能なもの、発信可能なもの、検討を要するものに区分し、随時、様々な取組を着実にしているとの報告があった。</p> <p>事例② 「男女共同参画宣言」を独自に掲げ、学長主導の下、意識啓発、両立支援、研究キャリア支援等を経営戦略として取り組んでいるとの報告があった。</p> <p>事例③ 推進室を早くから立ち上げ、特に子育て支援と介護支援の2つに力を入れてきており、保育所の拡充やセミナー等の開催を通して、着実な取組をしているとの報告があった。</p> <p>分科会2では、コーディネーターから、「キャリア形成支援は、様々なカリキュラムの中で行われる必要がある。就職ガイダンスでもキャリア形成支援の視点もちたい」と、キャリア形成支援の大切さについて話があった。</p>
-------------------	---	---	--

		<p>事例① 報告者：古瀬 憲弘（立教大学キャリアセンター就職支援課）</p> <p>事例② 報告者：武内真美子（九州大学男女共同参画推進室准教授）</p> <p>事例③ 報告者：内田由理子（香川高等専門学校詫間キャンパス一般教育科教授）</p>	<p>事例① 男女共生支援ということで、男女平等を根本理念に据えて、1年に2～4本のセミナーやガイダンス等を行い、ワークショップやパネルディスカッションをとおしてキャリア形成支援に取り組んでいることの報告があった。</p> <p>事例② 男女共同参画推進体制に学生教育等部門を位置づけ、専任の教員やスタッフがジェンダーキャリア教育等を中心に検討していること、結果としてグループワークやディスカッションを取り入れ、工夫した講義になるようにしているとの報告があった。</p> <p>事例③ 女子学生のキャリア支援のためのワークショップを行い、夢と希望がもてるような取組をしているとの報告があった。</p>
13:45～14:15	<p>(8) 全体会 各分科会の報告により、参加者の情報共有を行う。</p>	<p>分科会報告者： 長安めぐみ 上西 充子 コーディネーター： 渡辺 美穂（NWE C 研究国際室研究員）</p>	<p>各分科会での事例発表の内容やグループ討議の様子等について、全体会で報告し合い、参加者の情報共有を行う目的で実施した。参加者にとっては、自分が参加していない他の分科会の概要を把握することができ、自身の研修内容の幅を広げる機会となった。</p>
14:15～14:30	<p>(9) 閉会・アンケート記入</p>		

1.1 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・過去2年間、研修参加者募集に苦労したことから、対象者を「大学・短期大学・高等専門学校の男女共同参画に携わる教職員」から、「大学・短期大学・高等専門学校の男女共同参画に携わる教職員及び女性の採用、就労入学、キャリア教育、就職に関わる総務・人事・入試・就職部門の教職員」に広げ、学内において男女共同参画推進を実質的に担う教職員に研修の場を提供するようにした。
- ・研究者養成型以外の教育中心の大学や私立大学でも興味・関心をもって参加してもらえるよう、1日目に、濱口道成氏（前名古屋大学総長・現JST理事長）による、大学における経営戦略の視点から男女共同参画推進の重要性について考える講義を組んだ。
- ・1日目の会場をアクセスのよい四ツ谷にすることで、参加者増を期待した。例年定員を上回るかどうかのところで苦労していたが、100名を超える参加者を得た。
- ・大学が、研究・教育の場であると同時に、教職員にとっては働く場であることも踏まえたテーマの分科会を設定した（分科会1「男女共同参画の視点に立った職場環境づくり」）。
- ・女子学生向けのキャリア形成支援の取組は、女子大学のみならず共学においても、高等教育機関の生き残りをかけた戦略の一つであるという視点から、分科会を設定した（分科会2「女子学生のキャリア形成支援」）。
- ・情報提供は、NWE C 研究国際室が実施した「大学等における男女共同参画に関する調査研究」のヒアリング

調査先や調査研究の一環で作成した『実践ガイドブック』掲載事例から行い、調査研究の成果と研修事業の循環を意識した。

1.2 プログラム全体で得られた知見

日本の大学教育における男女共同参画度の低さが、人材育成や知の創造等「大学の使命の達成」を阻害する問題点であることを踏まえ、大学間競争の加速を背景に、教員組織と職員組織の連携・協働の必要性が増す中で、研究者養成はもちろんのこと、トップマネジメント人材やスタッフ人材においても、その発掘・育成には、男女を問わず広く人材を登用するという男女共同参画の視点が不可欠であることを、基調講演、講義、分科会などの2日間にわたるプログラムを通して、理解することができた。

1.3 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度 98.9% (非常に満足62.2%、満足36.7%)
- (2) 参加者のプログラムの有用度 94.1% (非常に有用50.1%、有用44.0%)

1.4 今後の課題及び展望

- ・昨年度の反省を生かし、ライフイベントに直面した卒業生支援や、社会貢献としての女性の生涯学習支援への大学の貢献、女子高校生に特化した学生募集戦略の工夫等、大学としての「女性」に関する総合的・包括的な戦略づくりへの支援をコンセプトにした結果、例年より大幅増の115名の応募を得た。
- ・2日間通しての参加者は59名ということで、まだまだ多いとは言えない。女性研究者支援に関する他機関・他大学のセミナー等との差別化を図らなければ、全日程の参加者を増やすことは難しい。男女共同参画室の担当者にとどまらず、教務や広報担当者をも惹きつけるプログラム内容を、今後も考える必要がある。



基調講演「21世紀の日本は女性が救う」



講義「なぜ、女性活躍促進に取り組むのか？」



分科会1「男女共同参画の視点に立った職場環境づくり」



分科会2「女子学生のキャリア形成支援」



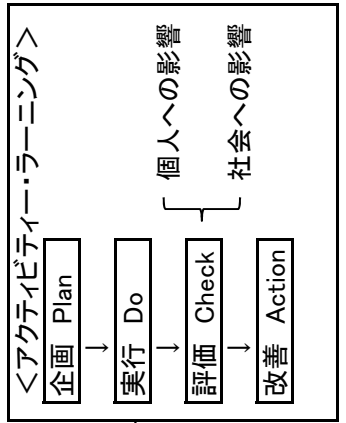
全体会

平成27年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」プログラムデザイン

【プログラムの特徴】

- ① 男女共同参画の視点をもち、実態把握・課題分析を行い、実践力に結びつける。
- ② 参加者同士の関係・連携を向上させる。
- ③ 実践事例を重視する。
- ④ 研修の成果を自校に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ生かす。

<p>対象 大学・短期大学・高等専門学校 の男女共同参画に携わる教職員及び女性の採用、就労、入学、キャリア教育、就職に関わる総務・人事・入試・就職部門の教職員 大学等における男女共同参画を推進する上での特徴的な課題・阻害要因を知り、女性の活躍を促進させる(「女性活躍推進法」についての理解)。 大学が進める男女共同参画の推進や企業が求める優秀な女子学生の獲得に関する方策をディスカッションし、情報共有する。</p>	<p>目的 実践力</p>	<p>実践へのつながり</p>
<p>内容</p>	<p>実態・課題把握・課題分析</p> <p>男女共同参画推進の視点</p> <p>基調講演 「21世紀の日本は女性が教える」</p> <p>・本プログラムの意義を理解する意味。</p> <p>・研究と教育という大学の使命を踏まえ、学内全体への男女共同参画意識の浸透や推進体制を構築することの必要性等、大学において男女共同参画の推進に取り組むことの意義を理解する。</p> <p>講義「なぜ、女性活躍促進に取り組むのか? ~企業の取組の視点から~」</p> <p>・今、企業の多くは、組織の生き残りをかけ、女性の活躍やダイバーシティの促進に本気で取り組んでいる。女性の活躍促進は、世界的に見ても先進国を中心に目覚ましく進んでおり、これからの日本を考える上で極めて重要な課題となっている。諸外国をはじめ日本の企業が、なぜこれほど熱心に、女性の活躍に取り組んでいるのか。その意義と効果についてダイバーシティ、特に女性の活躍促進、ワークライフバランスの視点から大学の経営戦略を考える時間としたい。</p> <p>施策説明「女性活躍推進法について」 情報提供「大学における男女共同参画推進の実態」</p>	<p>課題把握・課題解決に向けた実践力</p> <p>分科会 ＜分科会1＞ 「男女共同参画の視点に立った職場環境づくり」 ＜分科会2＞ 「女子学生のキャリア形成支援」 全体会</p> <p>グループワーク</p>
<p>方法</p>	<p>講義と質疑、報告</p>	<p>アンケート記入</p>



8 女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）

- 1 趣 旨 女性に関する原資料（女性アーカイブ）の具体的な保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一步として、実務者を対象に基礎情報を提供する。また、関係者相互に情報交換を行いネットワークづくりを進める。基礎コース修了者向けには、実習を取り入れたより実践的なプログラムを提供する。
- 2 特 徴 「基礎コース」の修了者を対象に、実務に必要な基本的な技術を学ぶためのより実践的な「実技コース」を実施する。「基礎コース」では、女性アーカイブ概論をはじめ、著作権、資料の保存・活用に関する知識や情報を提供する講義のほか、アーカイブのネットワークや構築の事例報告を行う。「実技コース」では、展示施設の空間づくりについてワークショップがあり、紙資料の修復に関わる技術について実習を行う。
- 3 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 4 会 場 NWE C
- 5 期 日 平成27年12月9日（水）～12月11日（金）
「基礎コース」：平成27年12月9日（水）～12月10日（木）1泊2日
（どちらか1日だけの参加も可）
「実技コース」：平成27年12月10日（木）～12月11日（金）1泊2日
- 6 対 象 女性関連施設職員、図書館の実務担当者、地域女性史編纂関係者
基礎コース：30名
実技コース：20名
- 7 参加者 「基礎コース」：27名、「実技コース」：19名

8 都道府県別参加者数（内訳：基礎コース/実技コース） (名)

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	-/-	埼玉県	6/2	岐阜県	-/-	鳥取県	-/-	佐賀県	-/-
青森県	-/-	千葉県	3/2	静岡県	-/-	島根県	-/-	長崎県	1/1
岩手県	-/-	東京都	8/6	愛知県	-/-	岡山県	-/-	熊本県	-/-
宮城県	1/1	神奈川県	2/2	三重県	-/-	広島県	-/-	大分県	-/-
秋田県	1/1	山梨県	-/-	滋賀県	-/-	山口県	-/-	宮崎県	-/-
山形県	1/-	新潟県	-/-	京都府	1/1	徳島県	-/-	鹿児島県	-/-
福島県	-/-	長野県	1/-	大阪府	-/-	香川県	-/-	沖縄県	-/-
茨城県	1/2	富山県	-/-	兵庫県	1/1	愛媛県	-/-	無回答他	-/-
栃木県	-/-	石川県	-/-	奈良県	-/-	高知県	-/-	合 計	27/19
群馬県	-/-	福井県	-/-	和歌山県	-/-	福岡県	-/-		

9 プログラムの構成・得られた成果

<基礎コース>

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
12月9日 13:05～13:15	(1)開 会 ・主催者あいさつ (2)オリエンテーション	内海房子（NWE C理事 長）	

13:15～14:35	(3) アーカイブの実践 アーカイブ機関における実践事例について学ぶ。	山口美代子（市川房枝記念会女性と政治センター） 今村 規子（虎屋文庫）	講師の所属組織におけるアーカイブ展示や保存の事業を詳細な事例とともに紹介することで、参加者自身が担当するアーカイブをどのように活用していくかを考える機会となった。紹介されたそれぞれの事業も、周知によって発展の可能性が広がった。
14:50～15:50	(4) アーカイブと著作権・肖像権・プライバシー デジタルアーカイブ構築時に役立つ著作権・肖像権・プライバシーの基礎知識を学ぶ。	小林 利明（骨董通り法律事務所弁護士）	著作権にかかわる基礎的な知識とともに、最近の動向や将来の見通し等の解説によって、業務にあたって留意すべき点を具体的に確認できた。
16:00～17:00	(5) 女性アーカイブ概論 女性に関わる原資料及び組織の役割とその可能性について学ぶ。	小川千代子（国際資料研究所代表・藤女子大学教授）	女性アーカイブズの意義や役割など、基礎的な事項について情報が得られた。
17:15～17:45	(6) 女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学 （希望者のみ）		アーカイブ資料の保存・提供の現場を見て、職場で生かせる点や今後のアーカイブ運営に役に立つことを参加者各自の視点で学んだ。
19:30～20:30	(7) 情報交換会 （希望者のみ） 参加者相互の情報交換やネットワークづくりの場を提供する。		講師やNWE C職員も交えて情報交換を行い、幅広く交流する機会となった。
12月10日 9:00～10:10	(8) 女性アーカイブの収集・選定・活用 女性アーカイブの収集・選定方法や国内外の収集事例について学ぶ。	青木 玲子（NWE C情報課客員研究員）	女性アーカイブの事例が講師自身の豊富な経験に基づいて紹介され、参加者の所属組織が所蔵する資料の利活用に対する有効な手助けとなった。
10:20～11:30	(9) フィルム・写真の保存とデジタルアーカイブ フィルム・写真の管理・保存やデジタルアーカイブの構築について、基礎的な知識を学ぶ。	肥田 康（株式会社堀内カラー）	保存・管理に当たって必要な機材や資料の事例について詳細な知識を得ることができた。個別の質問や解説の要望にも答え、参加者が抱える個別の問題を解決する契機となった。
11:30～11:35	(10) 閉会		

<実技コース>

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
12月10日 13:45～14:00	(1) 開会 ・主催者あいさつ ・オリエンテーション	内海 房子（NWE C理事長）	
14:00～17:00	(2) アーカイブ展示の手法 資料展示のポイントや展示スペースデザイン等について、ワークショップや事例紹介を通じて学ぶ。	尼川 ゆら（空間演出コンサルタント）	前半の講義で基礎的なポイントを学び、後半はNWE Cでの今後の展示企画を素材とした実践的なワークショップを展開することで、より深い理解につなげた。

12月11日 9:00~12:00 13:00~15:00	(3)紙資料の修復関連実習 実技を通して、紙資料の保存・修復方法の基礎を学ぶ。	伊藤 美樹・安藤 早紀 (株式会社資料保存器材)	修復の方法は多種多様にわたるため、すべてを実践することは難しいが、何ができるのかを認識することができた。実習にあたっては、参加者全員が実技を行い、用意されたすべての課題を完成させた。
15:00~15:05	(4)閉会		

10 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

毎年参加者から希望の多い「資料保存方法」の講義を実施した。前回とは専門分野・傾向の異なる講師を迎え、それぞれ最新のトピックスを取り入れて、過去の講義との差別化を図った。日程全体の流れは、理論的・概念的な内容から徐々に具体的な内容へと移り、知識や経験の少ない初心者が理解しやすいように配慮した。

「実技コース」の内容も過去のアンケート結果を反映させ、昨年度も好評だった「資料の展示」及び「資料の修復」で構成した。

参加者の意向や担当業務を踏まえて、より個人の実務に即した内容となるよう、講師と打ち合わせの上調整した。また、参加者同士の交流を支援するための情報交換会を設けた。

11 プログラム全体で得られた知見

参加者アンケートでは、「基礎コース」「実技コース」ともに全体の満足度・有用度が98%以上となり、研修内容が高く評価された。質疑応答も活発に行われ、女性アーカイブ担当者が現場で生かせる基礎的な知識を得、疑問を解決するための機会を提供できた。

12 プログラムの成果

(1) 参加者の全体の満足度について

「基礎コース」 100.0% (非常に満足 68.0%、満足 32.0%)

「実技コース」 100.0% (非常に満足 82.4%、満足 17.6%)

(2) 参加者のプログラムの有用度について

「基礎コース」 98.7% (非常に有用 74.5%、有用 25.2%)

「実技コース」 100.0% (非常に有用 90.3%、有用 9.7%)

13 今後の課題及び展望

参加者にとってより魅力的な研修となるよう、プログラムの内容や全体の流れを見直して改善を図る。基本となる内容を維持しながらも、新しいテーマを取り入れる可能性を探り、更に充実したプログラムを目指す。併せて、広報の範囲や手法をより拡張して本研修の周知に努めたい。



女性アーカイブの収集・選定・活用



女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学



紙資料の修復関連実習



アーカイブ展示の手法

9 学習オーガナイザー養成研修

- 1 趣 旨 「男女共同参画の視点に立つキャリア開発」をテーマとした体系化された学習プログラムを企画・実施する「学習オーガナイザー」の養成を目指す。この研修では、キャリアを個人の発達と社会参画の両面からとらえ、男女共同参画の基本理念や取組の意義、社会状況や現代的課題について整理するとともに、学習方法や評価等、事業運営に関する実務的な学びの機会を提供する。
- 2 目 的 (1) 男女共同参画意識の醸成、キャリア開発の基礎的理解、実態・課題把握を踏まえた課題解決に結びつくプログラムの企画・実践力を形成する。
(2) 「男女共同参画」と「キャリア開発」の二つの視点に立った学習プログラムを企画・実施できる人材の育成を通じ、男女共同参画社会の形成を推進する。
- 3 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 4 会 場 NWE C
- 5 期 日 平成28年1月13日（水）～1月15日（金） 2泊3日
- 6 対 象 女性関連施設、公民館、行政、大学、NPOなどで、研修・学習事業、女性のキャリア開発、女性の活躍推進に係る事業等の企画・実施経験を有する者
- 7 参加者 35名

8 都道府県別参加者数 (名)

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	3	埼玉県	3	岐阜県	—	鳥取県	—	佐賀県	—
青森県	—	千葉県	1	静岡県	1	島根県	—	長崎県	—
岩手県	2	東京都	4	愛知県	—	岡山県	—	熊本県	1
宮城県	—	神奈川県	1	三重県	—	広島県	—	大分県	1
秋田県	1	山梨県	—	滋賀県	—	山口県	1	宮崎県	—
山形県	—	新潟県	—	京都府	—	徳島県	—	鹿児島県	—
福島県	1	長野県	2	大阪府	1	香川県	—	沖縄県	1
茨城県	1	富山県	—	兵庫県	2	愛媛県	—	無回答他	—
栃木県	3	石川県	1	奈良県	—	高知県	—	合 計	35
群馬県	1	福井県	1	和歌山県	1	福岡県	1		

9 平成27年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員

- ・ 亀田 温子 十文字学園女子大学人間生活学部教授
- ・ 神田 道子 東洋大学名誉教授、NWE C事業課客員研究員
- ・ 西山恵美子 NWE C事業課客員研究員
- ・ 松下 光恵 NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか代表理事

10 プログラムデザイン

別紙添付

11 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
1月13日 13:00～13:50	(1) 開会 ①主催者あいさつ ②オリエンテーション	①内海 房子 (NWE C 理事長) ②引間 紀江 (NWE C 事業課専門職員)	
14:00～15:30	(2) 講義「男女共同参画の基礎的理解を深めるために」 男女共同参画の歴史的経緯や、個としての女性と社会との関係等を踏まえ、男女共同参画の今日的な理解について講義を行う。	神田 道子 (東洋大学名誉教授、NWE C 事業課客員研究員)	歴史的・社会的な位置と役割を把握することの重要性、男女共同参画社会基本法を柱とした社会的共通基盤と具体的な実践が必要であること、また個人の能力開発にとどまらず社会的人材の育成を進める必要があることについて論じられ、そのためには「自他の尊重」の方向性・視点をもつこと、単に知る・聞くだけではなく、オーガナイズされた学習が重要であるとの基礎的理解を深めた。
15:45～17:15	(3) 講義「キャリア開発の基礎的理解を深めるために」 キャリア開発の基礎的理解及びその現代的意味についての理解を深め、またキャリアのもつ個人的側面と社会的側面について学ぶ。	亀田 温子 (十文字学園女子大学人間生活学部教授)	持続可能な社会の開発に男女がどうか関わっていくのか、なぜ今「キャリア開発」なのか、持続可能な開発目標 (SDG s) を踏まえた理解ができた。変化する社会の中、あらためて学習プログラム全体の企画と組立をする「オーガナイザー」の視点の重要性について理解を深めた。
19:00～20:30	(4) ワークショップ1「キャリア開発上の課題共有」 年齢・性別・所属等、属性や状況に起因する課題について、職業及び社会活動上のキャリアの多様性を踏まえ、ワールドカフェ形式で共有する。	引間 紀江	若年層 (大学生、社会人)、中年期 (中断再就職、就業継続)、高年期の各年代の置かれている状況、キャリア上の課題、強みと弱みについて、グループごとに抽出・共有した。ワークショップを体験し、体験学習のサイクルに添った学びとなった。
1月14日 9:00～9:50	(5) 講義「統計から考える男女共同参画の現状」 意識調査、国際比較調査等の豊富な統計データについての解説を交えながら、日本の男女共同参画の現状を読み解く。	渡辺 美穂 (NWE C 研究国際室研究員)	「第4次男女共同参画基本計画」におけるジェンダー統計の位置づけ、世界における男女の現状及び実態等の解説により、客観的な数値を示すことが事業や計画作りのプロセスに役立つこと、自分の地域データと全国とを比較して課題を明らかにすることの重要性を理解した。

10:00～11:00	<p>(6) 講義「協働型学習の理論・方法について」 協働型学習（グループワーク）による学びを通じた価値意識の差異の認識と、その意味づけの中から実践につながる「気づき」を得ることの重要性について、社会教育の視点から考える。</p>	笹井 宏益(国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長)	国際的には、学校教育だけではなく家庭教育・ボランティア活動・社会教育も含めて「学び」であること、社会教育の本質として実践性・相互性・総合性があり、特に成人の学習においては生活マターであること、課題解決型学習であることがポイントである、との知見を得た。
11:15～12:00	<p>(7) 講義「男女共同参画の視点に立った事業企画のポイント」 学習プログラムを企画する上での現状把握、実施、評価までのPDCAサイクルに基づく運営について、注意点・留意点を学ぶ。</p>	松下 光恵(NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか代表理事)	地域や時代により課題は異なるため、現状・ニーズの把握が必要であり、事業企画の意図・目的を明確にすること、PDCAサイクルに基づく運営の重要性について理解を深めた。また静岡市における実際の事例の紹介もあり、学習プログラム企画のポイントについて、より具体的に知る機会となった。
13:30～15:00	<p>(8) キャリア・インタビュー ライフコースにおけるキャリア開発のプロセスについて、個人の視点と社会参画の視点の双方から、3名のキャリアモデルからのインタビューで学ぶ。</p>	報告： 荒谷 信子(元東広島市教育長、尾道市立大学非常勤講師) 井上 智美(CORAL理事、キャリアコンサルタント) 佐伯加寿美(NWEC事業課専門職員) インタビューア－： 亀田 温子 松下 光恵	3名の職業キャリア及び社会活動キャリアについて、転機と危機をどう乗り越えたのか、何が支援のポイントとなるのか、そのプロセスについての語りから、家族や上司のアドバイス、資格取得や講座等の学びが、次のキャリアにつながるきっかけとなることが明らかになった。 また、キャリアを重ねるために、自分自身が社会参画できる立場に立つことの重要性を理解した。
15:15～17:15	<p>(9) ワークショップ2「キャリア事例分析」 キャリア・インタビューでの事例を参考に、キャリア上の転機や節目の乗り越え方、ライフイベントとの関係を具体的につかみ、キャリア開発を進める要因を探る。</p>	西山恵美子(NWEC事業課客員研究員)	6班(各事例2班ずつ)に分かれ、ワークシートを用いて事例分析を行い、キャリア開発上の転機・節目と危機における支援について整理し討議した。「学習オーガナイザー」による支援のポイントとして、固定的性別役割分業意識の克服、学習の重要性、人間関係の構築等が重要であることを理解した。
18:30～20:00	<p>(10) 情報交換会 全国からの参加者同士のネットワークづくりを図り、交流を深める。</p>		リラックスした雰囲気の中で参加者同士による情報交換やネットワークづくりができた。

1月15日 9:00～11:30	(11) ワークショップ3「キャリア開発に向けた事業計画案づくり」 ①「男女共同参画の視点に立つキャリア開発プログラム」のためのプログラムデザインについて ②事業計画案づくり	①説明： 櫻田今日子(NWEC事業課長) ②ファシリテーター： 西山恵美子 学習支援： 平成27年度企画委員、NWEC事業課専門職員	プログラムデザインを作成することで対象・目的などにブレのない企画となり、企画者・参加者双方の共通理解も図れる等、その利点を学んだ。これを踏まえて若年層(大学生、社会人)、中年層(中断再就職、就労継続)、高年層(女性、男性)の各班に分かれ、キャリア開発学習に向けた事業案としてのプログラムデザインを作成した。
13:00～14:30	(12) まとめと成果の共有 ワークショップ3で作成した事業案の発表とプログラムの検証を行う。また、これまでの学習を踏まえ、学習オーガナイザーの役割を再確認する。	コメンテーター： 神田 道子 西山恵美子	各班の発表に対し、良かった点と今後の改善点を各自がまとめ、それぞれの班に戻した。このフィードバックを基に、事業案を再度練り直し完成させた。自分たちが面白いと思うだけではなく「学習オーガナイザー」として参加する人の立場や状況を思い企画をすること、成果を想定し、全体を俯瞰する視点をもつことの重要性を、再度認識した。
	(13) 閉会		

1.2 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・NWECのキャリア開発に関する研究の知見や研修成果を活用した。
- ・企画委員会との協働により「プログラムデザイン」を作成し、各プログラムの内容を検討、運営した。
- ・平成26年度の成果として、平成27年度「男女共同参画推進フォーラム」において会館提供ワークショップを実施。その成果(キャリア開発学習のためのプログラムデザイン試案の作成、各年代におけるキャリア開発上の課題の抽出)を踏まえ、本研修のプログラムを組み立てた。
- ・全体の研修における各プログラムの位置づけを説明しながら研修を進めることで、学習内容を体系づけ、プログラムデザインを意識できるように努めた。

1.3 プログラム全体で得られた知見

男女共同参画及びキャリア開発の基礎的理解を深めるとともに、成人学習に関する講義、NWECが開発したプログラムデザインの解説、ジェンダー統計、事例分析など、NWECに蓄積された知見やノウハウを存分に盛り込む高度な内容でありながらも、ワークショップなどの参加型学習を多く取り入れたことで、より具体的な理解を促すことができた。

1.4 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度 100.0% (非常に満足 78.8%、満足 21.2%)
(2) 参加者のプログラムの有用度 100.0% (非常に有用 84.8%、有用 15.2%)

1.5 今後の課題及び展望

2回目の試行となり、プログラム内容の精査や運営ノウハウの蓄積も増えつつあるため、試行的な段階から研修事業としての展開が可能と考える。今後は、講義中の分からない部分をeラーニングで補う、研修修了生による講師・事例報告者への登用、研修成果を生かした事業への協力等、参加者へのフォローアップを意識し、学習人材の循環と研修成果の更なる普及を目指す。



講義「男女共同参画の基礎的理解を深めるために」



ワークショップ1「キャリア開発上の課題共有」



講義「協働型学習の理論・方法について」



まとめと成果の共有

平成27年度「学習オーガナイザープログラムデザイン

【趣旨】

男女共同参画社会を推進するために、学習者に対して効果的な学習プログラムが求められるが、男女共同参画の視点に立った学習プログラムの企画・運営について十分な力量をもった人材は限られており、その養成は課題となっている。個人の側から社会への主体的アプローチとしてのキャリア開発の立場に立ち、男女共同参画の視点からの学習プログラムを企画・展開する「学習オーガナイザー」養成を通じて、男女共同参画社会形成の推進を図る。

【プログラムの特徴】

- ① 男女共同参画の視点に立った体系的な学習プログラムを、効果的に実践・展開できる人材の育成を目指す。
- ② キャリア開発の基礎的理解を得ることができる。
- ③ 学習方法論の基礎的理解と、その活用について学ぶことができる。
- ④ 学習プログラムの作成及び実施能力を高めることができる。
- ⑤ 研修のアウトカムを高める方法を考える。

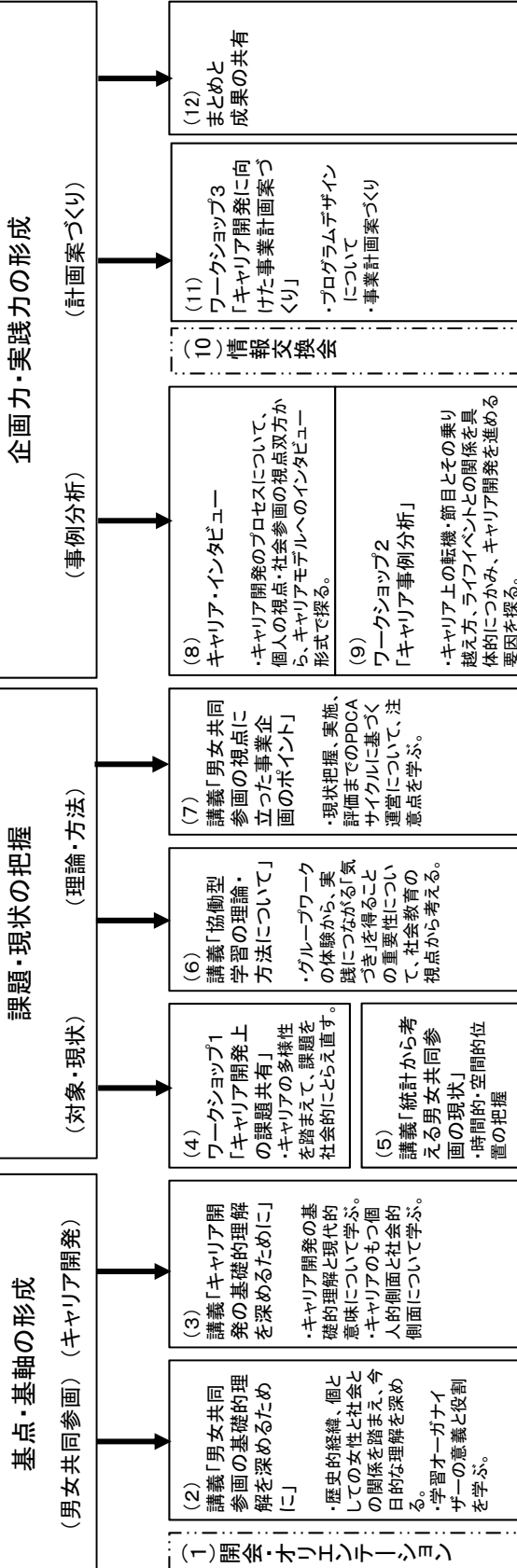
対象

研修・学習事業、女性のキャリア開発、女性の活躍推進にかか事業等の企画・実施経験を有する者 30名

目的

- (1) 男女共同参画意識の醸成、キャリア開発の基礎的理解、実態課題把握を踏まえた課題解決に結びつくプログラムの企画・実践力を形成する。
- (2) 「男女共同参画」と「キャリア開発」の二つの視点に立った学習プログラムを企画実施できる人材の育成を通じ、男女共同参画社会の形成を推進する。

目標



方法

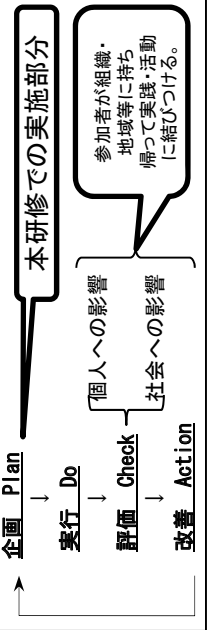
講義・グループワーク

講義・グループワーク

事例分析・グループワーク

まとめ

講義：積み上げられてきた知識の提示と理解
 グループワーク：主体的な学習、連携協働関係の形成
 事例分析：日常経験からの相互学習、事例の重視



10 女子大学生キャリア形成セミナー

- 1 趣 旨** 日本の女性を取り巻く状況は、かつてよりはるかに改善されてきたが、男女平等は未だに実現されていない。働く女性及び担当者レベルでの女性リーダーは増えてきたが、組織における意思決定に関わる女性の割合は極めて低いままである。しかし、男女共同参画社会を実現するためには、女性が職業活動に参加するだけでなく、様々な組織において管理的地位に就き、その意思決定に関わる等、組織活動の中核へ参画することが必要である。
- そこで、自らのキャリアを模索する女子大学生を対象に、以下の3つを学ぶ機会を提供することで、将来、社会や組織を支える女性リーダーを育成し、男女共同参画の推進を図るものとする。

- ① 仕事を持ち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること
(自主自立)
- ② 女性の人生設計に関わる様々な出来事をあらかじめ知っておくこと
(ライフプランニング)
- ③ キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながるという視点をもつこと
(社会を変える・支える志)

- 2 主 催** 独立行政法人国立女性教育会館 (NWE C)

- 3 共 催** リーダーシップ111

- 4 会 場** NWE C

- 5 期 日** 平成28年2月20日(土)～2月21日(日) 1泊2日

- 6 対 象** 女子大学生

- 7 参 加 者** 21名

8 都道府県別参加者数 ※案内送付先(関東甲信越静) (名)

都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数	都道府県	人 数
北海道	—	埼玉県	1	岐阜県	—	鳥取県	—	佐賀県	—
青森県	—	千葉県	2	静岡県	—	島根県	—	長崎県	—
岩手県	—	東京都	7	愛知県	—	岡山県	—	熊本県	—
宮城県	—	神奈川県	5	三重県	—	広島県	—	大分県	—
秋田県	—	山梨県	2	滋賀県	—	山口県	—	宮崎県	—
山形県	—	新潟県	—	京都府	—	徳島県	—	鹿児島県	—
福島県	—	長野県	3	大阪府	—	香川県	—	沖縄県	—
茨城県	1	富山県	—	兵庫県	—	愛媛県	—	無回答他	—
栃木県	—	石川県	—	奈良県	—	高知県	—	合 計	21
群馬県	—	福井県	—	和歌山県	—	福岡県	—		

9 プログラムデザイン

別紙添付

10 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
2月20日 13:15~14:00	(1) 開会 ①主催者あいさつ ②趣旨説明	①内海 房子(NWEC理事長) ②佐伯加寿美(NWEC事業課専門職員)	
14:00~14:50	(2) 講義「働く女性を取り巻く環境 ~国際データ比較と女子大学生追跡ヒアリング調査を通して~」 統計データを用いた国際比較と、昨年度大学を卒業した女性の入社後の意識変化を通じて、女性の活躍と男女共同参画の推進を分かりやすく解説する。	島 直子(NWEC研究国際室研究員)	様々な意識調査や諸外国との比較データから、社会に出てから直面する男女共同参画に関する日本の現状や社会の中で、女性が置かれている状況について具体的に知る機会となった。また女子大学生の就業前と後の意識調査からは、仕事の継続意欲の高まりを知り、社会と積極的に関わることを学んだ。
15:00~16:30	(3) パネルディスカッション「先輩の声を聞く」 人生経験を重ねたパネリストの話から、働く女性の現状や課題、女性の人生設計に関わる様々な出来事や、働くことの面白さ、課題を乗り越えるための視点を学ぶ。	パネリスト 平野こずえ(EMGマーケティング合同会社人事総務統括部総務部アドバイザー) 萩原 貴子(株式会社グリーンハウス執行役員) 中光 理恵(NWEC事業課専門職員) コーディネーター 猪俣由美子(エンパワーマネジメント研究所代表兼人材育成コンサルタント)	多彩な経験をもつ3名のパネリストが社会人となってから今日までの歩み、働く上での20歳代の過ごし方、働くことの面白さ、課題を乗り越えるための視点等について、アドバイスを交えつつ語った。パネリストやコーディネーターの話から、参加者は具体的な「働く女性」の姿をみる事ができた。
16:40~18:10	(4) パネリストに聞こう パネリストを囲んで、もっと聞いてみたいこと、知りたいこと等を直接質問し、パネリストの体験の背景や考え方について、より深く理解する。	パネリスト 同 上	質問の時間を十分に確保したことで、パネリストのキャリア形成の背景、過程、考え方、環境等について、より理解を深めることができた。
19:30~21:00	(5) 交流会 パネリスト、コーディネーター、OG企画委員も交え、小グループで意見交換を行う。いろいろな立場からの話を聞くことで、自		小さいグループでの意見交換を複数ラウンド行うことで、女性のキャリア形成に関する理解が更に深まり、モチベーションアップの手助けとなった。また、今回は直

	分のキャリアについて掘り下げ、整理し、また参加者同士の交流から自身のネットワークを広げる機会とする。		近の先輩として本セミナーのOG 4名が参加したことは、参加者にとって不安や悩みの共有ができ、パネルディスカッションでの目的が更に深まった。
2月21日 9:00～ 9:45	(6) 情報提供「女性情報ポータルWinetの紹介と女性教育情報センター見学」 女性情報ポータルWinetの活用方法の説明と女性教育情報センターの見学等を通じて、女性のキャリア形成に関する資料や情報の探し方を学ぶ。	森 未知(NWE C情報課専門職員)	男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館である女性教育情報センターの見学と、女性情報ポータルWinetを使った情報検索の方法について学んだ。
10:00～12:00	(7) グループワーク① ここまで学んだ内容を踏まえながら、自分の思いを整理する。また自分自身を客観的に見つめるとともに、参加者同士で思いを共有し、ネットワークづくりを進める。	佐伯加寿美	参加者から、前日のパネリストからのキーワードや交流会で気づいた点等が相次いで出され、それを共有することで更に新たな気づきへとつながった。続いて「これから社会に出て大切にしたいことは何か？」をテーマにグループワークを行った。ワールドカフェの手法も用いながらお互いの価値観を知り、続いて「それはどんな社会？」というテーマから主体的に社会に関わる視点をもつ機会が提供され、新たな気づきのみられる時間となった。
13:00～15:00	(8) グループワーク② 各自でキャリアシートの作成を行いながら、自分のキャリアデザインを描く。討議内容の発表、パネリスト等によるコメントを通じ、翌日から具体的に行動できる方策を検討する。	佐伯加寿美	今後のキャリアを見据えながらワークシートを記入した。このワークシートに自分の進路、強み、仕事のモチベーション、不安、解決方法、社会との関わりを通じ自分に必要な行動、これからの夢を書き出した。その後、シートに基づく話し合いとグループ内での共有を行い、明日からの一歩としてアクションプランの発表を行った。参加者一人ひとりから具体的な宣言が出され、その後パネリスト、オブザーバーからのコメントがあり、各自にとって成果のフィードバックとなった。
15:00～15:20	(9) 閉会 ①修了証授与 ②主催者あいさつ		
16:00～17:00	(10) 懇親会 (希望者のみ参加) 軽食をとりながら2日間の研修		リラックスした雰囲気の中で、参加者同士による情報交換やネットワークづくりができた。

を振り返るとともに、参加者同士の交流を更に深める。		
---------------------------	--	--

1.1 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

- ・これまでNWE Cが実施した調査研究の成果やプログラム開発の実績を活用し、「どうしたら就職できるか」といったいわゆる就活セミナーとは一線を画した「仕事をもってから先の自分」という長いスパンでのキャリアを考えるプログラムを構成した。
- ・1期生、2期生のOGから企画委員を募り、チラシ作成、プログラムの内容、当日の運営、グループワークへの参加等事業に参画してもらい、このセミナーが「学びの循環」となる工夫をした。
- ・学習者が直接質問しキャリアに対する理解を深めるために、パネルディスカッション「先輩の声を聞く」の後に、「パネリストに聞こう」という質問の時間を十分に確保した。
- ・グループワークの時間を十分に取り、参加者同士の学びの場を設定した。グループワークのテーマとキャリアシートの見直しを行い、学生の学びをより深めるように企画した。
- ・交流会では、パネリスト、OG企画委員を中心に7つの小グループに分かれ、3ラウンドの情報交換を行い、お互いがインフォーマルな関係を築き、自分を見つめる時間をつくった。

1.2 プログラム全体で得られた知見

- ・プログラム全体を通して、参加者の自分の将来に対する高い意識が見られた。また、初めは将来や自分の内面に不安を抱えていた学生も2日目には自己肯定感を高め、自信をつけることができた。
- ・グループワークのテーマとキャリアシートを工夫したことで、参加者から「主体的に社会に関わる」具体的な視点が出された。
- ・グループワーク等で同世代の考えを聞くことにより、新たな気づきを多く得て、キャリア形成へのモチベーションアップにつながった。
- ・参加者同士だけの意見交換ではなく、パネリスト、OG等の意見が加わることで、参加者の視野が広がった。
- ・今年のセミナーでは、大学のキャリア支援をしている先生や職員から問い合わせが数件あり、実際に大学から2人、企業から1人の見学者があった。また、参加申込みが親の勧めを契機とする事例が複数あり、本セミナーが、女性のキャリアを長いスパンで考え、女性リーダーを育成するセミナーとして時宜にかなうものであり、認知度も高まってきていることがうかがえる。

1.3 プログラムの成果

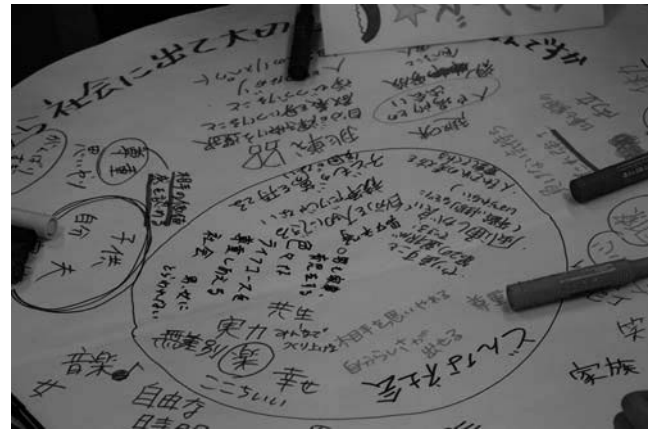
参加者の全体の満足度 100.0% (非常に満足 81.0%、満足 19.0%)

1.4 今後の課題及び展望

- ・応募者は前回は上回ったが、募集の広報は引き続き工夫する必要がある。今後は広報する地域の拡大や、SNSの活用、大学でキャリア支援をしている先生や職員へのアプローチ等を検討する。
- ・年間を通じた情報発信（昨年度の成果、本年度の企画・進捗状況等）
- ・OG企画委員を来年度も募り、1期生～3期生のつながりと学びの循環を構築する。
- ・パネリストの人選等、今後もリーダーシップ111との連携を図る。
- ・グループワークや交流会等、参加者同士が直接コミュニケーションを図るプログラムを更に充実させる。



パネルディスカッション「先輩の声を聞く」



グループワーク



交流会



アクションプランの発表

平成27年度「女子大学生キャリア形成セミナー」プログラムデザイン

【プログラムの特徴】

- ① 企業等の組織で活躍している女性リーダーがロールモデルとして体験談を語るだけでなく、1泊2日の間、学生に直に接することで学生の内的キャリアを高め、働くことを通じた社会との主体的関わりや働く上での課題などを学ぶ。
- ② 男女共同参画の視点や長期的スパンでのキャリアについて学び、女性のキャリア形成の意義や活躍の可能性について知る。
- ③ 自分自身のライフデザイン、キャリアデザインを考え、翌日から具体的に行動できる方策を検討する。
- ④ OGが企画や当日の運営に参加することで、学びの循環を促進する。

<p>対 象 女子大学生 30名</p>	<p>目 的</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であることを知る(自主自立)。 ② 女性の人生設計に関わる出来事をあらかじめ知る(ライフプランニング)。 ③ キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、社会の変革につながるという視点をもつ(社会を変える・支える志)。 	<p>目 標</p> <p>男女共同参画推進の視点</p>	<p>実態・課題の把握と分析</p>	<p>課題解決のための分析・課題解決に向けた実践力</p>
<p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の視点をもったキャリア形成について理解する。 ・女性がキャリアを形成する意義と可能性を知る。 <p>講義 パネルディスカッション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であることを知る。 ・女性の人生設計に関わる出来事をあらかじめ知る。 ・キャリアの構築が社会の変革につながるという視点をもつ。 <p>講義 パネルディスカッション 交流会 グループワーク①②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者同士のネットワークづくりや情報交換を行う。 <p>交流会 グループワーク①② 懇親会(希望者のみ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等で働いている女性の現状を知るとともに課題を把握・分析する。 <p>パネルディスカッション 交流会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のキャリア形成を考える上での課題を整理・共有する。 ・社会との主体的な関わりについて学ぶ。 ・自分自身のライフプラン、キャリアデザインを考える。 ・参加者同士のキャリアプランを共有する。 ・翌日から具体的に行動できる方策を検討する。 <p>パネリストに聞こう 交流会 グループワーク①②</p>
<p>方 法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画についての基礎知識を身につける。 <p>女性教育情報センター 見学</p>				

II 調査研究事業

- 1 1 男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究
- 1 2 男女共同参画統計に関する調査研究
- 1 3 女性関連施設に関する調査研究
- 1 4 若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究

1 1 男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究

1 研究目的

女性のキャリア支援に関し、教育・学習支援の対象や内容、メディアを活用した手法等について検討することを目的とした調査研究を実施する。平成27年度は、放送大学との連携で作成するオンラインコンテンツの内容等を検討し、教材を作成する。

2 研究課題

- (1) 会館の調査研究等の蓄積を生かした教育・学習支援の方法等について検討する。
- (2) オンライン講座の提供について検討する。

3 研究計画

- (1) オンラインで提供する講座の内容について検討する。
- (2) 放送大学と共同制作及び実施に関する体制について検討する。
- (3) オンラインで提供する講座のコンテンツを作成する。

4 研究体制

中野 洋恵	研究国際室長
渡辺 美穂	研究国際室研究員
島 直子	研究国際室研究員
森 未知	情報課専門職員

5 研究期間 平成27年4月～平成28年3月

6 年度実績概要

- (1) 平成27年4月～8月、放送大学を通じたオンライン授業の内容を検討し、「女性のキャリアデザイン入門（'16）」のシラバスを作成した。
- (2) 放送大学とオンライン授業「女性のキャリアデザイン入門（'16）」の共同制作及び実施に関する覚書協定を締結した。
- (3) 平成27年9月～12月、オンライン講座で提供する動画素材のインタビュー、講義の収録、会館施設等の収録を行うとともに、学習活動について検討した。
- (4) 平成28年1月～2月、オンライン講座の学習活動の追加、画面の動作確認や内容確認作業を行った。

7 研修へのフィードバック

オンライン講座の作成を通じて得た知見を、今後会館が独自にeラーニング講座を提供していく上で、参考にする。

8 今後の課題・展望

平成28年度は、実際にオンライン講座を提供・運用し、その手法や課題等について検討する。また、放送大学と連携して女性のキャリアデザインの展開に関する講座を作成するとともに、オンライン講座に資する教材・資料について検討する。

1 2 男女共同参画統計に関する調査研究

1 研究目的

地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究として、「男女共同参画統計に関する調査研究」を実施している。男女共同参画社会の形成に資する女性と男性に関する統計データについて女性関連施設等が事業を行う際、企画・運営等で参考となるよう内容や提供の方法等について研究する。

2 研究課題

- (1) 「統計リーフレット」の作成
- (2) 「男女共同参画統計ニュースレター」の作成、配信

3 研究計画

- (1) 「統計リーフレット2016」を作成する。
- (2) 「男女共同参画統計ニュースレター」を年2回作成し、配信する。

4 研究体制

<アドバイザー>

- | | |
|-------|--|
| 杉橋やよい | 金沢大学人間社会学域経済学類准教授 |
| 高村 静 | 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付上席政策調査員、経済産業研究所コンサルティングフェロー、中央大学大学院戦略経営研究科特任研究員 |
| 林 玲子 | 国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長 |

<国立女性教育会館>

- | | |
|-------|----------|
| 中野 洋恵 | 研究国際室長 |
| 渡辺 美穂 | 研究国際室研究員 |
| 森 未知 | 情報課専門職員 |

5 研究期間 平成27年4月～平成28年3月

6 年度実績概要

- (1) 「統計リーフレット」の作成
最新データを基にミニ統計集「日本の女性と男性」のデータを更新して、日本語版と英語版のリーフレットを作成した。
- (2) 男女共同参画に関する国内外の動き、自治体の取組、データ解説等を内容とする「男女共同参画統計ニュースレター第18号」を平成27年10月に、「男女共同参画統計ニュースレター第19号」を平成28年3月に作成・配信した。
第19号の配信先は2,009件で、年度目標の2,000件を達成した。
- (3) NWE C主催事業で『男女共同参画統計データブック』を活用し、講義やワークショップを実施するとともに、男女共同参画センターや国際機関等で企画されている研修事業等で、講義やワークショップを実施した。

7 研修へのフィードバック

- (1) 主催事業へのフィードバック
・「地域における男女共同参画推進リーダー研修<女性関連施設・地方自治体・団体>」「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」「女子大学生キャリア形成セミナー」「女性関連施設相談員研修」「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」において、男女共同参画統計データを活用した講義を行った。
- (2) 男女共同参画センター、地方公共団体、大学等の研修へのフィードバック
埼玉県男女共同参画推進センター、北九州市立男女共同参画センター、婦選会館、茨城県結城市、埼玉県川越市、東京都西東京市、全国女性会館協議会、埼玉大学、東京外国語大学、神戸学院大学、福岡女子大学、大分大学

において、男女共同参画統計データを活用した講義やワークショップを行った。

8 今後の課題

平成27年度は、大学の教職員を対象とした講義やワークショップを実施する等、対象を広げた。内容や提供方法は引き続き充実させていきたい。特に、ホームページを活用した統計情報の発信に力を入れたい。

1.3 女性関連施設に関する調査研究

1 研究目的

女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、新たな課題の実態把握と分析を5年計画で行う調査研究の5年次として、喫緊の政策課題である「女性の活躍推進」を取り上げる。特に「連携」に着目し、女性関連施設や地方公共団体等の現状・課題を明らかにする。また、調査研究の成果を踏まえ、地域における女性活躍推進の実践に役立つ手引書を作成する。

2 研究課題

- (1) 5年計画5年次のテーマとして、喫緊の政策課題である「女性の活躍推進」を取り上げる。特に「連携」に着目し、女性関連施設や地方公共団体等の現状・課題を明らかにする。
- (2) 「女性の活躍推進」の取組として近年求められている新たな「連携体制の構築」に関して、各々の機関の専門性や得意分野を生かして成果を出す、という効果的な連携を行っている女性関連施設や地方公共団体等の好事例を収集する。
- (3) 1年次から4年次までの調査研究で得られた知見を踏まえつつ、「女性の活躍推進」における女性関連施設や地方公共団体の役割、効果的な連携の方策、事業内容等について検討する。

3 研究計画

- (1) 各府省や地方公共団体の取組や先行研究について、情報収集を行う。また、会館にて開催する「地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉」において、参加者から情報収集を行い、地域のニーズや課題を把握し、本調査の枠組や方向性を確認、調整する。
- (2) 「女性関連施設データベース」更新のための調査に質問紙調査票を同封し、女性関連施設における事業の現状把握や、効果的な連携にかかわる情報収集を行う。
- (3) 地方公共団体の男女共同参画担当部局を対象に、女性の活躍推進を連携して実施した事業にかかわる情報収集を目的とした、質問紙調査を実施する。
- (4) (2)及び(3)の調査結果から好事例を選定し、ヒアリング調査を行う。また、女性関連施設や地方公共団体以外において実施されている参考となるプログラム、連携等についても情報収集やヒアリング調査を行う。
- (5) 有効な取組が行われていない要因や、行われるための条件(課題)、好事例の取組内容や工夫点等を分析し、取組の普及を図るためのまとめ方について検討する。
- (6) (1)～(5)をまとめ、手引書(ガイドブック)を作成する。

4 研究体制

調査研究の実施にあたっては、検討委員会を組織する。

<検討委員会>

荻野 亮吾	国立大学法人東京大学高齢社会総合研究機構特任助教
高林 直人	静岡県くらし・環境部県民生活局男女共同参画課主査
近本 聡子	公益財団法人生協総合研究所研究員
西本 祥子	北九州市立男女共同参画センター所長
森 ます美	昭和女子大学人間社会学部教授、キャリア支援部長

<国立女性教育会館>

中野 洋恵	研究国際室長
飯島 絵理	研究国際室研究員
森 未知	情報課専門職員

5 研究期間 平成27年4月～平成28年3月

6 年度実績概要

(1) 実施概要

- ① 「地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉」において、アンケート調査の実施、及び「女性の参画」をテーマとする自由交流の場の運営を通して参加者から情報収集を行い、本調査の枠組や方向性を確認・調整した。
- ② 女性関連施設382か所（「女性関連施設データベース」更新のための調査に同封）及び地方公共団体（都道府県・政令市・中核市・特例市・特別区・その他の県庁所在地、計178か所）を対象に、質問紙調査を実施し、女性の活躍推進にかかわる取組について情報収集を行った。
- ③ 上記①②の調査結果から好事例を選定し、女性関連施設や地方公共団体の関連部局、その他の関連機関にヒアリング調査を行った（調査機関数21か所、同じ地方公共団体の異なる部局を数に含めると、31か所）。
- ④ 上記①-③の分析結果を基に、『地域における女性の活躍推進実践ガイドブック ―地方公共団体や男女共同参画センターの新たな連携と役割』を作成した。

(2) 得られた知見

- ① 女性の活躍推進は、企業における管理職・経営層の意識改革や女性リーダー育成、起業支援、子育て中の女性への再就職支援、若年無業女性への支援、大学生への支援、地域団体における女性の意思決定過程への参画、農村漁村女性への支援等多岐にわたっており、様々な関連機関が工夫して取り組んでいること、またそれらの工夫の詳細が明らかになった。
- ② 上記①の取組において、産業・経済・労働等の分野を含む連携体制を新たに築いている事例が多くあることがわかった。
- ③ 一方で、女性の活躍推進にかかわる取組と男女共同参画推進とのつながりや、女性関連施設や地方公共団体の男女共同参画担当部局の役割については、検討すべき課題があると考えられる地域が少なからずあることが確認された。

7 研修へのフィードバック

(1) ガイドブックの作成・配付

調査研究の成果を基に、女性関連施設や地方公共団体の職員等を主な読み手とした実践に役立つガイドブックを作成し、関連機関に配付するとともに、ホームページでも公開した。

(2) 研修のプログラムへの反映・研修での成果の普及

平成28年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉」の企画にあたり、事業課と連携し、プログラムの構成や事例報告の選定に反映させた。また本研修では、上記ガイドブックを研修資料として配付し、調査研究結果やガイドブックの活用方法について情報提供を行い、成果の普及を図る。

8 今後の課題・展望

調査研究の成果は、次年度以降の研修や会館職員への講師依頼において活用し、普及を図る。また、女性関連施設や地方公共団体において男女共同参画を推進するために必要な調査研究について、引き続き情報収集やニーズの把握に努める。

14 若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究

1 研究目的

生涯を見据えた早期からのキャリア形成支援を、男女共同参画の視点に立つて行うための方策を探ることを目的とした調査研究を実施する。平成27年度は、本年に民間企業の正規職に就いた男女（大学・大学院卒）を5年間追跡するパネル調査の第一回調査を実施する。5年計画の1年次。

2 研究課題

- (1) パネル調査の第一回調査の調査方法、調査項目について検討する。
- (2) (1)を踏まえて、第一回調査を実施する。

3 研究計画

- (1) パネル調査の調査方法、調査項目について検討する。
- (2) 関連組織・機関等に、本調査研究の説明及び協力依頼を行う。
- (3) 若年男女のキャリア形成に関する意識について理解を深めるため、平成26年に就職先が決定した女子大学生に対する追跡ヒアリング調査を実施する。
- (4) パネル調査の第一回調査を実施する。

4 研究体制

外部有識者と館内メンバーによる検討委員会を組織し、質問紙調査の実施方法について検討する。

<外部有識者>

安齋 徹	群馬県立女子大学准教授
小川 尚子	一般社団法人日本経済団体連合会政治社会本部上席主幹
大槻 奈巳	聖心女子大学教授
高見 具広	労働政策研究・研修機構研究員
永井 暁子	日本女子大学准教授

<国立女性教育会館>

中野 洋恵	研究国際室長
島 直子	研究国際室研究員
渡辺 美穂	研究国際室研究員

5 研究期間 平成27年4月～平成28年3月

6 年度実績概要

- (1) 「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」検討委員会及びメール会議において、関連領域の先行研究及び先行調査を踏まえて、調査票を策定した。
- (2) 平成27年4月～9月に、日本経済団体連合会女性の活躍推進委員会企画部会に所属する企業や、「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」検討委員会委員から紹介のあった企業、「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」参加企業などを訪問し、本調査への協力を依頼した。これらの結果、17社の参加を得てパネル調査を実施することとなった。
- (3) 平成27年7月～平成28年1月に、パネル調査参加企業を対象として、新入社員の採用方針や、平成27年度新入社員の実態、新入社員の育成、女性の活躍推進に関する取組等についてヒアリング調査を実施した（17社中、15社から協力を得た）。
- (4) 平成27年11月～12月に、若年男女のキャリア形成に関する意識について理解を深めるため、平成26年に就職先が決定した女子大学生に対する追跡ヒアリング調査を実施した。

7 研修へのフィードバック

パネル調査の第一回調査結果については、全調査項目の回答結果を男女別に集計した報告書を作成し、調査参加企業、各省庁・省庁所管機関、学会などに広く配布した。また各調査参加企業から得たテーマに即し分析した報告書を作成し、当該企業に配付した。研究成果については、会館リポジトリを通じてNWE Cホームページ上に公開し、研究成果を発信する。NWE Cが有するネットワークを通じて、全国の企業・大学に研究成果をフィードバックし、NWE Cが実施する大学や企業を対象とする各種研修プログラムやキャリア教育プログラムの企画・実施にも研究成果を生かす。

8 今後の課題・展望

平成28年度はパネル調査の第二回調査を実施し、調査結果を踏まえて報告書を作成する。また、平成26年に就職先が決定した女子大学生に対する追跡ヒアリング調査（第三回調査）を実施する。

Ⅲ 情報事業

- 1 5 情報資料の収集・整理・提供
- 1 6 女性情報ポータル及びデータベースの整備充実
- 1 7 図書のパッケージ貸出
- 1 8 女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化

15 情報資料の収集・整理・提供

1 趣旨

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、広域的、専門的な資料・情報を収集し、多様な手段で広く一般に提供することにより、男女共同参画社会の推進を図る。

2 年度実績概要

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報の収集を図った。収集した資料を個人向け及び団体向けに館外貸出したほか、レファレンス・サービス、文献複写サービス、情報研修プログラムの実施等により広く利用に供し、男女共同参画のための情報提供を行った。

3 成果

【収集資料】

企業や大学のダイバーシティ推進に資する資料の収集を継続して行い、「女性活躍」や「ワークライフバランス」に関する図書を受け入れた。また大学の刊行する男女共同参画に関するニューズレター等も全国を網羅するよう努めた。これらは、女性教育情報センターに受け入れ、広く一般の利用に供している。

収集資料統計

(平成28年3月末現在)

項目	和		洋		計		
	年度受入	累計	年度受入	累計	年度受入	累計	
図書	図書	2,062	73,290	590	23,146	2,652	96,436
	地方行政資料	381	26,507	0	8	381	26,515
	計(冊数)	2,443	99,797	590	23,154	3,033	122,951
逐次刊行物	雑誌	810 中止 3	3,144	85 中止 1	763 (62か国)	32	3,907
	新聞	0	74	0	1	0	75
その他	新聞切り抜き	23,774	411,245	-	-	23,774	411,245
	オーディオビジュアル資料※	18	244	0		18	244
	研修貸出用資料※	0	14	0	0	0	14

※毎年見直しを実施

【利用状況】

利用状況統計：平成26年度・平成27年度

(平成28年3月31日現在)

	平成26年度	平成27年度
資料等利用者数（人）	9,384	8,138
貸出資料総数（冊）	10,579	9,499
図書資料	9,111	8,157
地方行政資料	14	22
雑誌類	794	623
新聞記事	120	302
研修貸出	200	98
その他	340	297
レファレンスサービス件数	443	560
内 情報検索利用件数	142	167
文献複写サービス（件数）	764	909
情報研修プログラム（件数）	5	3
情報研修プログラム（人数）	47	13
相互貸借貸出件数	294	267
内 パッケージ貸出件数	77	65

【学習支援】

図書資料の展示を年に4回行った。主催事業と連動した展示である「女性と宇宙」等を実施すると同時に、資料リストを女性情報ポータル“Winet”上で公開し、男女共同参画推進のための学習・教育を支援した。

さらに、埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」や埼玉県私立短期大学協会との連携事業「平成27年度女子大学生のためのキャリア形成講座」の中で、統計を用いた講義、女性教育情報センターを利用した情報検索の実習等を担当し、レポート作成のための資料情報の収集選択スキルアップの支援を行った。

4 今後の課題・展望

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として新規受入すべき図書が受入対象から漏れないよう、複数職員による再チェックを行い、選書漏れを防ぐ。

16 女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

1 趣旨

「女性情報ポータル“Winet”(Women’s information network、ウィネット)」は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の総合窓口である。

次の3要素で構成され、日々データやコンテンツを継続的に整備充実することにより、政策担当者、研究・学習者、団体・グループ関係者、メディア関係者等ユーザーのニーズに、迅速・的確に応えるアクセス手段を提供している。

- ① 女性情報ナビゲーション(リンク集。インターネット上の有用な資源への道案内)
- ② NWE C作成のデータベース
- ③ 女性情報CASS(NWE C作成のデータベース、及び他の関連機関のデータベースの横断検索)

2 年度実績概要

(1) 方針

女性情報ポータル“Winet”の組織的なデータ更新、充実を図るとともに、利便性の高いポータルサイトを目指す。今年度もトピックス・ピックアップコンテンツの随時更新を行い、情報更新の一層の見える化、情報発信力の拡充を図った。

- データベース化件数：669, 100件(31, 330件増)
- アクセス件数：391, 672件(29, 951件増)

(2) データの更新・充実

第3期中期計画期間中の目標値である、アクセス件数30万件、データベース化件数60万件は平成25年度に既に達成しているが、平成27年度もアクセス件数は年度目標の30万件を上回った。

- ① 「女性情報ナビゲーション」 分野、リンク先の全面的な見直しを行った。
- ② 「文献情報データベース」 総件数595, 890件(28, 481件増)
新規に受け入れた図書、雑誌、地方行政資料、和雑誌記事、新聞記事等のデータを登録した。
- ③ 「国立女性教育会館リポジトリ」 総件数6, 750件(63件増)
- ④ 「女性情報レファレンス事例集」 累計287事例(7事例増)
- ⑤ 「女性関連施設データベース」のデータ登録・更新を、Webシステムを活用して、全国の各施設職員が直接行った。農村婦人の家は閉館や地域の公民館に移行しているものが多いため、平成27年度より登録対象から外した。登録施設概要525件(内、Web登録の施設は142館)、実施事業(情報・相談以外)35, 330件(内、平成27年度開催の事業は399件)、情報事業371件、相談事業316件。
- ⑥ 「女性と男性に関する統計データベース」は更新された統計について、最新の数値を反映した。また『男女共同参画統計ニュースレター』(男女共同参画の推進に向けた統計の活用に関する調査研究により作成)のバックナンバーと英語目次をホームページに掲載した。
- ⑦ 「大学等における男女共同参画イベント情報」を、平成27年9月ホームページ上に開設し、平成27年10月～平成28年3月までに96件のイベントを掲載した。

3 今後の課題

今年度はポータルのコンテンツの一つ「女性情報ナビゲーション」の分野、リンク先の全面的な刷新を行った。次年度も引き続き、最新の情報が幅広く入手できるよう内容の充実を図り、分かりやすく整理して提供する。

17 図書のパッケージ貸出

1 趣旨

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、基本的かつ全国的な資料・情報を計画的に収集・整理し、各施設における男女共同参画を推進するため、各施設の活動に沿ったテーマごとにパッケージ化した図書の館外への貸出を実施する。

2 年度実績概要

平成22年6月よりサービスを開始した図書のパッケージ貸出サービスは、大学、女性関連施設、公共図書館、高等専門学校等の機関を対象とし、男女共同参画社会形成を目指した様々なテーマに合致する図書について、ここ数年以内に出版された比較的新しい図書を中心に、「キャリア・しごと」「家庭・家族」等複数のジャンルを組み合わせ、原則100冊のパッケージにまとめ、貸出を行うものである。NWE Cであらかじめ用意したパッケージを3か月ごとに入れ替えながら年間を通して貸し出す「年間パッケージ」と、相手館の事業とのタイアップなどに合わせてパッケージ内容をカスタマイズ、一定期間貸し出す「個別パッケージ」に分けている。

平成27年度までの累計利用機関数は79機関で、第3期中期目標期間数値目標（20機関以上）を達成した。

平成27年度は個別パッケージ貸出の申込みが8件あり、前年度の5件から増加した。

また平成27年度は、図書が手に取られた数をカウントしたり、棚から離れている時間を計測したりするシステムを搭載したブックトラック「レコピック」を図書と同時に貸出するサービスを試行的に開始し、2館に対して貸出を行った。

3 今後の課題・展望

図書パッケージ貸出業務の効率化と、今後の利用機関の拡大に対応するため、利用機関と連携して業務の定型化を一層進める。

館種別利用機関数の推移（平成28年3月31日現在） （機関）

館種	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
大学図書館	20	18	23	20	18
大学男女共同参画機関	1	1	1	1	1
男女共同参画センター	4	3	3	2	3
公立図書館	0	1	0	1	0
企業	1	1	0	0	0
高校図書館	0	0	3	6	0
高専図書館	0	0	1	3	6
その他	1	0	0	1	0
合計	27	24	31	34	28

新規利用機関数及び継続利用機関数の推移（平成28年3月31日現在） （機関）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
利用機関数(継続)	10	18	18	15	15
利用機関数(新規)	17	6	13	19	13
利用機関数(年間合計)	27	24	31	34	28
利用機関数(累計)	28	34	47	66	79

18 女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化

1 趣旨

女性に関する過去の歴史的事実及び現在の状況を検証し、現代の問題へのアプローチを可能にするため、歴史的価値・研究資料的価値を有する女性関係史・資料を収集・整理・保存し、閲覧・展示・データベース等を通じて提供・公開する。会館のもつ全国の女性関連施設とのネットワークを生かして東日本大震災に関する史・資料のアーカイブ化を進め、国立国会図書館が運営するポータルサイトと連携させる。また、他機関と連携して行う企画展示と、アーカイブセンター所蔵資料を用いる所蔵展示を実施する。

2 年度実績概要

(1) 資料の収集・デジタル化(年度目標1,000点以上)

新規受入 1,514点

資料選定委員会の助言に基づいて、資料の新規受入を行い、「女性デジタルアーカイブシステム」を通じて、目録データと一部の画像データをインターネット上に公開した。

(2) 展示室利用(平成27年度までの累積目標5万件以上)

累計51,418件 (うち平成27年度10,295件)

企画展示「宇宙をめざす～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ」(8～12月。入場者数6,506人)、所蔵展示「男女雇用機会均等法から30年」(1～7月。平成27年度分の入場者数1,424人)を実施した。この他に、平成26年度所蔵展示「喜美子さんちの家計簿」を平成27年度にかけて実施した(2～7月。平成27年度分の入場者数2,365人)。

企画展示は、様々な分野においてチャレンジした女性たちのあゆみから日本の男女共同参画社会を考えるシリーズの第8回目として開催した。18～19世紀に天文学の研究で大きな成果をあげた欧米の女性たちから、現JAXA(宇宙航空研究開発機構)や国立天文台などで活躍中の女性たちまで、様々な資料を通して彼女たちの足跡を紹介した。また、連動企画として向井万起男氏講演会を9月に実施した。

(3) 企画展示における他機関との連携

5機関の企業・団体等と連携し、資料提供等の協力を得た。

(4) 「NWEC災害復興支援女性アーカイブ(http://w-archive.nwec.jp/il/meta_pub/G0000337wd)」の連携

女性の視点からの災害復興支援活動記録を収集・保存し公開する「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」において、引き続き7機関と連携して登録データを取得した。それ以外にも、複数の女性関連施設がデータ登録作業中である。

3 今後の課題・展望

引き続き、会館のもつネットワークを生かして、「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」の参加機関を増やし、公開する資料を充実させていく。「女性デジタルアーカイブシステム」は、他機関のシステム等との連携により、検索の利便性を高めると同時に、アクセス数の増加を図る。資料収集にあたっては、寄贈の申入れへの対応にとどまらず、コレクションの構築及び充実に向けて自発的に取り組む。



女性デジタルアーカイブシステムトップページ



企画展示「宇宙をめざす」展示室

IV 国際連携事業

- 19 アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー
- 20 NWEC 国際シンポジウム
- 21 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」

19 アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

- 1 趣 旨 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的とする集団研修である。
- 2 主 題 女性の起業と経済的エンパワーメント
- 3 特 徴 本研修では、日本国内の関連機関の視察や専門家による講義に加え、研修生同士がテーマに関する好事例を学び合うことを目指したカリキュラム構成としている。
- 4 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 5 会 場 NWE C、経済産業省、昭和女子大学 ほか
- 6 期 日 平成27年9月28日(月)～10月2日(金)
(受入期間 9月27日(日)～10月3日(土))
- 7 対 象 行政担当者・NGOの指導者
- 8 参加者 10名（カンボジア、インド、ベトナム、フィリピン、ミャンマー 各2名）

9 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
9月27日	日本到着		
9月28日 10:00～10:45	開講あいさつ	内海 房子（NWE C理事長）	
11:00～12:00	プログラムオリエンテーション&アイスブレイク	越智 方美（NWE C研究国際室専門職員）	
14:00～15:00	NWE C概要説明「国立女性教育会館について」	渡辺 美穂（NWE C研究国際室研究員）	女性教育のナショナルセンターとしてのNWE Cの歴史、機能と役割について学んだ。
15:15～16:00	情報提供「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」	島 直子（NWE C研究国際室研究員）	企業で就労する若年男女の意識調査の報告。
16:15～16:45	視察 女性教育情報センターと女性アーカイブセンター	森 未知（NWE C情報課専門職員）	NWE Cの情報機能について、知識を得た。
9月29日 9:00～15:00	カントリーレポートの発表 研修生による事例の発表と討議	ファシリテーター： 越智 方美	アジア太平洋5か国におけるジェンダー平等政策と女性の起業支援に関する取組について好事例を共有した。
15:00～15:30	理事長室表敬訪問		
16:00～17:00	ポスターセッション	ファシリテーター： 越智 方美	研修生による事例の発表と討議により、ジェンダー平等政策と女性の起業支援に関する取組について理解を深めた。

9月30日 10:30～12:00	講義「女性の起業支援等に関する施策」	坂井 萌（経済産業省経済社会政策室室長補佐）	日本における女性の起業支援等に関する施策について学んだ。
13:30～15:30	講義「農山漁村女性の起業支援」	安倍 澄子（農山漁村女性・生活活動支援協会会長理事）	女性農業従事者の経済的自立をめぐる歴史と課題について理解した。
16:00～17:00	研修の振り返り	研修生・NWE C職員	研修前半の振り返り。
10月1日 10:00～10:45	講義「女性起業UPルームの成果と課題」	吉武恵美子（男女共同参画センター横浜事業課）	男女共同参画センター横浜の女性起業支援事業について学んだ。
10:45～11:45	施設見学 男女共同参画センター横浜	吉武恵美子	男女共同参画センター横浜の取組について学んだ。
13:00～15:00	講義とディスカッション 女性起業家との意見交換	吉枝ゆき子（ソフィットウェブプランニング代表） 樋口 ユミ（株式会社ヒューマン・クオリティ代表取締役） 佐久間矩子（Natural Sweets Toitoi 代表）	起業たまご塾卒業生の報告と意見交換により、起業家のロールモデルを学んだ。
10月2日 10:00～12:00	講義「昭和女子大学 キャリアカレッジ “起業家・新規事業創造コースについて”」	熊平 美香（株式会社エイテッククマヒラ代表取締役） 松尾由紀子（Stan Communications） 扇谷まどか（The Opener 株式会社代表取締役）	女性のキャリア形成を支援する高等教育のカリキュラムについて学び、女性の起業をめぐる課題を認識した。
14:00～15:00	評価会・閉講式	研修生・NWE C職員	研修内容についての評価
10月3日	帰国		

10 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

研修成果を国内外で活用できるよう、研修生が研修から学んだ知見を基に国別報告をまとめ、『2016 NWE Cリーダーセミナーレポート』として日本語と英語で刊行した。

11 プログラム全体で得られた知見

研修生は男女共同参画センター横浜や昭和女子大学の視察を通じて、日本国内の女性関連施設や高等教育機関が女性の生涯学習を支援し、学びを起業という実学につなぐ役割を果たしていることを理解した。また、日本人女性起業家との意見交換は、ロールモデルの提示という点からも高い評価を得た。

12 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度 100.0%（非常に満足90.0%、満足10.0%）
(2) 参加者のプログラムの有用度 100.0%（非常に有用70.0%、有用30.0%）

13 今後の課題及び展望

研修生より「講師が全員女性であったので男性の専門家の講義も受講したかった」との意見が出された。男女共同参画への男性の関心を高めることは、日本を含むアジア諸国における共通の課題の一つであるため、次年度以降は男性講師による講義も検討していきたい。



カントリーレポートの報告



昭和女子大学視察

20 NWE C国際シンポジウム

- 1 趣 旨 女性の人権、女性の能力開発、人材育成等地球規模の課題をテーマに海外専門家を招へいし、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者、女性団体等指導者との交流を深めるとともに、ネットワークづくりを進める。
- 2 主 題 ジェンダー平等と女性の経済的エンパワーメント
- 3 特 徴 海外の研究機関や国際機関、企業でリーダーとして活躍している専門家/実践家を招へいし、基調講演やポスター展示、パネルディスカッションを通じて、アジア太平洋諸国における男女平等政策の現状を学び、喫緊の課題について多様な視点から議論を行う。
- 4 主 催 独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）
- 5 後 援 文部科学省
- 6 会 場 主婦会館プラザエフ
- 7 期 日 平成28年2月12日（金） 13：30～17：00
- 8 対 象 男女共同参画・女性教育・家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、女性団体等のリーダー、研究者、国際交流・開発援助に関わる者、企業関係者等
- 9 参加者 63名

10 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
13:00～13:15	開会 主催者あいさつ 来賓あいさつ	内海 房子（NWE C理事長） 徳田 正一（文部科学省大臣官房審議官）	
13:15～15:10	基調講演「女性の経済的エンパワーメントに相乗効果をもたらすジェンダーに対応したフィリピンの取組」	エミリン・L・ヴェルゾーサ（フィリピン女性委員会委員長）	カナダ政府の支援を得てフィリピン女性委員会が実施した経済団体、地方自治体、民間部門の活動の相乗効果を通じて、女性の経済活動を支援する同委員会の取組について知識を得た。
15:25～17:25	パネルディスカッション「女性の経済的エンパワーメント ～その課題と挑戦」	コーディネーター： 矢島 洋子（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社経済・社会政策部主席研究員兼女性推進・ダイバーシティマネジメント戦略室室長） パネリスト： エミリン・L・ヴェルゾーサ	起業を支援する側と、起業する側の異なる立場からの報告がなされ、女性躍進のために何が求められているかについて、議論を深めた。

		原田 文代（日本政策投資銀行女性起業サポートセンター長） 萩生田 愛（アフリカの花屋代表）	
17:25～17:30	閉会		

1.1 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

事前に、基調講演やパネルディスカッションのレジュメを日英両言語で製本した資料集を作成・シンポジウム会場で配付し、参加者への成果が浸透しやすくなるように配慮した。また基調講演の動画は日本語字幕をつけ、NWE Cホームページ上で公表し、シンポジウムの成果還元に努めた。

1.2 プログラム全体で得られた知見

先進的な男女共同参画政策を展開しているフィリピン政府の取組に関する基調講演を受け、日本国内でどのように女性の経済活動への参画を促進することができるか、議論をした。基調講演とパネルディスカッションを通して、女性の起業支援に必要な要件が、報告者やシンポジウム参加者の間で共有された。

1.3 プログラムの成果

- (1) 参加者の全体の満足度 100.0%（非常に満足70.4%、満足29.6%）
- (2) 参加者のプログラムの有用度 100.0%（非常に有用66.6%、有用33.3%）

1.4 今後の課題及び展望

「女性活躍推進法」や「第4次男女共同参画計画」が施行され、男女間の実質的な機会の平等を保障する仕組みが求められている。このことを踏まえ、次年度以降も女性がリーダーシップを発揮するための方策や好事例を紹介する事業を継続して実施する。



基調講演



パネルディスカッション

2 1 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」

- 1 趣 旨** 独立行政法人国際協力機構(JICA)がアジア地域において実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」のカウンターパート及び近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修。対象国をアセアン地域に広げた3年計画の第1年次。
 人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が各国の人身取引対策に関する取組について相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として実施した。
- 2 特 徴** 会館がこれまで行ってきた人身取引の調査研究の知見や女性に対する暴力に関わる女性関連施設や団体等とのネットワークを生かして実施する研修である。タイの国別研修として平成22年度から3年間実施し、平成24年度からはアジア地域7か国を対象を拡大して実施しており、今年度からアセアン地域を対象としている。
 ①海外参加者を対象とした研修、②日本を含めた参加国関係者の情報交換とネットワーク、③日本の関係諸機関・団体が海外の取組について知る機会、となっている。
- 3 主 催** 独立行政法人国際協力機構(JICA)
- 4 共 催** 独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)
- 5 会 場** NWEC、JICA、内閣府、自治体関係機関、婦人相談所、女性関連施設、民間団体等
- 6 期 日** 平成27年10月19日(月)～10月30日(金)
- 7 対 象** タイ、ミャンマー、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピン、マレーシアの人身取引対策に携わっている者(中央・地方政府機関行政、シェルター、司法・法執行・入管関係者、ソーシャルワーカー及びNGO関係者)。年齢30～55歳で研修に必要な十分な英語能力をもち、研修後最低2年間は人身取引対策の分野での勤務が継続する者
- 8 参加者** 7か国(ミャンマー、ベトナム、ラオス、タイ、カンボジア、フィリピン、マレーシア)より、中央政府で人身取引対策の政策決定に関わる次官級から各省の担当官や地方行政関係者まで幅広いレベルが参加。所属・担当も内務・警察や法務、検察、労働、ソーシャルワーカー、ホットライン担当等人身取引問題対策に携わる多分野の関係者が参加
- 9 協力機関** 内閣官房、外務省、厚生労働省、警察庁、法務省、国際移住機関(IOM)、東京都、人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)、一般社団法人社会包摂センター、社会福祉法人一粒会ほか

1 0 プログラムデザイン 別紙添付

1 1 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
10月19日 13:30～14:15	人身取引問題とアジア:JICAの取組(導入)	田中由美子(JICA専門家)	メコン地域におけるJICAプロジェクトについて学んだ。
14:30～16:15	自己紹介	研修員	自己紹介と研修に向けた抱負を共有した。
16:30～17:30	研修課題に関する基礎講義	渡辺 美穂(NWEC研究国際室研究員)	日本の人身取引対策・主な活動主体の概要を学んだ。

10月20日 10:30~11:30	日本政府の人身取引対策:「人身取引対策行動計画2014に基づく日本の取組」(内閣官房)	高塚 洋志 (内閣官房参事官補佐) 小寺 次郎 (内閣官房参事官補佐)	日本の人身取引問題の現状と政府の対策の枠組み、「人身取引対策行動計画2014」の概要を学んだ。
14:00~16:00	日本政府の人身取引対策:警察庁	高坂 精一(警察庁生活安全局保安課長)	「人身取引対策行動計画」における警察の取組、人身取引事犯の検挙状況、保護の概況、匿名通報ダイヤル制度、人身取引捜査事例とその課題について学んだ。
10月21日 10:00~12:00	日本政府の人身取引対策:厚生労働省	小林 昌彦(厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課専門官)	人身取引被害者の保護の流れ、被害者の取扱方法、保護実績、日本における児童保護の体制について学んだ。
12:00~12:30	日本の人身取引対策(自治体):施設見学にあたって	渡辺 美穂	保護施設見学にあたっての諸注意。
14:00~16:30	日本の人身取引対策(自治体):女性相談所の被害者保護	平井 陽子(東京都女性相談センター所長)	東京都女性相談センターの役割と業務概況、外国人を含むDV被害者及び人身取引被害者の保護の流れ、支援方法、保護実績等について学ぶとともに、実際の施設を見学し、説明を受けた。
18:30~21:30	日本の人身取引対策(民間団体):若年女性・女兒に対する支援	一般社団法人Colabo	夜の街歩きスタディーツアーに参加し、若年女性・女兒が性被害の対象となりやすい環境について学んだ。
10月22日 10:15~10:30	理事長挨拶	NWEC理事長、理事ほか	会館のミッション・概要の説明を受けた。
10:45~11:45	日本における男女共同参画の現状と課題	越智 方美(NWEC研究国際室専門職員)、研修員	日本や参加国の男女共同参画の現状についての意見交換と質疑応答。
13:30~14:30	在住外国人支援者の活動紹介	斎藤百合子(明治学院大学准教授) ゲストスピーカー:仁藤 夢乃(一般社団法人Colabo 代表)	前日のスタディーツアーを振り返りながら、若年女性・女兒が性被害の対象となりやすい環境について学んだ。
14:30~15:30	在住外国人支援者の活動紹介	武田ヴィーリン(TNJ、タイネットワーク in ジャパン代表)	在住外国人の支援体制やネットワークとその活動について学んだ。
15:30~17:30	グループディスカッション	斎藤百合子 武田ヴィーリン 仁藤 夢乃	成人女性と若年女性の支援についてグループ別に討議し、各国の状況を共有した。
10月23日 8:30~9:30	学習支援者:在住外国人支援者	新倉 久乃(女性の家サーラー理事)	米国における在住外国人支援の取組について学んだ。
9:30~11:30	学習支援者:在住外国人支援者	フランク・オカンポス(外国人ソーシャルワーカー)	ソーシャルワークの基本知識を得た。
13:00~13:30	茶室見学	NWEC職員	お茶室見学、茶道体験で日本文化を体験した。
13:30~15:30	グループ寸劇発表(英語)	研修員	各国の被害者保護の在り方について話し合い、寸劇で共有した。
15:30~16:30	1週間のまとめ・振り返り	渡辺 美穂	7か国における人身取引問題の現状と対策の概要を振り返った。
10月24日 午前	都内バスツアー	Tokyo Morning Tour	都内半日バス観光を行った。

10月26日 9:30~11:30	日本政府の人身取引対策: 厚生労働省	池田 陽平(厚生労働省職業能力開発局海外協力課外国人研修推進室)	技能実習制度について、沿革と概要、現在の課題と制度の見直し内容について学んだ。
13:30~17:30	グローバル課題:ジェンダーと移住労働(現状と課題)	大曲由起子(JNAT、移住労働者と連帯する全国ネットワーク事務局次長) 吉田 容子(弁護士、立命館大学教授)	在任外国人労働者の現状と課題、NAGOの活動、在任外国人の法的地位とその課題について学んだ。
10月27日 10:00~16:00	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	花崎みさを(社会福祉法人一粒会理事長・統括施設長) 砥上 正樹(同「野の花の家」施設長) 小林 晶子(同「FAHこすもす」センター長) フランク・オカンポス(同「ファミリーセンター・ヴィオラ」外国人ソーシャルワーカー) 鳥海 典子(同「FAHこすもす」センター主任・母子指導員)	社会福祉法人一粒会の母子支援の歩みと取組についての説明を受ける。母子支援施設と児童養護施設で提供されている支援の内容を学び、施設を見学した。 外国人母子に対する支援内容(短期、中長期、アウトリーチ)、支援を必要とする外国人女性の近年の傾向について話し合った。
10月28日 9:00~12:00	民間の取組:伴走型支援	遠藤 智子(一般社団法人社会的包摂センター事務局長) 和久井みちる(同「よりそいホットライン」全国コーディネーター) 原 ミナ汰(共生社会をつくるセクシャリティ支援全国ネットワーク代表)	よりそいホットラインの沿革・ミッションと概要、ホットラインの制度と仕組み、外国人専用ラインからわかる在任外国人が抱える課題、同行支援の趣旨と仕組みについて学んだ。
14:00~17:00	日本政府の人身取引対策: 法務省入国管理局 日本政府の人身取引対策: 法務省刑事局	横川なるみ(法務省入国管理局審判課) 坪井麻友美(法務省刑事局公安課)	人身取引対策行動計画における法務省刑事局及び入国管理局の人身取引対策、人身売買罪等の人身取引加害者に対して適用される法律や刑罰について学んだ。
10月29日 10:30~16:00	各国の取組、成果発表と意見交換会	関係省庁(外務省、警察庁、法務省刑事局公安課、東京入国管理局、厚生労働省)、大使館、有識者等	7か国の研修参加者による各国の取組及び研修の成果について発表と意見交換会を行った。
10月30日 10:00~11:30	評価会・閉講式	研修員、JICA、NVEC	研修の振り返り 修了証書の授与

1.2 プログラム作成にあたって工夫・留意した点

研修内容

(研修の目的)

本研修の目的は、①日本政府の人身取引対策及び被害者保護支援策について理解し、②日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセス及び関連機関の関係を把握し、グッドプラクティスや課題について共有し、③日本における在任外国人支援団体の取組について学ぶ、④アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチを理解し、成果発表を行う、の4項目である。これに沿って、これまで行ってきた人身取引に関する国別及び地域別研修の課題や留意事項を踏まえて、カリキュラムを企画した。

具体的には、実態把握と課題分析力、実践力の向上を柱に、5つの到達目標 ①【実態把握・課題把握】日本政府の人身取引対策・被害者保護支援策についての理解、②【実態把握・課題把握】参加各国の人身取引対策・被害者保護支援策についての理解、③【実態把握・課題把握】在任外国人の現状と課題、支援活動の取組についての実態理解、④【課題分析力の向上】被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセスにおける課題の把握と関係機関の

関係の把握及びグッドプラクティスの共有、⑤【課題解決に向けた実践】日本及び参加各国間との討議を通じて自国の取組を振り返る契機にするとともに、関係者相互のネットワーク強化に向けた相互の実態理解の促進）を達成するための講義、見学、カントリーレポート発表、ロールプレイ及び討議等のグループワークを組み入れた。

(カリキュラム)

研修カリキュラムでは、日本を含めた参加国の人身取引問題の現状と解決に向けた取組及びその課題、問題に取り組む様々な機関とその役割・活動の現状を、研修生が総合的に把握できるように配慮して、講師や訪問先を選定した。具体的には、日本政府の「人身取引対策行動計画2014」に基づいた中央と地方自治体の関係諸機関の取組、婦人保護に携わる自治体、社会福祉法人、民間団体各々の活動概要、在住外国人支援の取組、移住女性とその子どもたちの実態と課題等に関する講義や見学、近年問題が広がっている若年女性が被害にあう事例、技能実習制度の課題等を取り上げた。

(プログラムの特徴)

人身取引問題の解決に関わる関係諸機関・団体等の担当者を講師に、講義に加えて施設見学やロールプレイ、グループディスカッション等をプログラムに多く取り入れた。人身取引担当者が被害当事者の視点に立ち、社会制度や文化が異なる国の実情や対応についてそれぞれが理解して取り組む必要があることを前提に、講義や見学を通じて、自国の取組に生かせるように考えてもらうことをねらいとしている。

特徴としては、第一に、日本政府の人身取引対策について、政府の施策、被害の発見から保護や救済、加害者の摘発の流れに沿った取組の説明を行った。講義を中心とした質疑応答を最初に行い、視察や見学、意見交換も組み入れた。

第二に、参加各国相互の共有や発表を行う機会を、研修半ば及び全体研修最終日の成果発表と意見交換会に設けた。

第三に、保護施設の見学や若年女性の被害が増えている地域の視察、意見交換等を組み込んだ。

第四に、参加各国間の連携・協力・相違についての理解の促進及び自国の制度等について振り返ることを目的に、アイスブレイクやロールプレイ等を取り入れたワークショップを実施した。

第五に、国、自治体、社会福祉法人、民間等様々な立場の関係機関・団体の役割や活動から構成されている日本の取組について理解を深めた。

第六に、人身取引被害の広義の防止や支援基盤にもつながる日本における在住外国人支援に関わる関係機関・団体の取組について取り上げた。

第七に、技能実習制度の概要と制度の見直し内容について説明した。

第八に、成果発表と意見交換として、研修最終日に日本の関係機関・団体関係者、駐日大使館関係者、有識者等を招き、研修員による発表等を通じて、日本を含めた関係各国・者間の相互理解を図り、意見交換を行った。

1.3 プログラム全体で得られた知見

参加者の担当分野や職位、関心や興味は多様だが、日本の人身取引対策行動計画に基づく各省庁の取組、婦人相談所や民間団体による保護の取組等、自国における取組の参考になったという感想が得られた。また、日本を含め、参加国・者相互の意見交換や情報交換を通じて蓄積されたお互いの国の取組や人的ネットワークは、それぞれの業務や活動に役立つというフィードバックが得られた。

1.4 プログラムの成果

全体研修参加者の有用度 100.0% (とても有用 50.0%、有用 50.0%)

(参加者の声、一部抜粋)

- ・とても有益なコースだった。
- ・研修で学んだ当事者視点に立った理解や知識を、各国においてそれぞれ関係する福祉、司法、検察、裁判官、民間団体等を含むステークホルダーで共有できるようにしたい。
- ・このテーマは、我々の仕事に非常に効果的で重要である。
- ・セミナーで取り上げたテーマは、日々の業務に直接役立つ。
- ・受入国と送出国の労働問題の解決に向けて活用できる内容であり、仕事に役立てることができる。
- ・すべての科目が人身取引に関係しており、必要な科目である。

15 今後の課題及び展望

国によって人身取引問題の現象や取り巻く状況が大きく異なると同時に、参加者の専門性も法執行や保護等分野によって一人ひとりの研修ニーズが異なる。異なる背景の参加者の研修効果を高め、活発な意見交換を図るために、ディスカッションやワークショップのもち方、多岐にわたる人身取引問題のどこに焦点を当てるか、研修の企画・運営を引き続き工夫していく必要がある。共有した各国の貴重な情報を研修成果として、見える形で発信する方策について検討の余地がある。



NWEC理事長開会挨拶



グループディスカッション



社会福祉法人一粒会の施設訪問

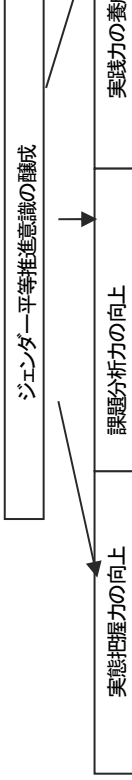


省庁、大使館、有識者等が参加した成果発表会

096096平成27年度「課題別研修 アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」プログラムデザイン

本研修の目標(3年間)
本年は第1年次

- 人身取引対策の中でも、予防、被害者保護・自立促進に焦点をあて、参加者間で相互の取組を共有し、より効果的な地域連携の促進を図る。
- ① 相互の取組や実態について理解を深める。
 - ② ネットワーク強化に資する方策を検討する。



技術研修期間:2015年10月19日—10月30日(全体)

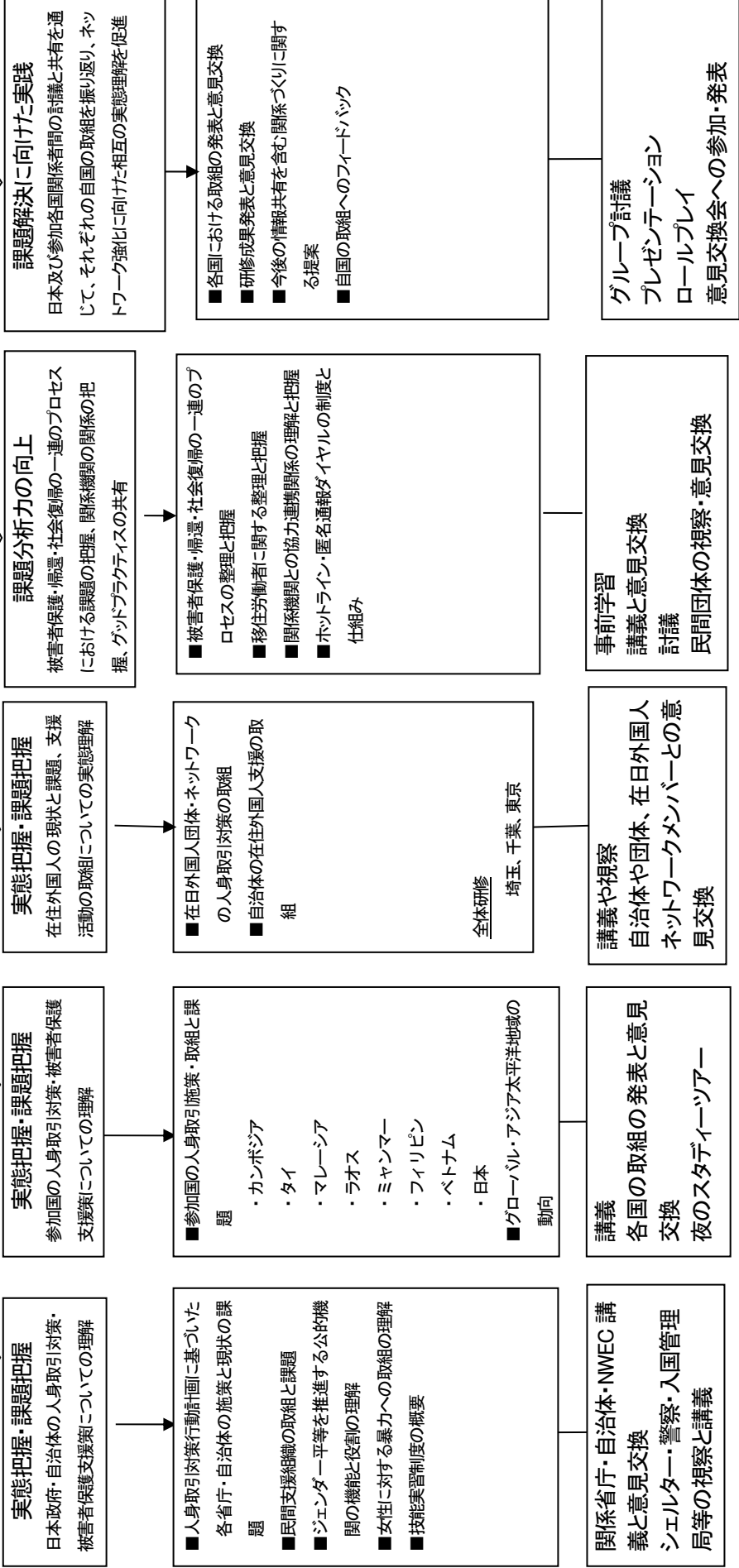
研修員

全体:ミャンマー(4)、ベトナム(2)、フィリピン(1)、ラオス(2)、カンボジア(2)、マレーシア(1)、タイ(2)

研修目的

- (1) 日本政府の人身取引対策及び日本の人身取引被害者保護支援策について理解する。
- (2) 日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセス及び関連機関の関係を把握し、グッドプラクティスを学び、課題について検討する。
- (3) 日本における在住外国人支援団体の取組について学ぶ。
- (4) アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチを理解し、改善策やネットワーク連携・強化に資する方策を検討し、成果発表を行う。

研修目標



研修項目

■ 人身取引対策行動計画に基づいた各省庁・自治体の施策と現状の課題
 ■ 民間支援組織の取組と課題
 ■ ジェンダー平等を推進する公的機関の機能と役割の理解
 ■ 女性に対する暴力への取組の理解
 ■ 技能実習制度の概要

■ 参加国の人身取引対策・取組と課題
 ・カンボジア
 ・タイ
 ・マレーシア
 ・ラオス
 ・ミャンマー
 ・フィリピン
 ・ベトナム
 ・日本
 ■ グローバル・アジア太平洋地域の動向

■ 在日外国人団体の取組
 ■ 自治体の在住外国人支援の取組
 全体研修
 埼玉、千葉、東京

■ 被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセスの整理と把握
 ■ 移住労働者に関する整理と把握
 ■ 関係機関との協力連携関係の理解と把握
 ■ ホットライン・匿名通報ダイヤルの制度と仕組み

■ 各国における取組の発表と意見交換
 ■ 研修成果発表と意見交換
 ■ 今後の情報共有を含む関係づくりに関する提案
 ■ 自国の取組へのフィードバック

研修方法

関係省庁・自治体・NWEC 講義と意見交換
 シェルター・警察・入国管理局等の視察と講義

講義
 各国の取組の発表と意見交換
 夜のスタディーツアー

講義や視察
 自治体や団体、在日外国人ネットワークメンバーとの意見交換

事前学習
 講義と意見交換
 討議
 民間団体の視察・意見交換

グループ討議
 プレゼンテーション
 ロールプレイ
 意見交換会への参加・発表

V 教育・学習支援事業

2.2 大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア

教育の推進

2.2 大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進

- 1 趣 旨 大学等におけるキャリア教育の充実に資するよう、大学等と独立行政法人国立女性教育会館（NWE C）の協力のもと、NWE Cが所有する「社会活動キャリア形成事例」や女性アーカイブセンター資料等を活用した学生を対象とするキャリア教育を実施する。

NWE Cは社会教育施設として、これまで主として成人を対象とした研修を行ってきたが、固定的性別役割分担意識の是正や、単に就職をどうするかだけでなく、一人の女性としてどう生き、自分の能力を発揮しながら社会に参画していくかを、自覚的に考えていくキャリアについての視点を身につけることの重要性から、より若年層へアプローチするため、大学生を対象とした事業を平成22年度より展開している。

平成27年度は、引き続き、①埼玉大学、②埼玉県私立短期大学協会と連携した2事業を実施した。

- 2 特 徴
- (1) 大学や民間団体とNWE Cが共同して開発するプログラムであること
 - (2) 大学における単位取得講座であること
 - (3) NWE Cがこれまでに実施してきた研修・調査研究・情報事業において蓄積された知見や情報を活用して開発されたプログラムであること
 - (4) 若年層に対するキャリア教育の普及を目指し、プログラム開発につなげること

3 事業内容

◇ 埼玉大学との連携事業（6年目）

- 1 授業名 男女共同参画社会を考える
- 2 会 場 埼玉大学
- 3 時 限 木曜・3限(13:00～14:30) 全15回授業
- 4 履修者 埼玉大学学生18名(女性11名、男性7名)
- 5 授業の目的

現在の日本は、性別を問わずに様々な人々が対等に協力できる男女共同参画社会をつくることが求められている。にもかかわらず、ジェンダー格差が非常に大きく残されている部分が多々あり、国連女性差別撤廃委員会等からもその是正に対する勧告を受けている。また私たち個人もすでに「男らしさ」「女らしさ」を内面化している。

本授業では、男女共同参画社会をつくるにあたって、現在どのような課題があり、そのことに私たちがどのようにかわり、社会を変えていくことができるのかということ、調べ学習（文献、聞き取り、訪問観察等）及びグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して学ぶ。

本授業は埼玉大学男女共同参画室と国立女性教育会館（NWE C）との連携プログラムであり、会館の女性教育情報センターの資料等の情報、調査研究の資料及び人的資源、その他の機関の資源をも活用しながら進める。

6 国立女性教育会館担当部分実施状況

- ◎ 講義「男女共同参画とは：男女共同参画社会の形成に向けた国立女性教育会館の取組」

実施日：5月14日（木）

講師：研究国際室長 中野 洋恵

参加人数：16名（女性11名、男性5名）

実施内容：NWE Cの事業紹介と、関連した現在の日本の男女共同参画の現状について講義が行われた。

アンケートの結果、本講義について、「非常に満足」12人、「満足」4人であった。

- ◎ 講義「専門情報を使う、男女共同参画統計を学ぶ」及び調べ学習

実施日：5月30日（土）

講師：情報課専門職員 森 未知

参加人数：12名（女性8名、男性4名）

実施内容：学生はパソコンを実際に操作しながら、レポート作成や専門データベースからの情報収集の方法、統計データの活用について学んだ。その後、NWE C女性教育情報センターにて、グループごとに設定したテーマに関する資料やデータの収集を行った。

◇ 埼玉県私立短期大学協会との連携事業（6年目）

- 1 授業名 短期大学生のためのキャリア形成講座
- 2 主催 NWE C
- 3 共催 埼玉県私立短期大学協会
- 4 会場 NWE C
- 5 期日 平成27年9月8日（火）～9月10日（木）2泊3日
- 6 参加者 埼玉県私立短期大学協会加盟3大学（国際学院埼玉短期大学、埼玉純真短期大学、埼玉女子短期大学）から21名

7 プログラムの構成・得られた成果

日時・時間	内 容	講 師	得られた成果
9月8日 13:00～13:10	(1) 開会 あいさつ	大野 博之（埼玉県私立短期大学協会会長） 内海 房子（NWE C理事長）	
13:10～13:50	(2) プログラムオリエンテーション（事前アンケートの実施）・自己紹介	佐伯加寿美（NWE C事業課専門職員）	本研修の目的、各人の役割等を最初に明確にし、生活上の諸注意とともに、事前アンケートをとり、キャリア意識を把握した。また自己紹介ワークで、他大学の学生との交流を図った。
13:50～14:50	(3) 講義「もっと素敵にワーキングライフ」	内海 房子	民間企業に入社し、男女雇用機会均等法成立の時代を経て、どのようにキャリアを築いてきたのか、足跡と時代背景を分析しながら学生にメッセージを送った。学生からも質問が活発に出され、キャリア形成への道のりを学んだ。
15:00～16:00	(4) 講義「これからのキャリアを考えてみよう」	大野 博之	「キャリアを考える上で大切なこと」についてその社会的背景等を含め、体系的かつ具体的に学んだ。大学の授業としての当講座の位置づけや、これから始まる3日間の研修への意識づけとなった。
16:20～17:00	(5) 情報収集の手段を学ぶ（女性教育情報センター・女性アーカイブセンター見学）	森 未知（NWE C情報課専門職員）	各センター及び展示室を見学し、今後のキャリアを考える上で力となる情報収集の手段を身につけた。
19:00～20:30	(6) 自己紹介・レクリエーション～「友達を作ろう」～	安倍 大輔（埼玉純真短期大学専任講師）	様々なレクリエーション活動を通して、参加者同士のコミュニケーションづくりを進めることができた。
9月9日 9:00～10:00	(7) 講義「女性のキャリアを考える」	島 直子（NWE C研究国際室研究員）	「ライフコース論」の視点から女性の一生を通じたキャリアプランを考察した。多様化する人生の選択における生きやすさと生きにくさの両面から今後の女性の抱える問題について、考える機会となった。

10:15～14:30	(8) グループワーク「女性のキャリアパスの事例分析」 グループ発表「キャリアの事例分析」	島 直子	結婚や出産などの女性のライフイベントを経ながらも職業をもち続け、地域活動にも積極的に関わった女性の人生をグループごとに分析。自分のこれからのキャリアと重ねながら、活発に議論を交わし、参加者で共有した。
14:40～15:40	(9) 講義・グループワーク 「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」	森 未知	仕事に対する男女の意識やライフコースの希望、組織の意思決定ポジションに就く女性の割合等について学んだ。データを基にクイズ形式で行うことで、より理解が深まった。
15:50～17:20	(10) 卒業生からのアドバイス (キャリア講座)	ゲストスピーカー 栄養：島野 僚子（武蔵丘短期大学講師） 保育：萩原 基雄（鶴ヶ島市立あたご保育園副園長） 保育：森田 直子（武蔵野短期大学附属幼稚園教諭）	大学で学んだことや、卒業後のキャリアとその節目と転機を紹介しながら、後輩へのメッセージを語った。参加者は人生における困難と、それを乗り越えることの素晴らしさ、働くことの楽しさ等を、感じ取ることができた。
19:00～20:30	(11) 「社会人（ビジネス）マナーの基本」	細田 咲江（埼玉女子短期大学准教授）	言葉遣い、立ち居振る舞い、身だしなみ等、社会人として身につけるべきマナーについて、実践的に学んだ。
9月10日 9:00～9:15	事後アンケート記入		理解度をはかるために、事前アンケートと同じアンケート用紙を用い、意識の変容をみた。
9:15～10:10	(12) 講義「キャリアに学ぶ」	藤田 利久（埼玉県短期大学協会副会長）	今後社会に出てキャリアを積んでいく学生に、これから身につけたいことを具体的に挙げ、女性が働く意義について言及した。身近な例を挙げながらの解説に、学生は注意すべきヒントを学んだ。
10:20～11:10	(13) まとめ・振り返り「自分自身のキャリアを考える」	コーディネーター： 佐伯加寿美	3日間の様子をスライドで振り返った後、この講座で学んだこと・気づいたこと等の感想をまとめた。その後、各自の目標に向かって一步踏み出すための明日からの「プチ宣言」を一人ひとり発表した。
11:20～12:00	(14) アンケート集計結果コメント・閉会 各先生からの言葉 修了証の授与 閉会あいさつ	櫻田今日子（NWE C事業課長）ほか 藤田 利久	事前・事後アンケートの分析を行い、参加者の変容についてフィードバックを行ったことは、3日間の研修の成果を振り返ることに役立った。その後、各短大、オブザーバーの先生方から学生へエールが送られ、続いて、一人ひとりに修了証が授与された。

8 事業実施により得られた知見

- ・本事業は6年目の実施となる。NWE Cにおける各課室横断的なチーム編成により、それぞれの課室の知見やノウハウを十分に発揮し、プログラムを効率的・効果的に実施することができた。
- ・学生たちはこれまで、キャリアについて漠然とした不安を抱えながらもあらためて考える機会がなかったことがわかった。この研修により、参加者はキャリアについて学ぶ機会をもち、自分自身のこれからのキャリアについて、具体的に考える機会の提供となった。また、ライフプランニングに対し、前向きに取り組んでいく姿勢をもつことができた。
- ・共催した協会側の取組からも、大学におけるキャリア教育の重要性が認識され、毎年のカリキュラムとして定着したことが感じられた。

9 プログラムの成果

- ・プログラムの事前・事後に同じ質問項目でのアンケートをとることで、学生の変容（考え方、ものの見方、男女共同参画についての理解）をはかった。「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」では「どちらかと言えばそう思う」が減り、「どちらかというと思わない」が増えた。また、「社会全体でみた場合、男女の地位は平等になっている」では「どちらかというと思わない」が減り、「そう思わない」が増えた。「地域や社会をよりよくしたい」では「わからない」が減り、「どちらかというと思わない」が増えた。これらは本講座で日本での男女共同参画の推進についての学びを通して、様々な社会活動や家庭における家事・育児等への参画に対して積極的な気付きを得た結果と言える。
- ・「グループワーク・まとめ」として自由記述では、以下のような感想を得た。
「人によって様々なキャリアがあることに気づいた。男女の格差問題もみんなで考えることが大切だと思った」
「自分のキャリアは自分でつくっていくものだと、改めて気づいた」「結婚して、子どもを産むことが女の人の幸せと勝手に思っていたけれど、この講座で女性も自分を大切に輝いてもいいんだと思った」等、女性の働く環境や現状、女性の社会での位置、固定的役割分担意識などについて、この講座が改めて学ぶ場となった。
- ・個々の気付きを受けて、各人がアクションプラン（プチ宣言）の発表をし、自分自身のキャリア形成の構築を考える時間となった。



講義「これからのキャリアを考えてみよう」



グループワーク「女性のキャリアパスの事例分析」



レクリエーション「友達を作ろう」



修了証書授与

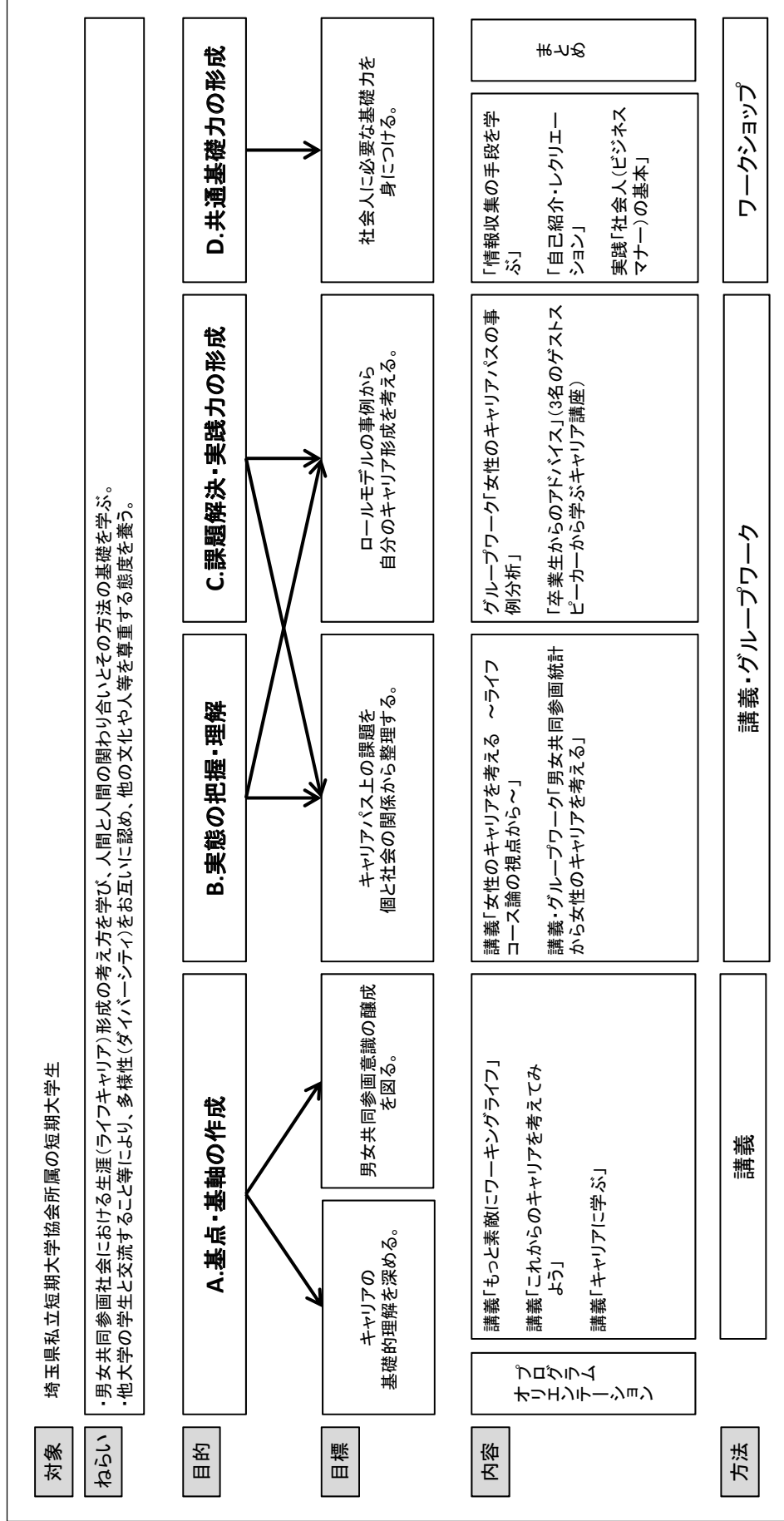
平成27年度「短期大学生のためのキャリア支援講座」プログラムデザイン

【プログラムの特徴】

- ①生涯を見通し、キャリアを考える。
- ②キャリアを時間軸、空間軸で考える。
- ③これからの自分のキャリア形成と現在に必要な準備を考える。
- ④グループワークや実習をとおして共通基礎力を身につける。

テーマ:

「キャリアを考える ～これからの人生を自分らしく生きるために～」



VI ボランティアの受入れ・支援

23 国立女性教育会館ボランティアの活動支援

2 3 国立女性教育会館ボランティアの活動支援

1 趣 旨

(1) 概要

国立女性教育会館では昭和52年の設立以来、利用者及びボランティア自身の多様な生涯学習を促進するとともに、利用者への質の高いサービスの提供と、他機関・団体等との連携協力のための活動としてボランティアを受け入れている。平成28年3月現在の登録者数は55名（女性49名、男性6名）である。

国立女性教育会館におけるボランティア活動は、国内外からの会館利用者に対し、効果的な事業運営への協力、利用者の立場に立った支援、国立女性教育会館事業の広報、生涯学習活動の推進等に大きな役割を果たしている。

(2) 活動の方針

「国立女性教育会館ボランティア」とは、利用者及びボランティア自身の多様な生涯学習を促進するとともに、利用者への質の高いサービスの提供と、他機関・団体等との連携協力のための活動を行う者を言い、下記の方針によりボランティアを受け入れている。

- ① 利用者の多様なニーズに対応し、事業運営の活性化を図ることを目的として、責任あるパートナーとしてボランティアを受け入れる。
- ② 利用者への質の高いサービスを目指すため、会館資源を活用した自主的な活動を行えるよう支援する。
- ③ 会館におけるボランティア活動の成果を地域・社会へ普及・還元できるよう支援する。

2 事業の実施概要

(1) ボランティアの活動内容

ボランティアに協力を依頼する活動は、ボランティアからの申出及び利用者からの要望を基に、会館が決定している。

なお、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの延べ活動数は、総計954回であった。活動区分別内訳は、以下のとおりである。

- ① 主催事業・国際交流（主催事業の受付等）（計228回）
- ② 受入（利用者への施設見学案内、地域との連携等）（計78回）
- ③ 情報（女性教育情報センターでの新聞・パンフレットの整理・ファイル等）（計128回）
- ④ 環境整備（施設の修繕、本館ロビーの雛飾り・七夕飾り等）（計229回）
- ⑤ 広報（「ヌエックニュース」郵送希望者の受付・発送）（計0回） ※現在、休刊中
- ⑥ その他（計33回）
- ⑦ 自主活動（計258回）

(2) ボランティア連絡会議

平成27年度は、以下のとおり3回（6月、9月、3月）の連絡会議を開催した。各回とも、新規登録者には、事前に「国立女性教育会館のボランティア活動」についての説明を行った。

各回とも、ボランティア自身の男女共同参画やボランティアの本質への理解、地域活動への広がりを進めるために、情報提供、会館ボランティアによる時間を設定した。

【第1回】日時：平成27年6月25日（木）14：00～16：00

参加者：29名 新規登録者0名

主な内容

- ・新任職員の紹介
- ・各課室より平成27年度に協力を求める事業について説明
- ・PFI事業の実施について
- ・会館ボランティアによる時間

「平成27年度男女共同参画推進フォーラムでのボランティアの活動について」

進行：高橋 由紀 NWE C事業課客員研究員

【第2回】日時：平成27年9月4日（金）14：00～16：00

参加者：19名 新規登録者0名

主な内容

- ・情報提供
『宇宙をめざす ～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～』
アーカイブ展示室企画展への取組と情報課の取組
講師：山崎 裕子 NWE C情報課係長（併）専門職員
- ・会館ボランティアによる時間
「平成27年度男女共同参画推進フォーラムでの活動実施報告と反省」
進行：高橋 由紀 NWE C事業課客員研究員

【第3回】日時：平成28年3月18日（金）14：00～16：30

参加者：30名 新規登録者1名

主な内容

- ・研修
「施設案内を見て、会館を知る」
進行：小井川 聡 NWE C事業課専門職員
- ・情報提供
「NWE Cの事業展開についてと今後のボランティアの方向性」
講師：櫻田今日子 NWE C事業課長
- ・会館ボランティアによる時間
「今年度の活動の振り返り」
進行：小井川 聡 NWE C事業課専門職員
- ・新年度のボランティア登録について

(3) ボランティア活動研究会

① 趣 旨

国立女性教育会館で実施されるボランティア活動の事例発表や情報交換を通して、ボランティア活動の状況や課題を理解するとともに、活動の充実に向けた具体的方策や内容を協議し、国立女性教育会館ボランティア活動の充実・発展、並びにボランティアの資質の向上と連携の促進を図る。

② 日 時：平成27年12月18日（金）14：00～16：15

③ 参加者：29名 新規登録者3名

④ 場 所：国立女性教育会館ミーティングルーム

⑤ 内 容：講演会

演題：「男女共同参画はどこまで進んだか ―女性差別撤廃条約批准30周年にあたって」

講師：矢澤 澄子 氏

(4) 主にボランティア主体の利用・サービスの充実に向けた取組

① 平成27年度「男女共同参画推進フォーラム」

・実施日：平成27年8月20日（木）～22日（土）

・実施内容

ア 「さんかくの広場」

・情報交換、出会い、憩いの場として実技研修棟にて飲み物の提供を行った。飲み物の売り上げによる収益は東日本大震災の被災地への寄附金とした。

イ 「野の花を飾る」「一期一会のおもてなし」

・本館、講堂、さんかくの広場会場等、館内各会場に花を飾り、響書院を会場としたお茶会で一服のお茶を賞味いただく等、研修参加者へのNWE Cからのおもてなしの心を表現した。

ウ 「交流会の進行」

- ・ 2日目夜に実施された交流会にて、司会進行や運営補助として関わった。
- エ 「ヌエック・マルシェ」
 - ・ 東日本大震災復興支援をテーマに、研修棟1階ラウンジで活動した。売り上げは、運搬経費を除いて被災地への寄附金とした。
- オ 「モーニング・アクティビティ」
 - ・ 2日目、3日目の朝に、散歩を兼ねて会館の設立、目的、事業などについてガイドするとともに、ストレッチ体操を行った。
- カ 落ち葉の押し葉を使った作品づくりと万葉植物の観察
 - ・ 会館敷地内の落葉広葉樹、万葉の植物の落ち葉の押し葉を使った作品づくり、万葉植物の観察を行った。また、地元比企地区の紹介として、小川町の和紙についての説明、仙覚あめの試食、ときがわ町の秋海棠（シュウカイドウ）の切り花、苗木の配付を行った。

② 平成27年度「嵐山さくらまつり 夢さくら 展望ツアー」

- ・ 実施日：平成27年4月4日（土）、5日（日）
- ・ 実施内容

「嵐山さくらまつり」（主催：嵐山さくらまつり実行委員会・嵐山町商工会）への協力事業として、「国立女性教育会館展望ツアー」を実施した。会館ボランティアが、都幾川沿いに2キロメートルにわたって植えられた252本の桜並木の眺望を、宿泊棟の屋上から案内した。2日間の参加者は165名であった。

5日（日）には、響書院にてお茶会も開催され、約100名の参加者が一服を楽しんだ。



花壇の花の植え替え



NWECフォーラム・さんかくの広場掲示



NWECフォーラム・交流会の進行



嵐山さくらまつり・さくら展望ツアー

(5) 社会教育功労者表彰受賞

国立女性教育会館ボランティア小川かつ江さんが、文部科学省が所管する独立行政法人における社会教育活動に功労のあった者を表彰する「平成27年度社会教育功労者表彰」を受賞した。

国立女性教育会館ボランティアとして、利用者への交流の場の提供や主催事業の運営に関する支援、地域へのボランティア活動など、様々な活動が続けてこられたことに対し、長年の活動が評価されたものである。



<参考資料>

独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成27年度）

独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成27年度）

平成27年3月23日
文部科学大臣へ届け出

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規程により、独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成23年度3月31日文部科学省大臣認可）に基づき、平成27年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上

(1) 基幹的指導者に対する研修等の実施

- ①地域における男女共同参画リーダー研修（女性団体施設、地方自治体、団体）
 - ・全国の女性関連施設の管理職、男女共同参画行政責任者、女性団体のリーダー等を対象に、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとして必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワークの活用等を内容とする高度で専門的、実践的な研修を実施する。
 - ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。
 - ・研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の80%以上からプラス評価を得る。
 - ・参加者の地域的なバランスを促進するため、計画的な取組を行う。
- ②男女共同参画推進フォーラム
 - ・行政・企業・大学・NPO等の組織における男女共同参画推進担当者、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画に関心のある者を対象に、男女共同参画のための意識変革、女性活躍促進、女性のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス等の課題解決に資するための研修を実施するとともに、分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を図る。
 - ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。
- ③大学等における男女共同参画推進セミナー
 - ・大学、短期大学、高等専門学校における意思決定組織に所属する教職員、男女共同参画推進部局の責任者等を対象に、男女共同参画意識の学内への浸透方法、女性研究者支援、女性リーダーの養成方策、男女共同参画社会の実現に向けた女子学生キャリア形成支援を内容とする高度で専門的、実践的な研修を実施する。
 - ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。
- ④企業を成長に導く女性活躍促進セミナー
 - ・企業における人材活用の推進者、管理職、チームリーダー等を対象に、企業内の男女共同参画及び女性の活躍を促進するための実践的なセミナーを実施する。
 - ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

(2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム、研修資料の作成

①女性関連施設に関する調査研究

- ・女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、人材育成、災害復興時における男女共同参画の視点等、新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の5年次として、全国の女性関連施設が取り組む事業や組織形態に関する実態調査を実施し、報告書を作成する。
- ・作成した資料を用いた研修について、事後に実施するフォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

2. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラムの開発・普及

(1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施

①若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究

- ・生涯を見据えた早期からのキャリア形成支援を、男女共同参画の視点に立って行うための方策を探ることを目的とした調査研究を実施する。
- ・2年計画で行う調査研究の2年次として、大学・大学院を卒業後、正規職に就いた男女を対象とする意識調査を実施する。

②男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究

- ・女性のキャリア支援に関し、教育・学習支援の対象や内容、メディアを活用した手法等について検討することを目的とした調査研究を実施する。
- ・2年計画で行う調査研究の1年次として、放送大学等との連携で作成するオンラインコンテンツの内容等を検討し、教材を作成する。

③学生を対象としたキャリア教育の推進

- ・大学等におけるキャリア教育の充実に資するよう、学生を対象としたキャリア教育プログラムを開発し、大学等と連携して実施する。
- ・参加者の85%以上から学習プログラム・研修資料に関するプラス評価を得る。

(2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修

①女性関連施設相談員研修

- ・女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談業務の質の向上を図るため、女性に対する暴力や女性の貧困など、喫緊の課題解決に必要な知識・技能習得のための、専門的・実践的な研修を行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得る。

②行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

- ・社会が抱える様々な喫緊の課題を解決するために、行政や関係機関等が実施する研修について、これまで会館が実施してきた研修の経験や女性教育、男女共同参画等に関する専門的知識を活かし、連携して実施する。
- ・平成27年度は、科学技術振興機構の委託を受け、女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えることを目的として「女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会

い～」を実施する。研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得る。

③教育・学習プログラム実施に関する支援

- ・研修プログラムの内容や調査研究の成果を、ホームページなどを通じて広く公開し、男女共同参画に関する事業を実施する関係機関等の参考に資する。
- ・男女共同参画をテーマとした研修等を実施する女性センター等への支援として、企画・実施に係る資質を向上させる学習の機会を提供するとともに、講師紹介などのサービスを実施する。また、男女共同参画人材情報データベースの掲載情報を充実させる。

3. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等

(1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供

①男女共同参画統計に関する調査研究

- ・『男女共同参画統計データブック2015』の内容、提供方法を見直し、利用しやすい男女共同参画統計データ集について検討する。
- ・「統計リーフレット」を刊行する。
- ・男女共同参画統計を理解するための研修資料を対象別に作成する。
- ・統計調査の成果等を提供する「男女共同参画統計ニュースレター」の配信先を2,000件まで拡充する。

②調査研究成果の普及

- ・基幹的指導者の資質・能力の向上及び喫緊の課題をテーマとして実施した調査研究の成果について、ホームページやリポジトリ等を通じて普及する。

(2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供

①情報資料の収集・整理・提供

- ・男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書について、地域レベルでは収拾困難な広域的、専門的な資料を収集するとともに、レファレンスサービス、文献複写サービス、図書資料の展示などによる情報提供を行う。
- ・引き続き大学の男女共同参画推進部署が発行する資料の収集を進めるとともに、企業の男女共同参画、ダイバーシティ推進に資する資料の収集・提供に力を入れる。
- ・研修受講者への学習支援を強化するため、研修テーマに沿った資料リストを女性情報ポータル(Winet)に掲載するなど情報提供を充実させる。
- ・平成26年度より新規に開始した調査研究事業「若年男女のキャリア形成支援に関する意識及び支援に関する調査研究」と連動し、関連する国内外の資料を収集して、会館ホームページでリストを公開する。

②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実、利便性の向上

- ・女性情報ポータルのアクセスについて、年間30万件以上を達成する。
- ・会館ホームページに掲載する情報の整理、見直しを行うため、女性情報ポータルコンテンツの一つで、インターネット上の有用な資源への検索システムである「女性情報ナビゲーション」の分類項目の整理、リンク先情報の見直し等を行い、情報をより

分かりやすく提供する。

③ 図書のパッケージ貸出

- ・各施設における男女共同参画事業を支援するため、テーマ毎にパッケージ化した図書の貸出を引き続き実施するとともに、高等専門学校への貸出を拡大する。

(3) 女性アーカイブ機能の充実

① 女性アーカイブ機能の充実

- ・歴史的価値、研究資料的価値を有する女性関連史・資料を1千点以上収集・整理し、女性アーカイブシステム及び女性デジタルアーカイブシステム、展示を通じて利用に供するとともに、インターネットを通じて広く一般に公開する。
- ・災害復興支援に各地の女性センターが果たした実績（活動記録）を女性アーカイブとして残し、公開する事業「災害復興支援女性アーカイブの構築」を、女性センター等と連携・協力して引き続き行う。
- ・展示室への入室について、累計5万人以上を達成する。
- ・女性アーカイブの企画展を他機関と連携して実施する。また、連動企画も併せて実施する。

② 女性情報アーキビスト養成研修

- ・女性アーカイブの保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初的一步として、実務者30名以上を対象に基礎情報を提供する「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）」を実施する。
また、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進する。
- ・基礎コースの修了生10名を対象に、女性アーカイブの保存や整理に必要とされる基本的実技を学ぶ「女性情報アーキビスト養成研修（実技コース）」を実施する。

4. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等や関係府省との連携協力の推進

(1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

- ・女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する情報交換を行うとともに、7以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。
- ・全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、職員や客員講師を派遣する。

(2) 関係府省との連携強化

- ・各関係府省との連絡会を開催し、各府省の取組等の情報を共有するとともに、各種事業を実施する際には、関係府省から、企画についての助言や施策説明等による参画、広報面での協力を得るなど、具体的な連携を充実させる。

(3) 交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築

① 男女共同参画推進フォーラム【再掲】

- ・行政・企業・大学・NPO等の組織における男女共同参画推進担当者、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画に関心のある者を対象に、男女

共同参画のための意識変革、女性活躍促進、女性のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス等の課題解決に資するための研修を実施するとともに、分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を図る。

- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

5. 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進

(1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力、連携に資する研修の実施

①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

- ・開発途上国等において男女共同参画の政策策定ならびに政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者及びNGOのリーダーを対象に、女性の能力開発に係る喫緊の課題をテーマとした参加型の実践的なセミナーを行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の90%以上からプラス評価を得る。
- ・研修修了生等による出身国での成果の活用についての調査を行い、同調査の結果等を踏まえ、研修の効果的な実施の観点から、研修内容等の見直しを行う。

②国際協力機構との連携による研修

- ・国際協力機構が実施する開発途上国の行政職員等を対象とした研修について、男女共同参画、女性教育に関する専門的な観点から連携して実施する。

③NWE C国際シンポジウム

- ・女性の人権やエンパワーメントに係る地球規模の課題をテーマに海外の専門家を招へいするNWE C国際シンポジウムを開催し、地球規模の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者・女性団体等指導者との交流を深めるとともに、意見交換を行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

(2) 国際的なネットワークの構築

- ・研修修了生等に対し、研修終了後の定期的なメール送信や議論の呼びかけを通じネットワーク構築を図る。
- ・研修成果について、「男女共同参画推進フォーラム」におけるパネル展示や英文報告書の会館ホームページへの掲載等の方法により国内外に普及する。

6. 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進

(1) 利用者への学習支援

- ・施設を利用する団体・グループ・個人が企画・実施する研修等のプログラムについての学習相談を受け、研修プログラム作成を支援する。
- ・会館が有する専門性を活かして男女共同参画や女性教育に関する学習機会を提供する。
- ・インターネットで提供する学習教材について、引き続き試験的に提供を行うとともに、体系化された学習プログラムのインターネットを通じた配信やオンラインやメディアを活用した研修の在り方について、外部機関との連携を深めつつ検討する。

(2) 利用の拡大

- ・利用拡大戦略（年度）を作成し、連携機関や大学、企業等を含む関係者に対する広報

を行うなど、P F I 事業者が取り組む利用者拡大への支援を行う。

(3) 国民への情報発信

- ・会館ホームページに掲載する情報の整理、見直しを行うため、女性情報ポータルコンテンツの一つで、インターネット上の有用な資源への検索システムである「女性情報ナビゲーション」の分類項目の整理、リンク先情報の見直し等を行い、情報をより分かりやすく提供する。【再掲】

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 適切な法人運営体制の充実

(1) ガバナンス・内部統制の充実

- ・原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、会館が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。
- ・職員の業務遂行に関する資質・能力の向上を目的とした研修を実施する。
- ・リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。
- ・会館の業務の有効性・効率性、法令の遵守、財務会計の透明性等の観点から職員全員を対象としたモニタリングを実施するとともに、結果については役職員に周知し、必要に応じて組織運営の改善に反映させる。
- ・外部の有識者及び関係府省からなる「国立女性教育会館運営委員会」を定期的で開催し、会館の事業計画及び実施状況等について協議を行い、「国立女性教育会館運営委員会」から理事長への助言を受け、事業運営を行う。
運営委員会の委員の改選時には、幅広い視野から協議・助言を実施するため、委員候補について関係府省に推薦を求める。

2 人件費・管理運営の適正化

(1) 人件費・管理運営の適正化

- ・政府における総人件費削減の取組を踏まえた見直しを行う。
- ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。

(2) 保有資産の見直し

- ・保有資産について、運営会議等において見直しの検討を行い、外部評価委員会等において検証する。

3 業務運営の改善

(1) 業務運営の改善

- ・効果的・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い、業務運営に反映させる。
- ・外部委託する等、事務事業の効率化を検討するとともに、必要に応じて組織の再編等を行う。
- ・平成27年度から、利用者の増加とサービスの向上等に向け、宿泊・研究施設等の管理運営についてP F Iを導入する。

(2) 人材育成、多様な人材の活用

- ・ 職員の資質・業務遂行能力の向上に資するため研修を実施する。
- ・ 関係機関・団体との人事交流や客員研究員等外部人材の活用など、多様な人材を確保することにより、組織を活性化する。

4 業務運営の点検・評価

(1) 自己点検・評価等による業務の改善

- ・ 自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。
- ・ 自己点検と連動した外部評価を実施する。
- ・ 評価結果をホームページで公表する。

Ⅲ 予算・収支計画及び資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な運営を行う。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営する。

- 1 予算（人件費の見積もりを含む。）
別紙1のとおり
- 2 収支計画
別紙2のとおり
- 3 資金計画
別紙3のとおり

Ⅳ 財務内容の改善に関する事項

(1) 契約の点検・見直し

- ・ 引き続き、入札可能な契約案件については一般競争入札を実施する。
- ・ 一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、可能な限り一者応札の削減を図るとともに、契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施する。

(2) 外部資金の導入

- ・ 科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受入れを行い、外部資金を確保する。

(3) 自己収入の拡大

- ・ 宿泊室利用率の向上等により、自己収入の拡大を図る。
- ・ 会館の活動について、広報実施計画（年度）を策定し、会館の利用促進を図る。

V 短期借入金の限度額

- ・短期借入金の限度額は1億4千万円。短期借入金が想定されるのは、運営費交付金の受入りに遅延が生じた場合である。

VI 余剰金の使途

- ・会館の決算において、余剰金が生じたときは、研修事業、情報事業、調査研究事業の充実に充てる。

VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

(1) 情報セキュリティ体制の充実

- ・セキュリティポリシーに関する職員研修を実施する。

(以上)

平成27年度予算

(単位:百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	540
施設整備費補助金	144
入場料等収入	129
受託収入	5
計	818
支出	
業務経費	360
うち研修関係経費	268
うち調査・研究関係経費	31
うち情報関係経費	61
施設整備費	144
受託経費	5
一般管理費	309
計	818

[人件費の見積り]

平成27年度は187百万円を支出する。

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、退職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

平成27年度収支計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
費用の部	
經常費用	738
業務費	365
一般管理費	364
減価償却費	9
財務費用	
臨時損失	
収益の部	
運営費交付金収益	531
入場料等収入	129
受託収入	5
施設費収益	64
寄附金収益	
資産見返運営費交付金戻入	9
資産見返物品受贈額戻入	
純利益	
目的積立金取崩額	
総利益	

[注記]

当該法人における退職手当については、独立行政法人国立女性教育会館役員退職手当規程及び独立行政法人国立女性教育会館職員退職手当規程に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される全額を運営費交付金に加算する。

平成27年度資金計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
資金支出	
業務活動による支出	738
投資活動による支出	80
次期中期目標の期間への繰越金	-
資金収入	
業務活動による収入	
運営費交付金による収入	540
入場料等収入	129
受託収入	5
投資活動による収入	
施設費による収入	144
前期中期目標の期間よりの繰越金	-

平成27年度施設・設備に関する計画

施設・設備の内容	予定額 (百万円)	財源
機能性向上改修 排水処理施設の改修	144	施設整備費補助金 (平成26年度繰越分)
計	144	

[注記]

金額については見込みである。

なお、上記のほか、業務の実施状況等を勘案した施設整備が追加されることがあり得る。

平成 27 年度 独立行政法人 国立女性教育会館（ヌエック）

主催事業等実施報告書

—平成 28 年 12 月—

○編集・発行

独立行政法人 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

TEL.0493-62-6719 FAX.0493-62-6722

e-mail webmaster@nwec.jp <http://www.nwec.jp/>

○製本・印刷 株式会社石井印刷



古紙配合率 100%再生紙を使用しています

平成27年度 独立行政法人 国立女性教育会館

主催事業等実施報告書



NWEC